

502
74

9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10¹⁹ 1 2 3 4 5

始



502-74



失業者問題の研究及經濟政策

ホブソン著
遊佐敏彦譯

一九二二年版



原著者序

近代英國經濟學研究は概ね枝葉に走る傾向がある。細末の事實を貫く更に全一的な大項目、大原則は無視して顧みない。之れ失業問題の攻究が甚大の苦痛を嘗め來つた所以である、一般法則は漠然として根據がない。爲めに其研究は五里霧中に彷徨すると云ふ。産業の研究問題は色々あつても之れは餘りに酷い。そこで事實の蒐集、分類には史實へ遡つて緻密に調査する必要が認められて來る。此事業を有効ならしめる爲め、失業問題の種類と原因を若干に分類し、之れを個々獨立に攻究し批判するが宜い。失業問題の扱方はだから常に分叉して來る。熟練労働と不熟練労働、強壯者と無能力者、日傭労働者の失業と過剩労働、農村労働と都市労働などである。更に又、職業には夫れ／＼失業の特色があつて、其原因にも季節的變動があり、一般的變動がある。

多數の事實を捉へて此断片的の研究を施す必要は認める。併し失業問題は唯一個の問題である。一般に唱へられる如き多數の失業問題があるのではない。多數の問題を各自其特殊の若干事實に基き全然獨立した取扱方をして、廣く大きな一般法則に結付けるに及ばぬとよく云ふ人がある。之れは

間違だ。

渾然たる一個の大問題を斯うして兎角細かに切り訶む傾向がある。分たれた部分は次第に數を増す計りで、段々と了解が出来なくなる。實地改革事業は手も足も出ない。實に危険千萬の話である。著者は本書に於て失業問題に眞に統一のある事を示すのが目的である。今日既に探知せられて居る事實の中に、此統一は明瞭に認めることが出来る。部分的處理をすればこそそれが止むを得ず姿を隠すのだ。失業に助成的小原因が無いとは云はぬが、失業問題は要するに事業界不景氣の一現象である。と斷言せむ事を私は主張する。又更に事實を解析して、不充分なる消費が此産業痼疾の直接なる經濟的原因であるとの斷定をも主張する。生産量と生産品の性質、之れを直接決定するに生産者の豫測と鼓吹の影響も多少は有るだらう。併し主として之れに與るものは消費者實地の需要である。然るに其承認を拒む處から、産業組織に就いての英國の學説は何時まで経つても根柢からの誤が訂されない。

消費不充分則ち失業であるとするには、勢ひ、生産力に伴はぬ消費状態が文明國產業界の一般的現象であることを説明せねばならぬ。それは斯うだ——色々の原因があつて、消費力分配が妨げを受ける、人々は力めて無勞働所得要素を資本化する、其資本が現在消費の慾求を満たすに必要とする

る限度を超過すると云ふ風になるのだ。

事業界不振の現象に斯うした經濟的解釋を下すは根本義に於て何も新らしいものではない。若干の經濟學者、殊にローダデルやマルサスは早くから此現象に正々堂々の解説を與へたが、之れに對して一人の論駁を加へ得るものがなかつた。然るに其堂々の論旨も世の容るゝ處とならない。それは論旨を非とするのでなかつたからである。之れに結付けた意見と實行的提唱を拒絶したのである。夫等は實際餘りに誤解を招き易い、若くは有害なものであつた。そこで世人は資本と貯蓄に對する非論理的な矛盾した定義を鵜呑みにして、貯蓄なるものゝ機械的作用を實地に研究することを忽にした。英國經濟學者にも一般的生産過剰が職業界不振の時期に姿を現はすのを明かに目撃することは出来る。それで居て、彼等の多くが從來之れに科學的承認を與へ兼ねる所以は此處にある。最近此問題を論じた英米數種の著述は、遺憾にも未だ世人の充分な考慮が與へられて居らぬ。現代現象たる文明社會の勞働不振に向つて明瞭に有力に此解釋を與へた最先きの人は、米國では、ボストンのユリエル・クロカア氏だ。就中氏最近の著述『不景氣の原因』は此論旨を最も徹底的に、最も簡易に叙述したものである。ゼー・エム・ロバートソン氏著『貯蓄に對する謬見』は本問題の主要なる一面に有力な解釋を下して、不當な若くは「賢の」貯蓄は過度の資本を設定せむとする無益な努

力より來ると説いて居る。私も亦數年前故エー・エフ・ママリ氏との共著「産業生理學」中此方面の考察に幾多論争の餘地の有することを説いた。尙若干の著書でアダム・スミスの吝嗇説、ゼー・エス・ミルの資本論の誤謬を大分無遠慮に指摘した向きもある。尤も中には彼等の批判が如何にも個人の節儉なる好習慣を輕視する様な氣がする處から、時として其銳鋒の鈍るのが見られる。併し本來彼等の攻撃して居る處は其點では無い。之れに拘泥するのは「個人貯蓄」と「社會貯蓄」の關係が本當に掴めて居ない證據である。斯んな風で彼等の議論は本だ英米大方の經濟學者の注意を惹かない。矢張ゼー・エス・ミルが組織的に述べた、そして後に彼自身骨抜きにした資本論が頼りにされる他愛なさである。歐大陸の主要な學者の若干は此新らしき立場を概ね是認して居る。併しそれは既に論争の弾力性を失つたものと勝手に極めて、今更之れを繰返して論議することは眞平だといふのである。

著者は其立場を再び説かむとするものである。之れをなすには特に「失業」なる實際問題に就いて行はむとするのである。又其中心思想として「消費不充分」に重きを置かむとするものである。斯うすれば在來の著述と異なり、誤解を招かずに済むだらうと思ふ。本書に於ては、失業なるものは消費力（經濟的地代及び過當な利得の要素等に内存する）の分配の拙劣より來る、自然的な又必

然的な結果であると説明する。此解釋は社會進化論に於て明かに特殊の地歩を占むべきことを確信する。後半に於ては、救濟策の眞の原則を發見し、且應用せむことに努めた。即ち一は、消費増進の原則を實現すべき經濟政策の梗概、他は一般の注目を惹ける若干の通俗的救濟手段云はゞ綻縫策の科學的吟味である。

(一)例へばアール・エス・モファット氏「消費の經濟」、フランク・フェヤマン氏數種の小冊子。ヘルツカ博士「フレイランド」。尙同博士「現代資本主義の進化」を見よ。

譯者序

ホブソン氏の「失業者問題」は斯界の名著である。しかも氏が失業者に對するデリケートな觀察は、他の數多の著書中最も優秀なものであると思ふ。今から十年前、東京市から吐き出す紙屑が毎日五百貫づつ集まつて來る、日暮りの貧民窟に這入つて居た頃、貧民生活の中で、金融機關の不備から充分無理な金の算段と、失業から來る最も悲惨な事實が、貧民生活から縛り付けてゐる事を見せつけられたのである。社會問題の上から職業の事に就て讀み初めた時に、一番先に手に入つたのがこのホブソン氏の著書で、其當時「Unemployment」なる語が、「失業」と譯すべきが躊躇した程であつた。今は失業なる語は最も普通に使はれてゐる様になつた。併し私は這ふ考へた。一體日本で「失業者問題」などが、社會問題として論議される事は何時のことだらうと思つて見た事があつた。

それがら數年過ぎ、大正六年歐洲戰亂が關な時に、神戸で兵庫縣救濟協會なるものを設立して、戦後社會問題として來るべき問題について研究し、失業救濟の施設として職業紹介事業を經營しや

うと決定した。この縣當局が斯ふした施設するに及だのは我國で最も早いものであつた。

その經營者として研究して呉れと頼まれ、私を日暮里の貧民窟から引張出したのが賀川豊彦兄であつた。それから該事業の經營の手引資料となるものに困難したが、ホブソンやビバーリッチ氏の著書等が最も有力なもので、職業紹介所を開始するまでに漕ぎつけたのが太正七年の春であつた。それから口入屋の主人になりすまして幾多の試練を受けたし、數千の失業労働者の心と心に觸れる事が出来た。

時代は駁々として進轉し、労働問題も通過すべき道程を辿つて、終ひ失業問題の深刻點まで刊達した。我國に於ても昨年以來失業者の社會運動も見られる様になつて來て、回顧すれば感慨に堪えないものがある。

今や労働者の失業の脅威は海外の問題でなく、我が國の重大なる社會問題として提供された。我國の失業者問題の文献の乏しのに對して、この著書を紹介することは決して無駄でないと信ずる。但し譯者の生硬な文が、著者獨特の筆致をけがすことを感るものである。

ホブソン氏の觀察が經濟策を主とし、失業の細密な事情を捉へて説明してゐる處は、實際に此問題を取扱つた者は誰も氣の付く特徴である。

此譯書が失業者に同情ある特志家に一讀を賜ふならば、實に譯者幸福之に過ぐるものはない。この譯を完成するために友人名原廣三郎君英義雄君の御盡力受けた事を茲に感謝する次第である。

大正十一年三月

譯者

譯者序

失業者問題の研究及經濟政策目次

第一章 失業の意義

- 一 勞働力の徒費としての失業、二 季節的職業より生ずる失業、三 冬期の緩慢は失業か、四 勞働徒費の社會的評價、五 不景氣による失業、六 失業に就ての當局の意見の概要、七 失業者の意味をもつと擴大する方が正しい。

第二章 失業統計

- 一 缺陷ある一般統計、二 勞働組合の平均率、三 勞働者に報告する職業、四 失業せる組合員の全數不明、五 勞働組合の至要目的は失業を避くるにあり、六 非組合員は更に多數、七 團體組織無き職業の失業者、八 熟練對不熟練職業、九 失業者の二方面、一〇 職業勞働紹介所の證明、一一 製造業に於ける徒費、一二 職業分布と失業、一三 運輸及公共事業に於ける失業、一四 該問題の概観、一五 失業

者の上流階級、一六 細民の勞働徒費

補記 職業紹介所の記録に於ける失業……………三四

第三章 失業は増加するか……………三八

- 一 近代趨勢と就職の不安定、二 市場の擴大、三 近代産業の投機的性質、四 趣味と流行との影響、五 勞働の轉換下一般對特殊能力、六 勞働の分化は製造工業に於ける就職の保證を與ふる乎、七 他の産業に於ける勞働の轉換、八 職業を失ひし勞働者が轉職し得るか

第四章 失業の小原因……………五〇

- 一 失業問題と個人道德論、二 個性論者誤謬の真相—失業者と決定する品性、三 機械と失業の關係、四 小原因の評價—大原因は不景氣、五 短期變動と長期變動、六 同盟罷業は失業の原因か、七 必要な勞働及必要な資本と土地、

第五章 失業の根本原因……………六二

- 一 失業問題斷片的研究の誤謬、二 統一ある系統的研究の必要、三 問題の中心と生産力の一般的過剩、四 經濟學者の三段論法、五 生産過剩の眞意義、六 當局の是認する一般的過剩と勞働調査會の檢證、七 近代産業史に現はれたる例證、八 生産力の發達に伴はざる消費力、九 分配者の不生産的なる増加、一〇 小賣商人の異常なる増加、一一 分配力空費の諸原因、一二 分配浪費と製造浪費の様式に別ある所以、一三 消費力は必ず凡て使用せらるるとの説の誤謬、一四 消費慾果して生産唯一の動機であるか否か、一五 凡ての「貯蓄」は資本勞働の需要を増加し得るか、一六 各種資本の過剩は事實存在するものだ、一七 公益となる資本は理論上制限がある、一八 資本過剩は如何にして生産を阻止するか、一九 貯蓄が消費減退を促さぬと云ふのは詭辯、二〇 有限の社會貯蓄と無限の個人貯蓄、二一 個人の利益が資本の社會的浪費を來たす経路、二二 個人經濟と社會經濟の別、二三 國家は社會ではない、二四 消費減退の動機と消費の自然法則、二五 資本過剩は「自然」收入の結果

である、二六 個人節約の有様なるを是認す。

附録乙 消費減退が勞資需要に及ぼす影響……………一〇五

第六章 經濟的救濟策……………一二二

- 一 消費力分配の改善、二 社會政策の執るべき道を「自然」收入に對する課税、三 課税を受くべき「公衆財産」の種類、四 勞働階級の増給運動、五 消費の増加は貯蓄増加を有効にする、六 時間短縮が消費に及ぼす影響と、生産高に變化なき場合、七 時間短縮によつて生産高を減ずる場合、八 時間短縮の損失を利得から支出する場合、九 時間短縮の「損失」を物價の値上げによつて支出する場合、一〇 海外との競争が利得と物價を下落せしめる場合、一一 休養時間の増加は消費増進の一條件
- 一二 「消費増進」政策の摘要、一三 此政策は社會に取つて危険無し。

第七章 復本位制と不景氣……………一二六

- 一 營業の二方面—産業的と經濟的、二 物價が下落したら如何するか、三 貨幣論

は無法なる一足飛びに「不景氣」を説明せんとする、四 復本位制は消費増進によつて始めて物價を騰貴せしめる事が出来る、五 物價下落の原因は供給増加が需要制限か、六 ソーエルベック氏物價指數の吟味、七 「信託」の缺乏は根本原因でない、一徵候のみ、八 生産費軽減必ずしも物價下落を來さずとの説は誤れり、九 物價下落の原因として貨幣の立場如何、

第八章 失業綻縫策……………一四五

- 一 縫策の吟味—綻縫策によつて消費増加が出来るか、二 職業交換所としての勞働紹介所、三 小浪費の驅除、四 仕事増加策の種々、五 勞働殖民地刑罰的條件、六 細民救助の農業殖民地、七 チャールス・ブース氏案「乙階級」救濟の勞働殖民地、八 「社會的排水」工事實施の困難、九 獨逸・和蘭の自由勞働殖民地、一〇 スタン・スワイトノ試験的殖民、一一 ハドレイ其他の教育殖民地、一二 メーカー氏の教育並びに農業殖民地計畫、一三 勞働殖民地に要する經濟的豫防策、一四 過剰生産品處分の困難、一五 植林事業計畫、一六 農作勞働増加の手段として聯合小作地の設

立、一七 聯合小作地計畫の説明、一八 共同借地の協力的要素、一九 經濟的批判
 一 國家對世界政策、二〇 農業復活の利益は主として労働者の所得たらしめよ、二一
 第二義職業即ち復業の提唱、二二 公共事業、個人事業に於て仕事の分配を健全に
 する方策、二三 公共救濟事業の解説、二四 救濟事業の守るべき經濟的條件、二五
 公共的産業と職業の正解と誤解、二六 綻縫策に安んずるの危険、

目次終

失業者問題の研究及經濟政策

ホブソン 著
 遊佐敏彦 譯



第一章 失業の意義

一 労働力の徒費としての失業

「失業」と云ふ語は恐らくは最も曖昧な語であつて現代産業社會の研究者を困惑せしむる言語の一つである。この曖昧さの爲に失業なる語は甚だしく濫用されてゐる。善意の、然し妙しく燥念な社會改良家は此の語の意義を餘りに擴大し過ぎる。然るに専門的經濟學者や統計學者はその反對に出る。即ち或る種の職業の本性に原因する一時的休業及び生産方法の變更に基く一時的休業と云ふ

第一章 失業の意義

こと以上に失業問題と稱すべきものは殆ど存在しないとまで主張する。

失業てふ産業上の痼疾の性質及び範圍を明瞭に理解せんが爲には先づ失業問題の中で人心に最も強く衝動する個人的方面を説かないで、社會的見地から考察した「勞働力の徒費」としての失業と云ふことを説かねばならない。この行き方はチャールズ・ブース氏が「過剰者の總數は失業者の眞の尺度である」と主張する立場と嚴密に一致すると云ふ利益がある。

先づ我々が明かにしなければならぬ事は、或る時に職を離れてゐる人々の種々なる階級は何の程度までが過剰即ち勞働力の浪費と見做すべきものであるかどうかと云ふことである。

多くの勞働者、殊に激しく筋肉を疲勞させる職業の者は勢力を六日間に等分して勞働するよりは四五日間に一週間分の賃金を得んが爲に激しい勞働を選ぶことが屢々ある。坑夫や瓦斯の火夫などが自分の都合からの遊び半分に稼溜た處から生ずる暇は明かに失業の中に加へる譯には行かぬし、又もしも其が適度の範圍内に止まつてゐるならば何等勞働力の徒費とはならない。

併し之に反して雇人が「時間短縮」を強ひられるとか、雇人の數を減少される代に雇人自身から時間短縮を受諾せねばならぬ、場合に於ては、その空費時間は正しく「失業」中に入れらるべきもので、勞働力の徒費と云つてよいのである。

二 季節的職業より生ずる失業

短期間契約の季節的職業には普通暇間とも云ふ休業がある。例へば大工職の請負仕事と請負仕事の繋に這入る暇間がそれである。ある特定の日に行ふ失業調査の統計には前述べた様な理由で、この暇間になつてゐる石工や煉瓦積工を計算に入れ勝ちである。けれども此「漏洩」とも云ふべき休業が此等の仕事に本來附隨してゐる限は、この暇間は徒費とは云はれない、又かくの如くして一時的中止をせられた勞働は過剰とは見られない。然し斯の如く考ふるには嚴重な制限をこの必然的「漏洩」に加へなければならぬ。若しも建築業が不景氣であれば、雇はれる勞働者の數が少くなる許りでなく、仕事と仕事の間隙も亦長くなるであらう。この場合に於ては眞に勞働力が徒費されるのであつて、正しく失業の中に這入るべきである。故に最も活氣を呈してゐる暇の少い仕事の多忙な期間中の「必然的漏洩」としての暇間を正しい尺度としなければならぬ。

その時ですら、もしその暇間が順調に運び行かない仕事なれば、幾何かの徒費を含でると云はねばならぬ、併し知識の進歩とか、旅費の低廉とか、勞働組合が旅費を支給するといふ事のために、以前には職業の本質による必然的の失業と思考されてゐるものを減少せしめたのである。

三 冬期の緩慢は失業か

自然的な原因によつて生ずる不規則な仕事の建築業及其他の職業の長期の暇間は何の程度まで必然的休業と云ひ得るか。労働者の最近の報告は冬期に於ける建築業に失業と云ふべき事實を認めぬかの口吻がある。

「建築業には殆ど毎年冬期には幾何かの時間を徒費せられる。斯くして仕事を失ふた者が果して失業者であらうか。時間の空費は普通是等の職業にともなふ危険の一つと考へてもよからう。それは毎年多かれ少かれ生ずる事柄である。それで是等の職業に従事して居る人達が仕事の盛んな季節に得る賃金に依て差引勘定せられると想像しても宜からう。若し全一年を單位とするならば、冬期に仕事のない煉瓦積職人は決して「過剰」即ち餘り者ではない、若し彼等が農場に移住して了ふか他の職に移つて永久に建築業から絶縁してしまつたなら、建築業には忽ち人の不足で困るであらう。されば彼等は必らずしも充分仕事がないとは謂へぬ。凡ての者に對して充分の仕事はあるので、只一年中のある期間丈けに仕事が集中される性質を有つてゐるのである」と。

仕事が暇な時を勘定に入れて、仕事が盛な時に高い賃金を得るといふ説は舊經濟學者の「經濟人」を想起せしめる。その經濟人は偶然を計算する無限の力を有し、その職業を選択するに絶対の自由を有し、その職業に附随する特殊の不利を償ふに足る高い賃金を雇主から強奪する充分なる力を有して居る人に限らるゝのである。斯様な男こそ、斯様な賃金を得て毎年の緩慢期には安樂に冬眠が出来る様に調節が出来るかも知れぬ。併し實際の状態は如何か煉瓦積職人は如何か彼もある程度までは仕事のない時期の爲に用意も出来ようけれど、彼等の職業に俱ふ不規則から生ずる不利を充分償ふて餘ある賃金を獲得するだけの經濟上の勢力はない。煉瓦職の下働をする労働者は尙更の事である。

若しも職業局當事者の先驗的理窟を採用するならば、更に一步を進めて斯く云はねばなるまい。「即ち總ての労働者は皆な普通の職業に伴ふ危険を償ふ事が出来て、職業統計が「失業」として記してゐる一年中の或る時期の間、生活するに十分なだけの賃金を得ることが出来ると。」

此説に従ふと、臨時的日傭の波止場人足や毛皮剥や其他の季節的の労働者は無職の時期のために適當な用意をして置くことが出来る筈である。何れだけその無職の時期が長くとも、而も彼等の仕事は凡て或る季節の間は必要なるものであるが故に仕事をしてゐない時期は失業中には入れられない筈で、或ひは労働力の徒費とは考へられない筈である。

四 勞働徒費の社會的評價

我々は茲で季節的勞働者が賃金を得られない時期の爲めに何の程度迄用意して置く事が出来、或は爲すべき筈であるかと云ふ事を論ぜんとするものではない。斯かる時期に於ける勞働力が果して「過剩」或は「徒費」とせらるべきであるかを論ぜんとするのである。「過剩」即ち餘り過ぎてゐると云ふ語を文字通りに解釋すれば上述の勞働力が過剩であると云ふことには疑問は起り得ない。けれども社會的見地から見て徒費と云へるであらうか。確かにさう云へると私は思ふ。

この場合は一週間に於ける勞働の不規則な配分の場合と同一ではない。春や夏の間何れ丈け過度に稼いだとて冬の遊びを取返すことは出来ない。此徒費はいかにも其職業の固有の不規則に原因するものであるだらうけれども、それだからと云つて失業でないとは云へないのである。冬期中のペンキ屋の休業は仕事と仕事との間必然的漏洩と同一にせられない。建築や船渠や其他の職業の季節的失業の大部分は職業に必然的な或は固有なものではない。それは慢性的な勞働供給の過多に原因するのである。若しそれ程多大の勞働の餘がなかつたならば、多くの職業の不規則は大に緩和されるであらう。氣候又は其他の自然的原因も亦幾何かの不規則を助長することは疑ひもない。け

れども若し必要とあらば建築業に於てすらも遙かにもつと規則的に雇入を配分し得るであらう。而してかうした改良は徒費を含まぬ計でなく、結局は勞働力の經濟である。何故なれば職業の不規則から惹起される生産能率及び活氣の下降をそれによつて防ぐからである。造船所の雇入方法の最近改良したのが多大の臨時勞働を絞り出して、それ等が餘計なものであることを明示した。それ等の臨時勞働は以前は必然的な、必要なものとせられてゐたのである。之造船所と同様に建築及び其他の職業に於て同様の壓搾と勞働方法の改革とが同様の過剩即ち勞働力の徒費を暴露するであらう。けれども若し此等の職業の一年中の雇入配分は變化させないと主張するとしても、此等の職業が俱有する不規則性によつて多大の勞働力徒費を含んでゐる事は否まれない。煉瓦積職人の冬期中の遊びは明かに勞働者の餘りを表はしてゐる——必ずしも煉瓦積の餘りでないにしても、此等の季節的勞働者に代りの仕事を今一つ與へようとする或人達の熱心なる欲求は現在の勞働力の徒費を承認してゐることを事實上示してゐるものもある。

五 不景氣による失業

現今職を離れてゐる熟練職工の大多數は短期の暇間や季節的變動によつて失業したのではなく

て、我國の工業界を襲ふてゐる大不景氣から生じた失業である。これは即ち勞働力の過剩即ち徒費を意味すると見て支障ないと思ふが、當局の「失業者報告」は全く異つた見解をもつてゐる様である。

『現今の如き緊縮時代には多くの職を離れたものがある。若し一ヶ年と云ふ如き短期間を單位とするならば、彼等は産業上から見て「過剩」である。

然し七ヶ年を一期とするときは——造船界では凡そ七ヶ年程が一週期である——彼等は必要で、若し仕事の緩慢な年に勞働市場から彼等が去つてしまつたならば、仕事が再び忙がしくなつた時に充分な人がないと云ふことになるのであらう。』

換言すれば即ちちかうだ。仕事が盛んな時には多數の人が需要せられ、仕事のない時には再び景氣がよくなるまで待たされるのである。待つてゐる間は彼等の勞働力は「徒費」とは云れない。何となればチャールス・ブース氏の言を借りて云へば『近代の産業組織は幾何かの雇入れられない餘地即ち幾何かの勞働の豫備なくしてはやつて行けない』からである。『唯だ立つて待つてゐる者も亦役に立つ』とミルトンが言つたが、此場合には當嵌らない。

報告書にある意見に對する私の主要なる批評は、(それが殆ど滑稽な程の横着さを以て循環論法の

誤謬に陥つてゐる)と云ふことである。

此の不幸なる「待つてゐる者」の如き餘剩者なくしては、景氣が恢復した時に充分な人手がなくなると云ふ意見に對して私は次の質問を呈出しよう。

『普通の状態に於て、5%の失業せる熟練工、更にそれ以上の多數の失業せる不熟練工のあることが或年を景氣を良くし或年を景氣を悪くする原因ではなからうか。』もしも此「餘」が存在せずば一八九九年程には景氣は「復活」しないであらう。又その反對に一九〇八年程には景氣が没落することないであらうが、若し普通の状態に於て、此の勞働力の「豫備」がなければ、變動はそれ程に激しくないと云ひ得ないであらうか。此の問題は茲で簡單に論ずるには餘りに太問題である。けれども過剩は短時間にして拂拭せらるゝが故に勞働の過剩は存在しないと云ふが如き當局の失業報告書の意見に對しては此質問を提起せざるを得ないのである。

不景氣の説明は何であらうと、此の不景氣が、多數の失業に對して責任があることは疑ふ餘地がない。失業報告書すらも『緩慢なる年に於ける此等の人に失業者の名稱を担ひのは普通に使用せらるゝ語をもちり過ぎる嫌があらう。』と云つてゐる。私は更に進んで主張する『不景氣が過剩の原因であらうと、或は結果であらうと、失業は過剩或は勞働力の徒費を表はす』と。

六 失業に就ての當局の意見の概要

若しも私が當局の失業報告を正解してゐるとせば、それが承認してゐるとせば、それが承認してゐる唯一の過剰即ち労働力の徒費は次の二者である。

「或る職業に従事してゐる者全體を生活せしめるに充分な程仕事がない爲に「餘つてゐる」人達、」
 「其の能力が標準よりも劣つてゐるか、或は誰も雇はぬ程個人的缺點をもつてゐる爲めに仕事を得不い者」此等の者は可成り景氣のよい職業に於ても充分な仕事を得ることが出来ない熟練工の少数、及び多數の都會の能率の少ない不熟練工によつて代表せられて居る。ブース氏は後者が東部ロンドンばかりで十萬に達すると計算した。

此報告書は労働力の過剰を斯く狭い範圍に限つてゐるけれども、失業者問題は確かに他の者を含んでゐる。——即ち産業方法の變化や、流行の變化、雇傭地の變更及び労働者の豫期しない又豫め備をして置くことの出来ない其他の原因によつて一時職を失つた總ての者を含んでゐる。

斯の如く當局の失業者報告は失業の意味を狭ばめて、單に「漏洩」のみならず季節による仕事の暇間をも含むことを拒み、更に不景氣によつて生ずる大多數の失業者を含まぬことによつて一層過

剩即ち労働力の徒費の意味を局限するのである。

七 失業者の意味をもつと擴大する方が正しい

私は當局よりも、もつと此失業者の意味を擴大すべきであると云ふことに就いて一通の理由を示した。私はこの「失業者」なる意味の中には労働階級が蒙つた自己の意思によらない總ての「仕事の暇」を含めるのである。私のこの意見は一般に用ひられてゐる。「失業者」の意味とびつたりと一致する便利がある。私は今後この意味に於て此の語を使用するのである。けれども更にもつと科學的な定義は社會の富を生産しない労働力の全量を「失業」であるとするであらう。けれどもそれは當局の失業よりは狭くはないが、其反對に餘りに廣すぎることは明白である。

第二章 失業統計

一 缺陷ある一般統計

『職を離れてゐる者』の總體の概數すら計算することは現在では不可能である。況や失業者の精細確實な統計を得ることは逆も出来ない。我が貧弱な缺點多き統計機關は、此重要にして面倒な問題に對する當局の答の基礎としては適當であるかも知れない。併し我々は直接失業の不正確な程度を量ることが出来ないにしても、それが甚だ大きなものであるといふ事は慥に指摘することが出来る。「失業」の總數に關する當局の唯一の數字は勞働組合が提供した報告に依つて勞働者が計算した百分率のみである。この當局の數字と云ふのは組合の基本金中から失業手當を受取つた組合員の平均百分率なのである。一八九四年の十二月號のレバー、ガゼット誌によると六十二の勞働組合報告の結果を平均して得た失業の數字は七%であつた。然し此の數字は「失業」の全般の容量とは認められない。勞働省でもそうは考へて居らぬ。唯だ我が主要工業の或るもの雇傭状態及び勞働状態を

示すに有效なものとして引用せらるのみである。勞働省としても全般勞働界の失業者報告を強制もしないのである。多くの勞働組合は失業者記録も持つてゐない。よし記録があつても多くは報告しない。而して又報告の多くは餘り不確實なので役に立たない。

二 勞働組合の平均率

失業者の總數を勘定するに此六十二の組合の失業者平均數七を勞働階級全體に適用することは出来ないにしても、正しき推斷に導く出發點として利用するに支障はないであらう。特に私は自己の意志によらぬ失業者の平均數が七%より多い。或は尠ないと云ふ事が何の程度まで眞實を表はしてゐるかを示さうと思ふ。そのために次の三問に對する答が必要である。

(イ) その七と云ふ數字は何の程度迄で勞働組合員中の失業者の眞實な數とすることが出来るか。
(ロ) 勞働組合員中の失業平均が何の程度まで國中の全製造工業及び天産農礦業の從業者の失業者の尺度として信頼するに足るか。

(ハ) 此等の産業は「失業」の點に於て他の勞働と比して如何であるか。
始めの二問題の要點を有力に論ぜんが爲めには、此の七%と云ふ數を與へた六十二の組合が何の

程度まで我國の一般の職業を代表するものであるかを能く了解することが必要である。労働委員の好意によつて次に示すが如き六十二の組合の各員数を掲げることが出来た。但し附随して参考として一八九一年の國勢調査統計報告から纂録した第三段を添記する。それは労働組合が何の程度まで労働者の總體を代表してゐるかを示したい爲めである。

職業類別	組合数	組合員数	*従業者總数
器械及金屬工業	一一	一一一、八八九	三四二、二三一
造船業	四	五三、八九五	七〇、五一七
建築及家具	一三	七六、〇四三	八二〇、五八二
織物	二	一〇、六二九	一、一二八、五八九
織業	二	六八、〇三〇	五六一、六三七
印刷及類似業	二〇	三四、六三二	一四五、三〇七
衣服、皮革、硝子	一〇	四、九七三	不明

*被雇入のみならず雇主も含む。或場合に於ては製造者のみならず多數の主人も含む、其他の分類上の困難等の爲め該表は比較的重要なる數種の産業の極く概數的なる表に過ぎず。

三 労働省に報告する職業

偕て第一に明白なのは、労働組合の失業者数は多くの場合當該職業の總數を表すには餘りに小數なる報告に基礎を置いてゐることである。唯だ器械及金屬工業、造船業、印刷業に於てのみ労働組合員數が大きくして當該職業全體を多少正確に表はすと思はれてゐる。其他に於ては一職業のある小部分かまたは或る地方の状況のみが正確に報告中に現はされてゐるのみである。此等の數字はレバガゼット誌上に於て數地方からの報告を参照してもつと有効に用ひられてゐる。かくして我々は失業者の割合は造船業や器械工業や其他類似の職業に於て大きい事が解つた。而して又他の報告によつて我々は次の結論に達する。即ち此等の職業以外の失業者の平均は一八九四年末に於て比較的の小である。即ち平常時の失職及び個人的原因による失業者の平均はさほど超過してゐない。若し造船業や器械業を除外するならば、失業の平均數は甚だ少數で、不景氣だといふ一般の世評と矛盾し、數個の職業の状況報告に表はされてもゐる不景氣と矛盾する程である。

四 失業せる組合員の全數不明

製造業に關してなどは勞働省に提供せられた失業者数は失業者の全數を示して居らないと信ずべき理由は充分にある。

先づ第一に、勞働組合の役員が失業手當を支給したと報告してゐる會員數が、「職を離れてゐる」組合員の總數を充分に表はしてゐないことは確かである。普通組合員として十二ヶ月を經過しなければ失業手當を受ける資格がないのである。また一人前の會員となるには屢々其他の條件が必要なのである。それで組合員中に加へられてゐるものの可成の數は失業手當を受ける資格がない。従つて彼等の失業は表には表はれて來ない。例へば「失業者報告」によると一八九三年に於て、鐵工の八八%及造船工の五〇%だけが失業手當の與へられる資格ありとせられたのである。大抵の組合に於ては「失業手當」支給の期間は幾週間かに限られてゐて、それで或る場合には其の限度を過ぎた分は報告されない。一般に組合員が失業して一週間を経なければ失業として算へられないし、或る者は拂込金遲滞のために資格を失ふので、これは不景氣な時の陥り易い不幸である。或る幾分餘裕ある勞働者は、餘儀なくされるまでは組合の基金に頼らない事を以て誇としてゐる。此等の原因、特に第一の原因によつて、現に失業手當を受けてゐる組合員のみを計算に入れる勞働組合によつて作成せられた報告は職業勞働組合の失業者の數を非常に少く表はすのである。

更に近代の競争の激甚さと、大動力主義的な産業組織の壓迫とが中年時を過ぎた勞働者を漸次虐ける様になる。劇しい手仕事即ち筋肉勞働では、最早標準賃金を得ることが出來ないものとして淘汰せらるゝ年齢が非常に早く來る様になつた。尙ほ可成りの能率のある勞働力を所有する者も、もはや失業手當を受けないで、老朽淘汰か疾病者名の表に入れられる。而して或期間補助を受けて後には自ら糊口するまゝに打棄てらるゝことになる。これは常に勞働組合の熟練職工のみならず、産業界全般を通じて、就業年限が短縮され、中年者が次第に雇はれなくなつて行く事實によつて示されて居る。鑛夫、海員、紡績工、金屬及機械製造者及び其他の多くの勞働に於ては、四十五歳或は五十歳を超えては確實に職を持続して行くことは事實上不可能である。如何に若さを裝ふても、職は彼の手から迂り落ちて行く。彼の熟練も經驗も若年者と競争しては何等役には立て呉れないのである。若年者は活力に於て遙に彼を超越して了ふ。産業社會の理想的組織に於ては、男子及び女子の勢力旺盛時代なる二十歳から二十五歳が最も勞働能力を社會に提供する最大能力の發揮の時と云はれてゐる。現下の狀態では、尙早時に於て早くも隱退を強ひられること——然かも名譽あり悅樂ある引退に非ずして、辛うじて糊口せんが爲に、あさましくも不面目なる苦闘を續けなければならぬこと——然かも老の迫ると共に益々危殆に瀕して行く事——之は失業問題中最も恐怖すべきも

の、一つでなければならぬ。

五 労働組合の主要目的は失業を避くるにあり

織物業、鑛山業、及び其他の産業の失業報告を評價するに當つて次のことを心に留めなければならぬ。即ち多くの強固に組織せられた組合は組合員の或者が全く失業することを許さないで、全組合員凡べてに其の損失を預たんとする、而して雇人數を減少するを許さずして、其代り時間短縮するのである。労働組合の主要目的の一つは失業を避けんがために短時間労働を雇主と協議するにある。勿論之は労働力の徒費と目せられる純失業の性質を帯びてゐる。もし或る職業の全員が一時半分の時間しか働かないならば、五〇%の失業と云ふべきである。斯の如き原因に基く經濟的「失業」の量は次第に増大して行く。何となれば組合組織が漸次強固になり、従つて出来るだけ労働者を痛めざらんとして不景氣の損害を廣く配分する様に雇主に強ひる事が出来る様になるからである。夫で我々の計算資料を提供した労働組合中の實際の失業率は報告せられたものよりも更に大きい事が確かである。

六 非組合員は更に多数

問題を一步進めて、労働組合の狀況が何の程度まで該職業全體の狀況を代表してゐるかを考究するならば、失業は組合員中よりも非組合員中に更に甚だしいと主張せざるを得なくなるであらう。

労働組合員は熟練、力量、人物知識の點からは其の職業中の優秀者と見て差支はない。而して労働組合主張の主要なる經濟的目的の一つは、その組合員の爲に出来るだけ規則立つた賃銀の高い仕事を獨占するにある。その爲めに標準賃銀を獲得する能力を試験することによつて全員を制限するのである。景氣のよくない時分でも労働組合員はその個人的能力及その組合の力のお陰で職業を續けて行く可能性が他のものより多い。組合員でも能力の少ない者は地位がそれだけ不安定で、不景氣の時には一週間毎の拂込金さへ續けて行かなくなり、終に組合から落伍して下ふ。斯様な者は組合報告には失業者として數に算入せられてゐないのである。非組合員はもつと低廉な賃銀で直に就職する。而して頼るべき失業手當などはないから、何んな種類の労働でも見付かり次第就職せざるを得なくなると云ふことは眞實である。失業の機會が何れに多いかと云ふ問題が起れば、組合の上述の様な優地位に對して、非組合員の上述の特長も算へ揚げられなければならぬ、けれども「失業

者」なる詞を使用されてゐる通りに限定するなれば、「失業者」の率は組合員よりも非組合員の方に多いのは當然であらう。

七 團體組織無き職業の失業者

失業基金を堅實に保持し、職業報告を提供の出来る様に充分に注意して記録を續けて行く様な組合は大概有力な組合で、その組合員のために仕事を多少與へさせる威力を持つてゐるが故に、仕事に關しては組合員の便宜は非組合員に比して甚だ大である。この事實の爲めに更に又労働省の報告は全職業の就職状態を示すものとしては確實なものではなくなる。

報告をする労働組合の職業の状態を一般に指示するものとするとき、我々は其等の組合が代表してゐる職業は多く高度の熟練職業で團體組織の善く發達した職業であることを見逃す譯には行かぬ。ある熟練職業は最も變化の甚だしいものゝ一つであることは確かだが、特に造船工の如きは前述の報告中に於ても失業率が非常に高い、時には這う主張する者もある、即ち最も根本的で主要なる産業は小職業に較ぶれば就業上の變化が多いと、我々は今茲に正確に比較する方法がないけれども、これが事實だと考へることは合理的でないと思ふ。その反對に、此等の小製造業は多く贅澤品

か、そうでなくても兎に角不必要なる物品を供給することに關係して居る。従つて氣紛れな流行や、自然的な趣味の變化に支配されて居り、社會の消費力を減殺する不景氣の爲に第一に影響を蒙るが故に、もつと必要な職業よりも失業の数が大きい筈である。私のこの意見が合理的であることは織物業に於て明に證明される。職業組合の報告は唯だランカシアの木綿業に關してゐるのみで、若し毛織物業、殊に絹、レース、リンネル業の如き小織物産業についての忠實なる記録があつたならば非常に多數の失業が記録せられたであらう。

一八一八年から一九〇一年の間にレース業に於ける被雇人が一七〇を降下したと調査報告の職業表に示されてゐる。英國リンネル業では四一・五%降下し、絹及其の類似工業に従事してゐる者の数が三九・八%減じたと報告されてゐる。此等の數字はいつも失業してゐる者の数を含めてゐないが、然し實際の大なる失業を示してゐる。

八 熟練對不熟練職業

最後に重大なる問題が起きてくる。即ち「高級熟練」職業よりも「不熟練」あるひは「低級熟練」職業の方が何れ程失業が多いかと云ふ問題である。當局の失業率は主として熟練職業の優秀者から

取つたのである。低級熟練職業に於て經濟的失業即ち徒費の率が大きいと云ふ断定は成立たぬであらうか。

三

熟練職業の團體組織の一つの結果は其團體以外の者をして有力に競争することを益々困難にすることである。兎に角、或る程度迄熟練職業組合はその職業に於ける労働市場を限定してしまつてその避くべからざる結果は低級熟練労働市場を絶えず供給過多に陥らしめた。此の低級熟練労働者の永久的の供給過多は時々の不景氣によつて更に劇しくされる。即ち不景氣が熟練職業の中の弱者をば不熟練労働者のゴツタ返してゐる群集の中に投げ込んで、不規則な不安定な労働に依つて漸く糊口するに至らしめるからである。

九 失業者の二方面

時々、都市に於ける低級な不熟練過剩労働者の問題をば、失業問題から全く分離させようと云ふ議論が起さる。即ち失業問題を熟練職工のみに限らうとするのである。この分離は正當であるかも知れない。而して救済法や改善方法を考案するに便利であるかも知れぬが、一步深く産業の混亂状態を洞察するならば、失業者の此二階級の間密接なる有機的關係が常に維持せられてゐる事が明

かになる。好況時には殆ど總ての熟練職工は就職してゐるが、都會の貧民窟地帯を綿密に調査して見れば、そんな好景氣にも幾多の不熟練な不定労働者が有り餘つてゐることは確かである。併し更にもつと精細に探究してみると此の労働者の沈澱した「渣」は種々なる方面の定職ある職工が、農業或ひは工業界の混亂によつて職を失ひ、都會生活の不規律と不衛生によつて虚弱になり、脆弱者や敗慘者を生み、次第に堆積して來たのである。

平常の好況時にすらも不熟練な不定労働者か大都市に溢れ過ぎてゐることは疑ふ餘地がない。チャールス・ブース氏は東ロンドンのみに於てさへ十萬人（全體の十一と四分の一）からの徒費即ち過剰があると計算してゐる、その中には最下級な「渣」は計算に入れてゐない。

『次の如く云つても過言でない。即ち、若し此のB級（一〇〇、〇〇〇）の全體が失くなつて了つても、此のB級の者の爲す仕事は、C及びD級の男や女や子供が自分達の仕事を爲した上に、爲し行くことが出来るのである。此B級の者が獲得し、費消する總額はその上の階級の者によつて容易に獲得せられ消費せられる。此等の諸階級にC級は極めて安樂に暮して行ける。而して何の階級も又何の産業も何等障壁を受けない。』

此のB級の数ハロンドン全體で三二七、〇〇〇よりも少くない。この主都は他の都市より幾分か

悪いにしても、我は茲にレバガゼット誌上の報告に載つてゐない労働力の莫大な徒費のあることを現實に見せられてゐる。

此の都市の低級労働者の多数は失業と云ふ點に於ては不況時の熟練職工の場合と甚だ異つてゐる。失業は此處では熟練工の場合よりも、もつと『程度』の問題なのである。渠等は不定にして本来不規則なる仕事によつて生活してゐるが故に、何時か其他の時より、もつと「職を離れて」ゐると確言することは出来ない。彼等は不斷に仕事の斷片を獲なければならぬ、そうしなければ窮乏に追付かれる。彼等の失業の眞の量は彼等の所有してゐる労働力の徒費であらう。ブース氏が東ロンドンに於ける過剩労働力の算定に於て意味したのはこれであらうと思ふ。さて若し我々が心して斯くも多数の労働者が發展して行く都市の人口中、不規則な不熟練職業に就くべく餘儀なくされたり或は不定労働に依つて漸く糊口して行かなければならぬのを見るならば、吾人は次の事實を認めざるを得ない。即ち好景氣時代に於てすらも七%の失業といふ様な数は、此等の階級の經濟的失業の眞量よりも遙かに尠ないであらう。

十 職業紹介所の證明

不熟練不定労働者の失業率が上述の如く七%よりも、もつと高率であるといふ説はロンドン、リバープール、サルフォード、及び其他の地の職業紹介所の報告から得られる直接の證據によつて裏書されてゐると思ふ。男子の求職者中一般的労働者が遙かに最大多数を占めてゐる。又書記、倉庫業雇人、運搬人、使丁は全體の大なる部分を占めて居て、熟練職工の数を遙かに超過してゐる。熟練工といふのは主に建築、器械、金屬工業によつて代表されてゐるものである。同様に、女子の求職者中、日雇掃除女や其他の一般労働者が大多数を占めてゐる。併し斯の如き材料からして、失業の分布に関する精密な統計は得難い。低い賃金の労働者の生計の困難が、彼等をして職業紹介所のお世話にならざるを得ざるに至らしめるを見れば、失業は高級熟練職工よりも、不熟練不定労働者中に多数あるといふ結論をするは根據ある説である。

十一 製造業に於ける徒費

上述の論據から我々は次の結論に達する。即ち我々が出發點として假定して來た七%は熟練職業の労働組合の失業者の全量ではない。況や決して此等の職業全體の失業即ち労働の徒費を示すものでもない。更に我々が熟練職から不熟練職に眼を轉ずる時、而して更に此不熟練職から都市に於け

る臨時傭の勞働に眼を轉ずる時、經濟的徒費即ち失業の平均率が高くなつて行くのを見る。而うして近代産業の避く可からざる傾向として一般に共通してゐる必需品を供給する主要なる製造工業の就職が次第に減するに反して、第二次的な贅澤物製造業の就職率が増加して來た。此の贅澤物製造業はその本質上不規則に傾くものである。此等の諸點から考察するならば、全體としての製造工業及び農礦業の勞働力の徒費即ち經濟的失業は高級な最も善く組織せられた職業を特に典據とした算定に依つて大いに低く見積られてあると信すべき充分なる理由がある。

然し記憶して置くべきことは我々の攻究は今迄製造業及び礦山業の賃銀勞働者にのみ限つてゐたことである。其處に獲られた結論が何れ程一般の雇入に應用せられ得るであらうか。

十二 職業分布と失業

我々は工業國民であると考へる事に慣れて、工業に従事してゐる者は英國民の有識階級中三分の一以下であるを忘れてゐる。不幸にして我が國勢調査統計報告の方法は何れだけの人數が賃銀勞働者として製造工業に従事してゐるかを精細に示すことが出来ない。けれどもウブース氏の統計調査の周到なる研究の結果次の結論に達した、即ち主要製造工業のみならず全製造業に従事してゐる英

國民の割合は一八六一年以來漸次減退しつゝあると云ふ結論に達した。

- 一八八一年迄の百分率は次の如くである。
- 一八四一年……………二七、一〇
- 一八五一年……………三二、七〇
- 一八六一年……………三三、〇〇
- 一八七一年……………三一、六〇
- 一八八一年……………三〇、七〇

若し最近の國勢調査統計報告中製造業者と商人とを分離せしめることが出来るならば、製造工業に従事してゐる者の割合は三〇%以上ではないことは確である。天産業に於ける二大系たる農業及び礦業を考察してみると、後者に最近就職者が増した數と、前者の就職者の減じた數とが略ほ一致する。雇人階級の大多數は英蘭土も大英國に於ても、我々が失業を算定せんとして調査し來つた職業以外の職業に従事してゐるのである。我勞働者及び雇主にして商業や運搬業や其他の特殊な或は公又は私の仕事に従事するものが次第に増してくる。是等の職業の大部分に於ては失業或は其他の勞働徒費の量は製造業に於てよりも遙かに少ないことは承認しなければならぬ。概算して大英國に

於ける賃銀獲取者の数を一千三百萬とすれば、製造業に従事してゐる者は四百萬以上ではないであらう。人口の増加の二倍の速度で増加すると云はれてゐる小賣商、及び其れ以上迅速に増加して行く其の他の商人階級は製造業程多くの失業はあり得ない。

十三 運輸及公共事業

分布業に於ける労働の主なる徒費は「失業」であるよりは寧ろ社會的見地から見て餘りに過多である無用な就職であると云ふべきだ。即ち事務員、倉庫労働者、店員等が過多で、頒布さるべき物品の増加よりも更に迅速に増加して行くのである。労働紹介所の示す所によれば多數の事務員や店員や倉庫労働者が「失業」してゐる。それは事實に相違ない。而して此等の職業に於ける烈しい競争が益々就職難を惹起するは疑ふべくもない。けれども現在の統計から論ずれば、商業界に於ける「失業」は工業界に於ける「失業」よりも数が少ないことは明かである。運輸業は絶えず就職を増して行き、一九〇一年に於ては男子被雇者の十一%以上を占めてゐる。道路の運搬業に關係してゐる或る仕事は労働の大なる「過剩」を示してゐる。車夫、馬丁、其他市街運輸に關係してゐる者等は職業紹介所の表中では大きな数を占めてゐる。絶體的「失業」は別として馬車業等に於ては非常

な労働力の徒費があるに相違ない。

職業紹介所の記録は諸地方の二三の職業に於ける失業者の割合についての妥當な算定であると断定してはならないと私は考へる。男子に於ては一般的労働者や建築業に屬する労働者が多數を占め、女子に於ては裁縫師や雑役婦が多數を占めてゐる事實は此等の職業に於ける労働力の甚だ多いのと、此等の職業に於ける需要が極めて不規則であることを指示してゐると私は思ふ。けれども事務員や使丁、倉庫労働者、運搬夫の失業の多數ある所以は寧ろ次の事實に基くと考へた。即ち彼等は製造工業及び大規模の産業に従事してゐる者の様に個人的に求めて行つて仕事を探がすと云ふ普通の手段を取ることが出来ないのと、今一は彼等の間に大部分の熟練工及び若干の不熟練工の如く、彼等の爲めに就職口を世話して呉れる労働組合組織が無い事に基因してゐると思ふ。道路運搬の階級は明白に大なる不規則に支配されてゐるが、之に反して鐵道や航海業には堅實に且多數の就職がある。

船渠人夫、河岸労働者は大なる「徒費」を示してゐる。若しデオフレイ。ドレーグ氏に従つて倫敦の船渠人夫の数を二萬二千（時々他の職から流入する者を除く）とし、實際に雇はれる者の平均數と比較してみると次の事實を發見する。即ち「永續的」な人夫の存在を充分に認めても、失業の

量が非常に大である。

一八九四年に雇はれた数は七千六百人である。此不規則は大抵職業自身の本性に基くのである。此等の職業は甚だしく季節及天候に支配されるものであつて、三日と廿一日とでは雇傭人数が二十五%も違つてくる。季節よりも日々の變化が更に甚だしいのである。然し一年中の最も多忙な日に雇はれてゐる最高數も船渠人夫の數より數千鈔ない。之は短期間の仕事にすらも雇はれない「失業者」の大なる純剩餘を示してゐる。倫敦以外の港に於ては仕事は左程に不規則でなく、船渠人夫も永久的剩餘も恐らくはすつと少ないであらう。けれども此船渠人夫の労働を組織立て整理せんが爲めに何れ程努力しても、この業の労働の總徒費は頗る大なるに相違ない。

全體として人、物、音信等の運輸通信に従事してゐる労働者は製造業よりも失業率が遙かに少ないであらう。次に我々は急速に増加して行く、國家や、州や市の公共的職務及び瓦斯、水道、電氣の如き半公共的事業を附記しなければならぬ。此等の職務は本來規則的なもので行政的方面に於ても軍事的方面に於ても、取立てて云ふ程の「失業」はない。然し後者の中に悲しむべく又罪惡に等しい「労働徒費」がないではない。それは現役から豫備後備役になる兵卒が絶えず無習練にして不熟練なる労働者の群を膨張せしめて行くことである。今一つ記すべきは賃銀獲得者の一大階級は

家庭に雇はれる人々である。これは雇傭の點に於ては甚だ規則正しいが、ある所から他の所への絶えざる大流動が行はれて、従つて其の間に失職のあるは疑ひないけれども、大なるパーセンテージの失業は此の家庭的職務にはあり得ない。私は思ふに、職業紹介所の報告には、可なりの數を示してゐる召使の失業は寧ろ大きな町の一般的不熟練労働に屬すべきであつて、家庭的職務の如き特殊なる状態に入るべきではない。けれども低級なものゝ間には若干の供給の過多のあるのは否まれな

十四 該問題の概観

賃銀獲得者の「失業」の數についての上述の如き狀況の爲めに失業總數の近似數すらも知り得ないのである。然し要するに私は斯う考へる、即ち若し精密な統計を取ることが出来るならば、製造工業全體としての平均數は労働省の報告の數よりも随分大きくなる（「失業」といふ語を労働組合の解してゐる如く普通に解釋して）然し其以外の賃銀獲得職業に従事してゐる者は「絶體的失業」の平均が低くなる傾向を有してゐると私は考へる。失業と云ふことをもつと自由に、もつと論理的に解釋して「社會的労働時間の徒費」と解釋するならば一八九四年の如き不況時に於ける七%と云ふ

が如き数は此の徒費の眞の量より遙かに少くあると考へなければならぬ。換言すれば、全然の「失業」の害悪の大なるは云ふ迄もないが、就職が不規則で不充分なのは害悪遙かに大である。

此の「失業者」問題を社會的見地から更らに廣く考察する時、此の問題は賃銀獲得者のみに特に應用すべきでないと感じざるを得ない。總ての職業者や高級藝術家が餘りに溢れ過ぎてゐるとは、ずつと以前から普通に云はれてゐることである。法律にせよ、醫術にせよ、土木にせよ、建築、教育、文學、新聞雜誌にせよ、何處を振向いても澤山の人間が唯だ名のみを其職業につらねてゐるに過ぎない。而して仕事を得てゐない者の数は更に大である。こゝでも又筋肉労働者の場合でも能力とか資格とかの問題ではないのである。何んな能率標準を立てても充分能力のある應募者が何の職業に對しても多數あり、又何れだけ俸給が安くとも多數の者が應募する事實は何んな職業でも供給過多であることを示すものである。

十五 失業上の上流階級

失業者問題を貧困の問題として考察せずに労働力の社會經濟の見地から考察する時、二つの他の階級を先づ考慮して然る後労働力の徒費の問題を考ふべきである。第一は上流の「失業者」階級で

ある。統計報告には體裁よく「無職」としてある。一九〇一年に於て英蘭土及ウエールズに何等かの職業に名さへも連れてゐない二十歳から六十五歳までの男子が三十二萬八千百一十一人ある。これは他人の労働により生存し然かも何等その代りに貢獻することもなき、社會の爲には全く労働力の徒費に過ぎない多數の輩なのである。此の階級の大部分は美食し能力ある人間であるが、その怠惰は彼等自身を傷び又社會を傷ふのである。彼等の或者が企圖する氣紛ぐれ仕事は社會の仕事に重大なる貢獻をなすものとは考へられない、何となれば彼等の仕事は道樂であり又普通誤まれる仕事をしてゐるからである。即ち彼等の仕事は其本質上社會的指導と制御とを受けないからである。

十六 細民の労働徒費

労働徒費の總量は「失業者」の最下級に言及することなくして完全したと云へない。一九〇三年の一月一日には英蘭土及びウエールズのみにも十萬六千四百十二人の健全な男子の細民があつた。此等の細民の大部分は仕事の點から考へれば全く無益であるのは眞である。然し彼等の事情を善く考察する時此肉體的、道徳的、産業的、無能力は社會の缺陷と分離すべからざる關係を有するものである。社會は總ての人間に或る程度まで存してゐる労働力を社會的奉仕に使用する様に教育

する機会を彼等に與へなかつたのである。此の健康なる細民階級を産業社會の一般問題と有機的關係なき全く分離せる問題とするは出來ない。失業を惹起する或る原因が又社會のどん底に赤貧なる渣を沈澱せしめるのである。

補記

職業紹介所の記録に於ける失業

次の統計は九ヶ所の個人の慈善によつて建られた職業紹介所によつて提供せられたものである。それは一八九四年に於ける失業者の職業に關して若干の報知を與へる。然し記憶せねばならぬことは此の九記録の中五個は市（倫敦、リバプール、サルフォード、プリマス、イブスウィチ）に於けるものであり、四個は都會（チエルシー、セントバングラス、バタシー、イズリントン）に於けるものであるが故に人口の多き中心地に於ける失業者問題にのみ關係せるものである。加之該記録の確定数は餘り少なくして或る職業の失業数を正確に表はしてゐない。又此等の算定を提出した中心地の数が充分に澤山でないから、或る職業の一般的状況を表はすものとしては妥當でない。何となれば一二の特殊な地方の産業上の混亂が不當なものに影響を算定数の上に及ぼし得るからである。

該統計の就職は男子に於ては冬期よりも夏期に良好であると云ふ一般的法則と甚だ密接に一致し

てゐる様に見える、女子の統計は少數であり不規則であるが故に殆ど價值を有しない。

建築業及一般的労働者が失業者の殆ど半数を占めてゐる。次に町の運輸業の数が此等に迫つてゐる。車屋、馬丁、騎手、運搬人、使丁等が該表中の主なるものである。然し此等の數字は失業者を示すものとしては種々なる事情の爲めに効力を減殺される。熟練職工は職業紹介所の記録に名を載せることは稀れである。彼等の腕で仕事を求めるか、知つてゐる所へ自ら申込んで行く。多くの熟練職の婦人、事務員及び其他は自己を失業者として公けに記録するを好まない。雜役婦人や其他の日傭人夫は職業紹介所を屢々自己の連絡を廣くする手段として利用する。

この目的の爲めに彼等の失業の量を偽つて表はすのである。家庭若くは小工場の不定な職に従事してゐる労働者で、職業紹介所の存在を知つてゐるものは稀である。衣服業に従事してゐる男女の数が此の記録に甚だ少ないのは此の事實に依るのであらう。職業紹介所の存在、目的、價值を知つてゐるか或は知つてゐないと云ふことや自己を失業者として公に承認するを欲するか或は欲しないかと云ふこと、仕事を得る他の善い方法のあること、職業紹介所の有力な援助のあるらしきこと等は此の職業紹介所に登録することを決定する「要素」の數種にすぎない。

而して此等の事項によつて職業紹介所の記録は産業社會の失業の分布を表はすものとしては餘り

役立つものでないものである。

職業	男子											
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
建築業	534	394	265	208	265	264	218	181	222	298	357	335
器械金屬業	168	203	182	151	122	149	162	167	170	143	159	148
木工家具業	224	79	64	27	18	25	62	69	55	58	53	37
印刷工製本	45	42	28	33	14	18	33	15	18	18	16	12
衣服業	28	21	20	6	8	10	7	17	16	15	1	1
車屋馬丁	256	333	302	339	240	207	262	283	248	245	264	232
事務員倉庫	125	158	162	108	130	92	126	140	132	103	127	104
労働	320	280	283	204	234	168	195	205	239	261	221	207
運搬使丁	537	1,123	819	743	535	541	520	550	496	795	833	777
一般労働	179	227	241	223	241	230	179	171	205	179	261	235
其他の職業	2,266	2,850	2,365	1,921	1,777	1,993	1,732	1,798	1,790	2,125	2,300	2,078
合計	2,266	2,850	2,365	1,921	1,777	1,993	1,732	1,798	1,790	2,125	2,300	2,078
青年及少年	237	234	272	255	299	206	227	227	247	160	139	97

職業	女子及少女											
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
洗濯女	4	5	4	2	1	5	7	1	2	2	2	1
仕立裁縫	33	25	9	7	7	15	10	32	18	13	21	11
雑役婦	186	121	146	124	127	153	151	134	124	142	175	124
召使	123	80	60	48	46	36	76	84	68	46	35	24
其他	23	52	42	17	20	19	22	14	13	15	23	2
女子及少女	359	276	261	188	210	228	255	255	235	228	255	162
合計	2,872	3,357	2,898	2,364	2,236	2,227	2,204	2,270	2,262	2,493	2,704	2,327

第三章 失業は増加するか

一 近代趨勢と就職の不安定

前述の如き勞働力の徒費は仕事の慢性的不足より生ずるであらうか、或は仕事の不規則に原因するであらうか。此の疑問に對しては肯定的にも否定的にも同一の確信を以て答へられる。現在の失業についての正確な算定を爲し得ず、又過去の失業については全然算定がない故に直接の證據によつて此論點を決することは出来ない。然し異なる産業の性質の變化や此等幾個の産業に雇傭されてゐる者の率から推測すると英國に於ける就職の一般的状态は非常に不規則であつて時間と勢力との徒費は半世紀前即十九世紀よりも大である。

二 市場の擴大

職業に不規則性を與へる條件が特に三ある。第一は市場の擴大である。製造業者或は商人が小さ

い地方市場に供給をなし、其市場の顧客を知つて居り、其等の顧客の消費は大體定まつて居り、而して此等の製造業者や商人が此の小市場以外に供給することが出来ない時には、該地方の需要は規則的である。従つて生産も規則的である。競争者の生産の方法や資源が知られて居り、又それ等は一度作り固められた「愛顧」を奪ひ得る程急激な變化をなし得ないのである。市場の擴大は先づ直接に交通運搬の方法の改良に基づくが、此の市場の關係範圍の擴大は商人をして國內の遠隔の地や外國にある競争者と激しい競争をなさしめるに至る。その競争者が何れ程あるか、その經濟的資源如何、その生産方法如何等については彼は通曉してはゐないのである。彼が此の廣い市場の動勢に精通し様と最善の努力をなすと雖も、市場は不斷に擴大して行き更に複雑となつて行く。それ故に彼は世界の穀物や羊毛や鐵の市場については、嘗つては小區域の市場について知つて居つた様な確實な智識を得ることは不可能なる事が解つて來る。卑近な例を取れば英國の百姓をして小麥や豚の世界市場の狀勢に通曉せしむる様に教育することは全く困難な事である。この世界市場は經濟的、政治的方面の影響によつて膨脹したり縮少したりする。かゝる經濟狀態、政治關係の方面のことは百姓には全く了解し得る範圍でない。以上述べた事實は絶えず増加して行く職業の何れにも多かれ少かれ適用し得るのである。

三 近代産業の投機的性質

個人の事業が空間的に広い範圍の市場に於て多數の未知の競争者と競争せざるを得なくなるのみでなく、時間的に於ても亦擴大せざるを得ないのである。即ち製造業は次第に現在知られてゐる欲求を満足せしめるものではなくなり、次第に將來に豫期せられたる欲求に對して備へるやうになり、資本家の生産機關の補助的分布を授けるやうになる。それは益々複雑となつて行くのである。即ち確定した注文に應ずる仕事は次第に尠なくなり、豫想の出來ない賣行の機會に應ぜんが爲めの仕事は漸次多くなる。換言すれば事業の大部分が「投機」の性質を負ひて來るのである。生産力の誤算や狙ひ違は本來投機的事業に附隨するもので、雇傭の上にも不規則性を與へるものである。

失業の直接原因を論ずる時、此の仕事口の不規則が如何に密接に近代の機械と動力との應用に關係してゐるかが解る。工場に於ける固定資本と機械との協同は仕事の繼續を各事業に強ひる傾向を有するけれども、中止又は縮少によつて蒙る損害が大であるが故に、其事業は次第に其人自身の意志や力に支配されなくなり、次第に彼の支配し得ない廣い職業的諸勢力に支配されるに至るのである。其の職業的諸勢力は價格の昇降によつて彼を壓迫し彼をして或は擴張せしめ或は縮少せしめて

不斷に動搖せる政策を強ふるのである。それは即ち資本及び労働の徒費を含んでゐるのである。

四 趣味と流行との影響

趣味や流行の影響が強くなつたことも同一の結果を齎らすのである。大多數の労働者は絶えず享樂品や贅澤物の生産及び頒布に従事してゐる。此等の物は消費者や商人の氣まぐれに従ふものである。此等の商人は流行の變化に對して責任がある。それで絹布業は木綿業や毛織業と比較して其價格や仕事が常に不規則であつた。而して其不規則は頗る迅速で微妙なる流行の變化が一般消費者に多く行渡るに従つて増して行く。嘗つては或る種類の絹リボンに對しては不斷に又可成確實な需要があつたから、製造もし仕入れて置いても安全であつたが、然し現今ではその流行の變遷は非常に迅速に擴がり一般消費者に敏速に行渡るから、最早や製造して貯へて置く譯には行かなくなつたのである。一般に日用品や贅澤品についても同様である。此等の趣味の急激なる變化は次のことを前提として見て始めて満足なる供給を得ることが出来るのである。即ち生産力の大剩餘があつて、或る時期にのみ充分に使用して、他の時期には中止して置くのであるか、或は又資本と労働の轉換力が非常に大で何等目立つ程の徒費なくして、流行の變化に應じて生産することが出来るからであ

る。その道の者ならば誰も此の後者が正しいとはせぬのである。それ故にかういふことになる。即ち趣味と流行とが益々産業を支配し、それに對する適應性が生産力の大發展によつて増加されるに従つて、仕事口の不規則が増加してくる。

五 労働の轉換——一般對特殊能力

前述の如くにして就業の不規則性が増加されるのであるが、労働がある所から他所へと移動したり、一職業から他の職業へ移動することが甚だ容易となつたが爲めにその贖ひが出来ると説く人がある。一地方から他方への労働の移動については多くの物品の市場を擴大したと同一の原因が此の労働市場を擴大せしめたと言ふことが出来る。ある職業の地方的不況のために職を失つた者は他の地方へ行つて同一の仕事に就くことが出来る。それは以前よりも更に容易になり、また迅速になつたのである。けれども私は此の労働の流動性の増加が一般職業の流動性の増加と一緒だとは信じない。『人間は總ての荷物中最も運搬に困るものである』と云ふアダム・スミスの言は尙ほ眞理である。

或る職を失つた近代の労働者が漸次容易に他の職に就くことが出来る様になつたと經濟學者は運

々主張する、特殊の熟練手工を「一般的」能力に代へるのが近來の傾向であると主張してゐる。以前は手工業の職人は特殊の手練を獲得せんが爲めには多くの歳月を費したのである。若し彼が他の職を見出さなければならぬ時には同一の緩慢なやり方で新しい手工の熟練を得なければならぬので、彼が新しい職を撰擇するにしても、もう既に彼の以前の特種な發達のために一般的發達力が阻礙されてゐる新たな方面の發達には制限を加へられてゐるのである。當今は或る特殊の仕事に従事してゐる者が職を離れた時に、數週間或は數ヶ月にして他の職を習ひ得るし、或ひは前に従事してゐた職に類似の仕事をして他の職業に見出すことが出来るとは云はれる。現今の普通の労働者に労働力の轉換性が増したか何うかとの疑問に對する答は二個の考察すべき事項に依存してゐる。第一は職業の構造即ち性質に關係してゐる。

六 労働の分化は製造工業に於ける就職の保證を與ふる乎

近代の製造工業界に於ける被傭者即ち労働に従事する者の労働を概略三つの階級に分けねばならない。(一)器械の注意、労働者の監督に於ける一般的労働、その中に監督者技師、器械の運轉及修理係の鍛冶等の仕事を含む。(二)ある一事に使用せらるゝ特殊の器械を取扱ふ専門化した労働(三)

手工或は特殊器械を指導し制御する者によつてなされる特殊な仕事の極めて熟練せる労働。

労働轉換性の増加の主張せられる時には第一と第三の一部とがその中に入るのである。監督と云ふ仕事は多く一般的性質を帯び大なる損失なくして一職業から他の職業に轉換せられ得ることは明白である。その様に又蒸氣機關及び動力を生ずる爲めの諸般の機關及びその動力を他の特殊の器械に送致する機械なども多くの工業に於ては大概類似したものである。それ故に蒸氣機械及び器械器具製造業に於ける大部分の労働は轉換し得べきものである。紡績工場で蒸氣機關の取扱をやつてゐた者は同様の機關を使用する他の工場に於ても職を得ることが出来る。多くの職業が或る共通せる根本的性質を持つてゐることは明らかで、従つて此等の職に従事してゐる者が大なる轉換性を有することは明白である、又金屬工業や紡織業には特殊の手續が要るが、此等は又類似の性質、類似の材料を取扱ふが故に相互に連絡がつく。

ヨークシャの毛織工場から、ランカシャの木綿工場へ織物工の移動する経路のあるのは今更稀らしいことではない。コベントリーの時計屋が自轉車業といふ時計工よりも微妙でない仕事に轉つた。然るに又此自轉車業はバーミンガムの金屬工業の職工の中から最も容易に新職業に適應し得る者を誰れ彼れとなしに引張り込んだ。然し若し此労働の「非専門化」の徴候が、専門的才能よりも一般

的才能の方が益々重要になつて來たことを證してゐるとか、或は労働者に自由選擇を増し與へたことを證してゐるとか、著述家達が云ふならば彼等はそれに反對の二勢力に氣付かずにあるのである。該「非専門化」と同時に労働の不斷にして更に細かくなり行く分化が「非専門化」よりも、もつと一般に行はれて行くのである。現代の代表的労働者である器械職工はその仕事に絶えず狭くなつて行く。建築業に於ける一般的職人といふものは既に消失して了つた「鉛管工」の込入つた多方面な仕事は漸次専門化して機械に取つて代はられ、今は單に「組立工」たるに過ぎなくなつた。此分化即ち「専門化」は慥かに現代の傾向の主潮である。而してかの「非専門化」は「専門化」よりも力の劣つた反流にすぎないのである。近代の労働者の中に専門的能力よりも一般的能力が重要さを増して來たと云ふ人達が若しそれは經濟的自由が増大したことを證據立てると考へるならば彼等は誤まつてゐる。近代の労働者は「非専門化」されてゐない。その反對に平均して見れば餘程「専門化」されてゐるのである。然し餘りに深く専門的凹溝に陥り込んでゐるのではない。それ故に若しもその溝から出るにしても、それ程損失はしない。現今に於ては彼の仕事は一般的能力の大量を要すると云ふよりは寧ろ専門的熟練の小なる量を要するのである。近代の器械職工に於ては一般的能力が唯比較的重要なのみである。

七 他の産業に於ける労働の轉換

製造業から天産(農産)業即ち食物原料及び製造工業原料を得ることに直接に關係してゐる産業に眼を轉ずるならば労働の轉換力の増加を見出さない。地方から地方への労働力の轉換力だけは増加してゐる。スコットランドやダラムの炭坑夫はペンシルバニアで職を求めることが出来ようし、又コーンウォールの錫坑夫は南亞弗利加に移住することが出来よう。けれども『一度坑夫なら、永久に坑夫といふ』諺は尙ほ眞實である。而して坑夫は甚だ狭く専門化されてゐると信すべき理由がある。而して近代の烈しい競争に於ては薄層の「掘鑿者」は厚層の炭坑に於ては有利に働く機會を以前よりも、もつと失ふて了つた。

若い農業労働者はもつと廣い撰擇の自由を有つて都市の労働に就くことが出来ることは疑ひもない。然し彼が一度農業労働に陥り込んでしまつと、それを棄てて最早職工又は其他の都市の労働に就けなくなるのは、水夫や兵隊や漁夫と同じことである。

運輸や通信配達業の種々なる部門には随分轉換し得られる多くの労働が含まれてゐる。多くの鐵道労働や若干の波止場の人夫即ち例へば陸揚仲仕の仕事の多くは大いに専門化してゐるけれども、

其等の大部分は荷馬車の馬力や使丁等の仕事と同様に或る共通した筋肉の力と、機智とを土臺にしてゐる。此等は多くの損失なくして直に他の運輸業務に轉換せられ得るのである。鐵道運搬夫や、倉庫労働者や馬を驅り飼養し慣れてゐる男などは多くの職がその前途に開けてゐるのである。

各種の商業の方に於ては書記や店員がその慧敏とか正確とか熟練の能力とかに依つて役立つてゐるそれ等の能力は特殊の職業に屬するのではなく、寧ろ一般の職業に屬してゐるのである。運輸や運搬配達に従事する労働の増加は特殊の労働力よりは、一般労働力に重きを置く傾向を生じた。然し器械が次第に此等の職業にも侵食して來たが爲めに、製造業に於て行はれてゐる労働の分化がこゝにも侵入して來て、現在の労働轉換力を減殺するであらう。

鐵道労働者及び汽船の水夫の労働は、馬車の馭者や、帆船の水夫の労働よりも専門化されてゐる。それ故に新しい經濟的勢力が労働の轉換力の増加によつて労働の規則正しさを増大して行くとは確信出來ない。

八 職を失ひし労働者が轉職し得るか

若し近代の産業(特に製造工業)に於ける特殊の方法は、以前程に時間と勢力とを費す必要がな

くなり、従つて一特殊職業を止めて他の職業に轉ずることが出来ることと云ふことを承認したとしても、彼が其の他の職業を得ることが出来るとは決して結論する譯には行かない。労働の轉換力が一般に増大したと主張する人達の第二の誤まれる假定を我々が反駁するのはここである。近代産業が一職業から他の職業への轉換力を増大せしめたとした所で、此他の職業が外部者に就職口を與へなければ何の効果もないのである。特別の勢力と企圖とを所有せる者は續々他の職業に轉じ得ることが出来るであらうけれども、然し其の機會が與へられないのである。労働組合はその實際的見地からして、學理的經濟學者の屢々否定する事實を肯定するのである。即ち一般に産業界を通じて、熟練的のものにして、不熟練的のものにせよ、労働の供給が需要を超過してゐるのが常態である。それ故に彼等自身の利益の爲めに、外部者が、組合員と競争するを困難ならしめる様に全力を注いでゐる。組合組織が強固になればなるだけ、此政策は嚴重に實行せられるであらう。そこで一職業から他の職業に轉ずることは、現今の産業制度そのものは許すのであるが、他の社會的勢力の爲めに碍けられると云ふことになる。

かくして我々はかく結論せざるを得なくなる。即ち所謂労働の轉換力の増大は、就職の不安定と不規則と失業とを助長する力に對抗するには微力である。被傭者即ち労働力を提供する労働者の總

數中の大部分は、産業生活の新状態の下に
 様になつてゐるのであるから、前に述べた原因にも
 とづく失業の眞數は増加してゐるに相違ない

第四章 失業の小原因

一 失業問題と個人道德論

「失業」に直接關係する各種經濟原因の輕重を知らむが爲めには、既に述べて來た解析より推論するのが有効であらうと思ふ。かの「慈善事業家」及び道德論者の如く、全然經濟思想を缺く人々は一般に、失業其他の貧困問題を徹底的に議する唯一の途は個人の品性問題を議するにあると考へて居る様であるが、之れは取るに足らない説だと云はなければならぬ。尤も斯から詭辯も總じて個人主義的見解を以つて社會に臨まむとするものに取つては必要な議論に相違ない。或都市の主要なる不況の爲め平時従業者の一割が失業せる場合、慈善事業家は彼れ一流の個別穿鑿主義によつて活動を開始し、個々の事實につきて綿密なる調査をなし、その結果、一割の失業者の多くは道德上、財政上何等かの缺陷を有せることを發見する。即ち是等失業者の多數には、飲酒、怠惰、無能その他個性的缺點の認むべきもの乃至彼等の責任に歸すべきものの有るを知る。此處に於て「徹底的穿

鑿家」は、失業者が各自失業すべき充分の理由を具備して居たとするのである。そして「失業」の原因は個性に有りとの結論に到着するのであるが、之れ素より不合理極まるものである。勿論個性的原因を見て、一割の失業者が如何なる人物より成れるかは、大體に於て見當がつく。併し是等は眞の意味に於て、失業なるものゝ助成的原因にもなり得ないのである。種々經濟的原因の爲め勞働の需要減少する時、競争の結果は自然比較的劣等の職工が職を失ふことになる。比較的劣等だといふ理由には徳性の場合もあり、又技能の場合もある。若し彼等に徳性乃至技能上の缺陷が無かつたとしたらば、彼等は依然として在來の職業を繼續し得たであらうが、その場合必ず他の一割の人が埒外に放逐されて居る譯になる。故に個性的原因が失業の一大原因と成ることは決してない。但し何人が失業者たるべきやば多くの場合これによつて決定されるのである。個人道德論者は、「貧困は若干の孔穴の如く、即ち雑多なる慈善の注入によつてよく之れを満すことが出来る」といふ想像の誤謬を發見するに急であつて、併も彼れの「失業」に對する解析と處理法が自ら非難せるものに甚だしく類似せる誤謬に陥れることに思及ばないのである。

二 個性論者誤謬の真相——失業者を決定する品性

第四章 失業の小原因

缺點有る人々の個性と技能を向上せしめることは、彼等自身の爲めにも道德的見地からも誠に結構なことであるが、之れを以て失業の軽減に直接の効果を有するものだとは云へない。

著者の論を以て或は過激に涉ると評する人もあるか知れないが、事實は全くその通りである。マツキンレイ海關税の影響が、ブラッドフォード市の事業不振となり、失業となつた。之れは事實失業職工の徳性、技能的素質が原因ではない。是等失業者は、其不振時代尙従業を繼續せるものに比し概して技能も劣り、信頼すべき點も少ないものであつたらう。けれども假りに彼等をその徳性、技能の陶冶によつて従業繼續者の標準まで引上げ得たとして、果してブラッドフォード市に及ぼす外界の威壓を阻止することが出来るかと云ふにそれは出来ない。更に彼等に代はる他の人々が職を離れる、それ丈けのことである。絹リボンの使用が急に廢れたらば、コベントリー市の織物職工の仕事は減少するであらうけれ共、その職工の徳性、技能の向上が既に生じたる失業の總量を變ずるものではない。よしむばブラッドフォード又はコベントリー市職工の一般能率を高め、不景氣の際一時的に他の都市或は他の國々の競争者より低廉なる賃銀を持し、以つて自己の職業の幾分を維持することを得たとしても、要するに他地方の微弱なる競争者の失業によつて始めて自己の安全を得たに過ぎないので、職業の總量に於ては前同様の失業者を出す譯になる。又、生産力の増進は、失業

の保證となると考へる向きがある。併し失業期には必ず生産力の著しき過剩のあるのが特徴の第一とすべき現象であるといふ事實に打かつて來ると、その説も即座に破れる。

職工の智育、徳育を助成する凡ての努力は、生活上の欲求を刺戟する範圍内であれば、その結果が商品需要の増加となつて現はれて來るから、間接には雇傭を支持するの扶けとなるとも云へやう。併しその失業が個性的缺陷にあると云はれる者も、普通の好況時代には概ね一定の職業に従事して居ると云ふ事實があつて見れば、劣等なる徳性、技能が失業の原因の大部分であると云ふのは當らないだらう。又徳育、技能教育が直接に失業を阻止又は救済する力あるものと想像するのも當らない。

貧民救濟事業に没頭する人々が、屢々斯かる個性論者の詭辯に誤らされるのは恐らく止むを得ないことだらう。彼等は個性的缺陷を以つて、甲又は乙又は丙が一定の職業を得ざる直接にして充分なる理由と見るのである。故に若し社會全般を單に甲と乙と丙の表はす特殊の人々の集團で有ると考へれば、この個性的缺陷を以て社會全體の貧窮若くは失業一切の原因の説明者とするに充分であると思はれて來る。個々の場合のみに思を潜め、所謂樹木を見て森林を見得ざる人に取つて之れは當然の結論である。然して此結論は個人別と、個人の表現せる有機的渾一、この兩者の相互關係を

無視するものだ。これを失業原因の説明と見る場合、此の議論の論據たるや、より大なる各種經濟的威力の作用を全然否認し、且つその作用は一定時に勞働社會が雇傭を受くべき分量を決定するといふことを眼中に置かないのである。有ゆる經濟學者の認むるが如く、果して外界よりの威力の作用するものがあつて、それがかの羊毛及製鐵業の雇傭收縮を誘致するの傾向を來し、事實その失業率は前使傭者の（假りに）三割に達したとした時、慈善事業家が、此經濟的威力を無視し、單にかの職工中の甲、乙、丙何れを三割の失業者中に加ふべきかを決定する如き、個性的動機を「失業」の原因として擧ぐるのは愚かである。

産業界必然の複雑性を有機的に考察する力は未だ一般に微弱である。貧困と失業問題に一家言をなすと自負する多數の人々の間にも、個々の例に就きての調査以外、徹底的、科學的研究なしとする意見が頗る勢力を有して居る。之れ著者が此問題につきて力説の必要を感じた所以である。

三 機械と失業の關係

「失業」と「就職」の大部分の因つて來たる所は、或種の職業の性質上必然的に起る「小失業」でもない、又機械装置、生産方法、乃至市場の位置、それ等の變更の如き世人の認めて此問題の眞の

原因とした處のものでもない。私はその説明が立派に出來ると考へる。或特殊の場合、手工と機械の置換、乃至は政事上の重大事件が市場に及ぼす影響の爲め、大規模なる各種失業の突然に起ることとは勿論ある。併し輓近の英國勞働界のみを觀察する時は、斯かる事情を以て勞働界の大波瀾を説明することは出來兼ねる。

機械の改良、手工との置換、その必然の結果の一として「大失業」を呼起すとの考は誤である。或仕事に新機械を使用する時、今日の場合、職工に及ぼす損害は二重である。即ち彼等の有する特殊技能の市價は減少するに非ずむば失はれる、従つて又彼等の幾部或は全部は彼等の特殊技能を利用する機會のない仕事を探求する必要がある。併し勞働市場の大勢が需要逼迫の際ならば、前記の失業者は速かに吸収せられ「失業」による消耗の總量は甚だ僅少のものであらう。一八七一—四年の好景氣時代に於て、英國の多くの工業機械は長足の發達をした。そして幾多の所謂勞働「節約」が行はれた。特に之れは製鐵業に於て著しかった。然るに勞働の需要が甚しく増加し、職工の失業率は常に云ふに足らぬ程小額であつた。「好景氣」時代に機械の發達を見る場合、量に於て大なる失業と貧困は決して生じ來るものではない。故に改良機械の使用その事だけでは失業の主要且必然なる原因と見做すことは出來ないのである。

四 小原因の評価——大原因は不景氣

是等機械の變更、勞働界特殊の波瀾は勿論數に於て夥しく、又絶えず起つて來る爲め、長年月に涉つて考察する時、夫れ等の影響は却つて減少する様に思はれる。そして之れより來る「失業」量は可なり恒定的であると考へられる。勞働省過去十年間の失業統計を一見すれば此結論の有力なことを示して居る。

勞働省失業統計 (全國勞働組合の報告に基く) (百分率)

年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
一八九三年	一〇〇	九・五	八・七	六・九	六・二	五・八	六・二	七・一	七・三	七・三	七・二	七・九	七・五
一八九四年	七・〇	六・三	六・五	六・一	六・三	六・三	七・四	七・七	七・六	七・四	七・〇	七・七	六・九
一八九五年	八・二	七・九	六・五	六・五	六・〇	五・六	五・三	五・二	四・九	四・九	四・三	四・八	五・八
一八九六年	四・五	三・八	三・五	三・二	三・三	三・二	三・一	三・四	三・六	三・三	二・九	三・二	三・四
一八九七年	三・三	三・〇	二・五	二・五	二・三	二・七	二・七	三・五	四・四	四・七	四・八	五・三	三・五
一八九八年	五・〇	四・四	三・一	二・九	二・七	二・六	二・六	二・八	二・六	二・五	二・三	二・九	三・〇

一八九九年	三・〇	二・六	二・五	二・二	二・二	二・三	二・三	二・三	二・三	二・三	二・二	二・二	二・五	二・四
一九〇〇年	二・七	二・九	二・三	二・五	二・四	二・六	二・七	三・〇	三・六	三・三	三・二	四・〇	二・九	
一九〇一年	四・〇	三・九	三・六	三・八	三・六	三・五	三・四	三・九	三・七	三・七	三・八	四・六	三・八	
一九〇二年	四・四	四・三	三・七	三・九	四・〇	四・二	四・〇	四・五	五・〇	五・〇	四・八	五・五	四・四	

五 短期變動と長期變動

扱て此熟練職業の統計に於て、「小失業」及新機械採用等に因る特殊失業が年比較に於て可なり恒定的數を表はす側と見て差がないとすれば、表中失業の高級數字に對する説明として更に大なる何等かの威力を承認せざるを得ないことになる。一九〇〇年一月に於て必然的「小失業」も、特殊失業も共に行はれて居て、それで漸く二歩五厘の失業を生じたに過ぎない。然らば若し吾人が、一九〇三年一月に於ける一割の失業を説明せむとするならば、その理由を他の一個若くは數個の原因に求めねばならない。年を單位として比較を試みる時は、失業の多數を左右する力は單に一年を限りとせざる更に長期に涉つて働く力であると云ふことが明かになつて來る。短期の小原因を如何に綜合するも一八九九年の失業平均率僅かに二歩四厘、反之、一八九三年の七歩五厘、一八九四年の六歩

九厘を示せる理由を説明することは出来まい。

熟練職業のこの統計が一般に労働界波瀾の検索と考へ得るものとするれば、その労働界の大不景氣こそ吾人論究の中心的要素であつて、澎湃たる世界的波瀾の威力を緩和するに足らざる姑息手段救濟法の如きは又多く取るに足らないものである——これが厭でも吾人の到達しなければならぬ結論である。

六 同盟罷業は失業の原因か

仕事の値と量の週期的變動を、過去半世期に涉つて綿密に研究したことの無い實業家などがよく同盟罷工を労働界不景氣の主因でなければ、重要な助成的原因であると定めて仕舞ふことが随分よく有る。そこでナシヨナル・レビウ(國民評論)誌の記者まで次の様な議論をすることにもなる。(エイチ・デンデイ女史『社會主義宣傳』一八九五年九月號)。即ち一八九三年初期に於て「失業」率高きは機業ストライキに歸因するといふのである。更に又、必然的失業、特殊失業を以て説明し得ざるものは皆職工の過當なる要求より起る一時的事業停止と見るべきであると云ふ。「是等の職工はその傭主に反き、不當にして不可能なる要求をなす。然して罷工又は工場閉鎖來り、次いで彼等は職業と

賃金を得ること能はざる者の役割を演ずる」——とは凡ての階級を逼じて輕率なる人々のなす批評である。抑も大同盟罷工及び高い失業率には始から密接の關係などはないのである。其證據には、組合が充分に整頓されて居て、労働省へ立派な統計報告する様な職業、又は之れに密接な關係ある職業に於ては、重大なストライキの起つたことは比較的に少ない。偶々機業工ストライキと「失業」の高率と一致したのは例外である。又假りに大失業期が同盟罷工、若くは職工の行動に起因する閉鎖によつて伴はれるとしても、吾人の研究を其處に止めて仕舞ふと云ふことは全然當を得ない話である。大同盟罷工は多く労働界沈滞の症狀であり結果であつて、原因ではないといふことを證明する立派な例がある。近年の三大ストライキたる船渠労働者、機業職工、炭礦夫同盟罷工は凡てこの種のものであつた。シオールツ・デーベルニツチ氏のなせる英國産業の綿密、公平なる研究によれば、一八八九年の船渠人夫大罷業の眞原因は船渠會社の財政的弱點にあつた。「餘りに多くの船渠會社が建設せられたる爲め、會社と會社の間に尤も激烈な競争が行はれた爲めに財政が保てなくなつたのである」(『社會の平和』二二六二頁)。「一八九三年の機業職工罷業は「生産過剩」による賃銀の永續的下落に起因したと云はれて居る」(デ・ルウヂェー氏『英國労働問題』(四五五—八頁参照)。炭礦業も同様な威力の壓迫により契約賃銀の減額となり、減額は遂に炭礦事業の大閉鎖となつた。時として

表面上他の理由が主となる場合もあるが、近代の罷業はその職業の生産力過剰といふ但書が付いて居て、その爲め傭主は価格を低減するの止むなきに至り、低廉なる物價は、賃銀減額若くは新機械使用乃至勞働の需要を直接減少すべき他の節約方法によつて始めて利益を見る。ストライキにして自發的失業と認め、その經濟的原因の解析に當つて多少の斟酌を加ふべきものは、賃銀の標準額を高めむとする場合、若くは或種の職工の經濟狀態に一定の改善を志す場合、若くは稀れに起る同情罷業の場合などであらう。概括的に云へば同盟罷工は勞働界不振の原因でなくて結果である。その起るに先立つて來るものは其職業が生産に干與する物資の價格の下落である。

七 需要なき勞働及需要なき資本と土地

最後に述べて置きたいことが一つある。それは此疾病の性質と輕重の理解である。勞働者の「失業」(即ち勞力の浪費)のみでない、此不振の時代に於ては勞働者の「失業」の外に、資本の「失業」をも見るのである。併も此事實を、職業と職業間の資本、勞働の不整理であると片付けて仕舞ふことは出来ない。勞働界不振の時期に於ける産業の著しき特徴は、一二の職業に止まらず、産業界一般に勞働も資本も「失業」狀態を現はすことである。此現象の真相は生産力の過剰といふことであ

る。そして現代社會に於て勞力の徒費といふことは明かに、より大なる經濟問題の重要な一面に過ぎない。今此處に生じ來れるが儘、此問題に暫く思ひを寄せるのは吾人にとつて適當な處置ではなからうか。

『小麥栽培の地域は廣大無邊であつて地味は肥沃、豐穰の年は全收穫を地に任ねてその腐敗に任かす畝の数々がある。反之して幾萬の英國勞働者、幾百萬の露國農民は食とするに充分のパンを得ることが出来ない。之れは如何した譯か。ランカシア州には同時に作業することの出来ない程に多數の機業場を有しながら、マンチエスター市幾萬の住民が立派な襯衣の着れないのは如何した事か。炭礦と炭礦業者は有餘まる程出來て來た、何故幾十萬の人々が石炭缺乏の爲め寒さに震つて居なければならぬか。』

之れは人氣取りや煽動に思付いて發した質問ではない。今や男女を問はず思想家の胸中に益々力強く迫りつゝある重大問題がある。『吾人の消費の一般標準が、現代の進歩せる機械と生産方法、現代株式の資本と勞働が齎し、捧ぐるかの生産力の異常なる増加に、充分拮抗する程度にまで高かまつて居るか否か。』此問題の性質は充分に徹底せしめて置かねばならぬ、吾人が先きに爲せる質問の目的も之れに外ならないのである。

第五章 失業の根本原因

一 失業問題、断片的研究の誤謬

社會學者の産業界に對する研究が、徹底といふことを履違へ、之れを過重視する結果、屢々断片的になり、大なる統一的作用を見通がす様なことがある。實業家であつて、其興味、共鳴する處が或特殊な方面に専らであるといつた場合に、彼等の知れる局部的徴候を以て、産業界全般に渉る疾病の症状と見做すのは自然の數で無理もないことである。が、かの爲政家、經濟學者を以て任ずるものが、「失業者問題」は凡百の相異なる問題を單に細目に涉つて研究すれば宜い、又之れが解決には凡百の相異なる局部的救濟法によらねばならぬと強辯するのに全力を舉げて居るのは感服が出来ない。こんな局部的研究も大に必要には相違ないが、併しそれは單に第二次的な助成的原因を知らしめて呉れるまでのものであつて、此問題を明瞭に了解し盡すには、此断片的智識を集積し、綜合して更に高い統一あるものとして始めて目的を達成することが出来るのである。

勞働調査委員會、失業調査委員會邊りて評判の宜い此断片的研究法も、「徹底」と自ら誇る特徴は缺けて居る。此人々は、經濟的威力の及ぼす一段と大なる作用を研究することを拒み、凡ての「理論的」考察を輕視し、只細末の事實の念入りな記録を蒐集するのみに浮身を扮して居る。彼等は更に大なる根本的の事實を度外視する。併も之れに依らなければ彼等の細目も整理や説明が出来ない。英國人は元來こんな「失業者」問題などといふものに出逢すと、先づ以つて之れを幾つかの小問題に分割し、更に之れを一層微細な無數の項目に切り訶ますには居れない性分である。それから愈々「證據」材料の蒐集に取掛かる。それが又皆下らない局部的の事實と數字計りで、青表紙の（報告書）などから集めたものを生煮への儘でこてんと盛上けるのである。時としてこの問題全般の或部分丈は之れを概括し、その歸納に達せむと試みることもある、併し更に進んでその題目の全一的證明に達せむとする努力は見る事が出来ないものである。

二 統一ある系統的研究の必要

念入りな細目の研究大に必要である、やらなくてはならない、が今一つの方面を放擲しては困るのである。そんな方法は科學的でなくて非科學的であらう。それは統一ある有機的の題目を、煩瑣

な無系統的方法によつて研究を進めむとするものである。徹頭徹尾科學的ないふことは、有機的渾一體を切截して幾多の無系統的斷片にすることだといふ考へも、社會學研究の聲價に尤も有害な影響を及ぼすと有つては、單に戲談事で済まされなくなつて來る。元來「分割の根據」なくして分割し、分割した研究の結果を提けて、其題目を全一的に包括した哲理的説明を與へむとする企ても決心もなくして分割するのは、眞の科學とは云へないのである。「大にして一なる社會問題は無い。小さき多くの社會問題が有るのみだ」——とは、ガムベタの言として傳へられて居る。是れ又英國多數の經世家、經濟學者の態度であり、政事家、學究の典型的立場である。其問題の渾一性を承認して始めて社會學は存在する。社會研究の發達しない理由は、社會學の存在性を事實上否定するこの虚説が勢力を占めて居る爲めではないか。我國の公共的調査會などが、生硬な事實を集めた製表から手を放して時々試みる概括的な批判などが、極めて漠然渾沌として居るのもその爲めである。労働調査會の結論的報告に、此種の批判の面白い一例が載つて居た。該報告中、労働需要の亂調子な諸相を、一段と廣い處から見て一言なかるべからずといふ處へ來て、次の様な言辭が洩らしてある。

「我國職工需要の亂調子は種々の原因に基くものなり。此所にその主なるものを尤も簡單に指摘せむに、是等週期的波動は概ね、商業上の信用状態、及び實業家が新企業を試みる慾求の多少とに若干の關係を有せざることなし。今や各國の信用状態は、全世界を通ずる實業界の一般状態に支配せらるゝこと年と共に益々多きを加ふ。」

此三段論法の中名辭は抜きとして置いて、吾人は立派な歸結に達する。即ち、職工需要の亂調子は實業界の一般的状态に基くことである。

三 問題の中心と生産力の一般的過剩

労働調査委員會の報告、又労働省報告書中失業原因の説明等を見ても「失業者」問題の中心、即ち不景氣となつた時、労働、資本、土地の三つが同時に需要を失つて仕舞ふといふ事實を全然認め居ないことが判かる。著者が得た丈けの統計について見ると、如何しても「失業者」問題は高低労働界不景氣問題の主要なる一面であるとしか考へられない。經濟眼を以てすれば。不景氣は一般の物價低落、利益減退と見えるだらうが、又産業組織の疾病として考へれば、種々生産の原動力が一般的に不活潑であるか利用不足であると見るべきである。然るに英國經濟學者の中で、假りに傳習派と稱すべき人々の労働、資本、土地同時に過剩を生ずる理由を説明しやうとした苦心の跡は見

ることが出来ない。彼等の立論によると労働の過剰を生ずることはあらうが、それは労働の援助者となつて生産を促す處の資本が缺乏するからである。元來資本と労働のみが富の生産唯一の必須條件であつて見れば、二つ共に過剰を生ずるといふが如きは、有り得べからざる事であるといふのだ。彼等が此難問を常に迎へる態度は、生産力の一般的過剰の事實を否定せむとすることである。彼等は主張する或種の職業に資本、労働の使用が過度に失したといふ事は有らうが、之れは例の「見當違ひ」といふ痼疾である、生産力が一般に過剰を生ずるなどといふことは有り得ないことだと。

四 經濟學者の三段論法

先きに掲げた意見は、生産の目的が賣るのにある以上、生産品は何によらず必ず賣ることが出来又必ず賣れもするといふ三段論法を基礎とするのが常である。その假説の當否を論ずるのは後廻しにして、此所では次のことだけ云つて置けば宜い、即ち或種の職業の生産過剰は、他の若干職業の生産不足となるといひ、又此痼疾は單に市況を熟知しなかつた爲め自然、生産力の運用を誤つたものと見る説は、不景氣の場合に現はれる實際の事實と一致しないといふことである。一體資本と労働の供給が不足した爲め需要を満たす能力に不足が出来、その結果物價の昂騰する様な職業が何處

に求めて有るのか。そんな仕事は何處にも有りはしない。物價低落、職業不振、需要緩慢は一般的で特殊なものではない。貸付資本の過剰丈けで宜い證據である。假りに生産不足の職業があるとすれば、その遊離資本は其中に流入して仕舞ふだらう。投資を求めて止まぬ貸付資本が引續き過剰を見たとき、健實なる投資の通路が既に滿されて仕舞つて居ると解釋すれば始めて説明が出来るのである。

五 生産過剰の眞意義

併し一口に生産過剰状態と云つて仕舞つては、其處に一種の誤解を來すことが屢々ある。生産過剰なるものゝ意味が、買人なき商品の停滯量が絶えず増加し、市場にその品の過剰状態引續き進行するといふのであるなれば、その様な作用は事實上有るものでないと云ふまでである。比較的少量の商品でも「生産過剰」となつたとき、その過剰の意味が、供給増加の爲め價格を生産の有利限度以下に蹴落したといふ事であるならば、その少量も一職業を「充血」せしむるには足るだらう、若し所定の營業費が額る多額であれば、生産は損失を見つゝ暫時の間繼續せられるであらう、併し必ず其歩調は弛められるだらう、そこで弱氣の事業の活動を中止し、強氣の事業も生産を極度に制限

し、又時として取引上の論争の爲め一時的事業全部を阻止するなど皆要するに時間の問題である。如何なる職業に於ても、實際に同品の産出超過は長期に渉ることが出来ない、但しやゝもすれば生産超過に陥らむとする傾向は、長き年月に渉つて折に觸れ實地の飽満状態となつて現はれて來ることとは無いとも限らない。不景氣の直接原因を指すに用ひらるゝ生産過剰なるものゝ眞意義は、資本と勞働なる生産力が社會の現在又は將來の消費率を經濟的に満たすに要する程度を超へ、一般的過剰状態を持続するといふことである。

六 當局の是認する一般的過剰と勞働調査會の檢證

併し生産過剰とは、生産力が現在の消費率を經濟的に満たすに要する程度を超へ、一般的過剰状態を持続すること長きに渉るといふ意味だとすれば、斯かる過剰状態は現代の産業によつて明かに例證されて居る。現に一八八五年の勞働界不振に對する調査委員會、多數意見報告書は「一般的生産過剰」なる見解を斥けながら、併もその報告書の中で明かに之れを承認して居る。即ち其總論に於て述べた所は次の如くである。

(一) 時代の性質上我國の商品に對する需要は昔と同一速度で増加しない。

(二) 従つて我國の生産力は需要を凌ぎ、更に之れを増加せしめ様とならば俄かに著しき増加をなさしめることも出来る能力がある。

(三) 之れは我國に於て盛んに増加しつゝある巨額の資本の競争にも幾分か起因して居る。

多數意見の報告に於ては勞働界不振の根柢は「物價の下落が長い間持續した爲めである。又其下落は多くの場合、實際この産出超過でなくば需要を凌ぐ産出能力の存する結果である」と云つて居る。調査會は、實業に廣き經驗ある人々が誰でも古くから斥けて居た處の見解、即ち或職業の生産力過剰は他の職業の生産力不足と相殺せられ、所謂一般的過剰なるものは有得ないといふ説を全然覆へして居る。不景氣といふのは職業と職業との間に、資本と勞働との流用を誤つて居るとの意味である——この考は調査委員の兩團體によつて全然拒絶せられて居る。彼等は自己調査中の痼疾は凡ての「生産事業」に共通であると知つたといふのである。多數意見は上記の意味に於ける生産過剰は不景氣の主なる原動力であるとして次の如く斷定して居る。

「生産過剰とは、吾人の解釋では、實地生産の物貨（或は生産力の内存）が、よしその分配は無料であつても消費し盡くせぬといふことでなく、有利の値段で輸出し切れないといふことであり、又其貨物を内地市場に求める爲めに使用する收入、所得が之れに追付かぬといふことである——要す

るに人々に取つて割よく使用し切れぬといふことだ。我國が長い間苦しみつゝある不景氣なるものは疑もなく斯かる性質のものである。』

多數意見は「生産過剰」なる全稱名辭を斥けながら、其現象を是認して居るのは御覽の通りである。

七 近代産業史に現はれたる例證

一八七五年より一八八五年に到る間を通觀すると、普佛戰爭以後の此十年間には資本と労働なる生産力に一杯の需要を見、其次の十年間に於て過剰量のあつたことが知られる。同じ職業病——資本、労働の需要不足——は、一八九〇年以後に於ても判然と見ることが出来る。何の職業も職業も明かに生産力が、現在又は將來の有利なる需要を遙かに超過して居る。そして夫等の職業は凡て、暫時間突發的に活氣を呈するかと思へば、次いで長い沈滯状態が來て、薄弱な工場、鑛山、會社は閉鎖し、然らざるものも時間を短縮し、職工の大部分は其需要が半減したことが知られる。之れ三大生産業、即ち造船、器械工業、炭鑛に於て、有丈けの生産力を一杯に利用せむとした企が却つて直接に長期の事業停止を惹起することゝなつた。そして其停止期間に於て、職工を苦境に陥入れ、實に

恐るべき犠牲を拂つて始めて其充血を緩和することが出來た。物價の下落に基く同盟罷業又は工場閉鎖は、經濟學上の眞正なる解釋を下せば、それ丈けの「失業」と見るのが正當だといふのが著者の見解である。よしや其直接の原因は、賃金其他就職條件に就いて資本主と労働者との間の不調和であるにしてもだ。實業家は誰れでも承認せざるを得ぬ事がある。それは現在我國に於て、曾に一、二に止まらず凡ての主要なる産業に於ては、器械と努力の量が、之れを有利に使用し得る程度より遙かに多く存在して居ることである。或經驗ある實業家は最近次の如き判斷を下して居る。(一)「生産の増進は、農業と云はず工業と云はず、非常に急激であつて、運搬交通の便亦異常の進歩をなし價格は著しく低廉せられた。爲めに供給は今や常に需要を凌駕する。』此意見は實際的の輿論の必ず首肯する處となるだらう。この最も有力な間接の説明とも見られるものは、フォンハレ氏の米國トラスト論中に窺はれる。(二)「資本合同の確立せられぬ内には、殆んど何れの産業にもその資本を一杯に利用するといふことは出來なかつた。例へば製油と機業トラスト時代以前までは、巨多の壓搾器、精練所が長い間休止の姿であつた。然るに其トラストと共に一時に一打以上の小規模な舊式工場は閉鎖された。砂糖トラストに於ても同様、其所有の機械の四分の一の生産品を以て優に全市場の供給が出来る、ウ井イスキーのトラストは成立と共に八十ヶ所の醸造場中の六十八を閉鎖して、

併も残餘の十二ヶ所によつて前同様の製出高を見、遠からずして夫れをも遙かに超過することが出来た。』

換言すれば、現在の生産力は實地に生産して居るものよりも遙かに多量を製出する能力があるといふことに歸する。機業場、鐵工所、造船所、炭礦、其他各種の機械等に變じて使用の途なき資本は八歩乃至一割は慥かにある。これが即ち勞働の徒費を表はすものといつて宜いだらう。經濟學の見地から見れば、此過剰は即ち貸付資本の一般的過剰であると説明するのである。(三)エー・ゼー・ウ井ルソン氏は、最近この點に就いて社會の注意を促して居る。別に經濟學の泰斗ファン・オス氏も此通貨の膨脹を資本の過剰と結付けて正しき論評を下して居る。(四)『この進歩せる生産状態の下に、驚嘆すべき富の生産は行はれ、資本の供給と其需要との割合は急激に變化しつゝある』と。

(一)ゼー・エイチ・トロットソン著『標準の破壊』

(二)フォン・ハレ著『トラスト論』六六頁

(三)『投資家評論』一八九五年一月號所載

(四)『十九世紀』一八九六年四月號所載

八 生産力の發達に伴はざる消費力

吾人の食料、製品原料產出の爲めに開墾せられたる新しき地面、製造と運輸に利用する据村機械と動力機械に姿を變ぜる巨額の資本、智力鋭敏にして、密接なる共同動作をなす人口の急速なる増加——是等は過去數十年間に於て、社會一般の消費力を二十倍以上に進めて居る。併し又殆んど凡ての社會階級に於ける消費力の實際の標準も高まつて來た。地主階級は現世紀の始めよりも遙かに高價な生活をして居る。製造界、商業界の資本主も消費者の新らしき種類で、其數も多く、其消費力は絶えず増大しつゝある。職工生活の統計に於ては、最も貧困のものを除き、一般衣食住の標準は往時に比して著しく高い、只其標準の安定は勞働需要の不規則な爲めに甚しい減損を蒙つて居るのは争ひないけれどもだ。かく人々の消費力の増進は顯著と見えても、生産力の發達に比し其速度に於て遙かに劣るのである。産業界の革命に順應すべき社會の消費的習慣の草進が伴つて居なかつたのである。近代の機械と生産法は生産力を二十倍に進展せしめて居ても、社會の消費力の増加は夫れに劣る比を示して居る。故に幾千の生産動因は過度の存在を來たし、到底是等を永續的に且充分に利用することは不可能であると云ふことを吾人は知るのである。之れは理論ではなくて、近代

産業界の現象を略述した丈けのものである。何故に斯かる富の生産力に過剰を生じ得るかといふことは未決の問題であるけれども併しそれが事實であるといふ點に就いては議論の餘地がない。それは生産力の適用を誤まれる、即ち或職業乃至或時期に於て過剰を生じ、或他の職業又は時期に於て相殺せらるべき場合ではない。それは尋常にして一般的状態の過剰である。一八七一年から同四年まで事實維持して來た物資の生産率は、若し其需要に於て減退を見なかつたならば、更に繼續して行くことが出來たであらうが、實際に於ては其通りに續いて行かなかつた。之れは、國民の尋常なる生活状態に於ては生産力が非常に超過して居たといふことを承認するものである。

九 分配者の不生産的なる増加

斯くの如く一般生産力に過剰を生じたに就いて、單に之れを搾取業、製造業に於ける資本と労働の尋常なる需要杜絶又は需要不足より來るものとしては充分に説明することが出來ない。「需要杜絶」は斯かる空費の一種類に過ぎぬ。更に他の種類の空費は、仲買人其他の分配者、及び分配業に使用せらるゝ資本が社會に取つて無用の増加を來したことである。「生産的」事業に割良き需要を受けない爲めに、資本と労働が分配事業に使用せらるゝ割合を増加した。國勢の調査報告中に見える

職業統計は此種の運動を明かに證明して居る。一般に、我國人は次第に工業國民と成りつゝあると信ぜられて居る様であるが、労働の需要丈けから云ふのならば之れは誤つて居る。チャートルズ・ブリス氏の解説を基礎として、國勢調査報告から製造業の合計を取出して見ると、一八六一年迄は製造業者が我國の人口との比例に於て増加の傾向を示して居る。其後に於ては、従業者の人員は絶對的には矢張増加を續けて居るけれども、其増加速度は人口の發展に比して遅いのである。一八四一年から一八八一年迄の製造従業者百分率を取つて見ると次の如くなる。

一八四一年	二七・一パーセント
一八五一年	三二・七パーセント
一八六一年	三三・〇パーセント
一八七一年	三一・六パーセント
一八八一年	三〇・七パーセント

一八九〇年より一九〇一年に至る間の結果と、前記の報告と全然同一列に置くことは出來ないけれども、従業の比例は續いて降下し、職業階級の人々の製造業に従事するものが三〇パーセントを出で、居ないと信すべき理由は充分にある。炭礦従業者の増加と、農作者の減少とを相殺すると、搾

取業の従業員數に於て僅少なる増加を見るのである。然らば一八八一年より一九〇一年に至る間に於て、我國職業の従業者數に加へられた二百五十萬人と云ふものは全體如何なつたのであるか。製造業、搾取業を外にして「製造」業の他の唯一の大なる部門は各種の建造業である。而して炭鑛業を除けば、一八八一年より一九〇一年に涉り従業者の總員に於て著しき進展を示せる「製造業」唯一の部門は建造業である。此方面に吸収せられたるものは二百五十萬人中の四分の一以上である。すると増加人員の其餘のものは如何なつたのであらう。分配、輸送業者の數が人口増加と不均合の程度にまで増進しつゝある——これが其解答を與へるのである。農業階級の人は非常に減少し、奉公人階級の増加は緩慢であつて、職工階級は諸方面従業者の總増加率と僅かに歩を同じうして來たのに反し、運輸業者は一八八一年より一九〇一年に至る間に於て六二パーセント、商人は八五パーセントを下らない増加を示して居る。富の分配の従事者各方面の斯かる夥しい増加を更に精細に研究して見ると、所謂「番頭手代」は十八萬一千四百八十七人から一躍して三十萬七千八百八十九人に増加して居る、即ち各種従業者の總増加率の約二倍である。銀行書記及吏員は一萬四千九百九十八人から、三萬二千八十四人に、保險業事務員は一萬五千六十八人から、五萬五千十三人に増加して居る。

(一)「國民の職業、自一八四一年至一八八一年」

十 小賣商人の異常なる増加

國勢調査報告中に有つては、多くの「商賣」が「製造業者」と同一に取扱つてある爲めに、小賣商人の増加の充分にして完全なる計算を示すことは不可能である。併し次に掲ぐるものは、一八八一年及び一八九一年に於ける小賣業者の比較で、「商賣」を「製造業者」から分離して有るため非常に参考になる。

小賣商人の増減表

年度	藥種商	書籍商	文具商	吳服商	絲物商	乾物商	鳥屋	奇物商	乾酪商	肉商	石炭商	金物商	雜貨商	合計
一八八一年	一九,〇〇〇	九,九二五	一四一	八二,三六三	九,五六五	二九,八八二	四九七	二九,六一四	四,三九七	八一,七〇二	四〇,一六二	一三,五五四	八六〇	四九四,四七一
一八九一年	二二,九三〇	一三,五六二	七九八	一〇七,〇八二	一八,二八一	八五六	三九,七二一	四〇,九六三	五,〇八九	九二,三三三	七九,九三一	四四,四三三	六〇,八六三	三三三,三三三
増減	増三,九三〇	増三,六三七	増六六七	増二四,七一九	増八,七九七	増一,六七八	増一,九四四	増一,三四五	増六〇	増七四,六三〇	増三九,七七一	増九,八七一	増五〇,八六三	増三三,九三三
百分率	増二〇,四	増三六,七	増四七三,〇	増二九,九	増九三,〇	増五,六	増三,九	増四,四	増一,六	増八二,三	増九七,三	増七二,三	増五八,三	増六,七

(一)一九〇一年の數字は未だ手に入らない。

十一 分配力空費の諸原因

六

分配の増量が大商店其他一般の供給者の手に渡つて來た結果、有らゆる節約手段を用ひ淘汰を行つて見ても、小賣商人の増加数の率は從業者階級を通じての増加率に比して約二倍である。此問題を簡單に云つて見ると、消費せられる原料品の増大量を造出する人口の割合が減少して、其分配者の人口の割合が増加して居る。併し斯かる推移は製造業が現代式器械と方法によつて節約をなしたに反して分配業に於ては其事がそれ程立派に行はれて居ないと云ふ事實によるのだと解釋するのでは充分であるまい。何故とならば、大なる増加をなせる我國の人口は、大都市に集中することによつて、與へられたる量の物資分配は勞力上の費用を著しく減ずることが出來たからである。斯かる原因に加ふるに有らゆる運輸上の進歩は、よしや現代の富が増大したとしても、之れを有効に分配するに當つて、在來分配業に使用せられたる勞働と資本をさまで増加せずとも行はれ得る筈である。たとへ分配業者若干の増加は經濟的に必要であるとしても、各種の仲買人、小賣商の事實上の増加は此健全なる必要限度を遙かに超過して居ると云ふことは拒むことが出來ないだらう。即ち取引上の努力に於て、實際上の分配事業に消費せらるゝ割合が減じ、販路擴張事業に消費せらるゝ割合が

増加したのである。其一證と見るべきは、注文取り、地方代理店、仲買人、勸誘員が異常の増加をなし、有らゆる株式の廣告には巨額の支出が行はれる。斯くして直接間接分配に關する業務に費される實際精力は増大して、必要とする健全且有効なる競争の限度を破り、一般消費界が安價にして迅速なる供給の利益を得ざるに至つて居る。分配業者間の激烈なる競争は、偽造其他の詐偽的手段を喚起し、商品墮落の傾向を來さしめた大なる責任者だと云つても過言ではあるまい。不幸にして吾人は小賣商營業の一般推移を知るべき公式の又は信頼すべき記録がないので、之れを以てゾーエルベック氏の調査した卸賣値段の統計とを比較することが出來ない。然し世間でも認め又私の手許にある斷片的な例證から見ても正しいと思ふのは、一八七三年以後卸し値の大下落に伴つて小賣値段が其割合に下落して居ないといふことである。

十二 分配浪費と製造浪費の様式に別ある所以

斯かる相違の生ずることは強ち理由がないでもない。競争の結果は製造業と分配業とで幾分の別がある。前者に於ては、生産の超過が實際上の製産品過剩となつて現はれることは比較的些細で、却つて「浪費」は其後の勞働、資本の「需要杜絶」なる形に於て現はれ、斯くして其作用は幾分か

將來、勞働、資本の利用を阻止するのである。然るに後者に有つては斯かる自然的阻止の與へられることがない。少量の資本があつて、之れを製造界方面に向けて成功の相當な見込の立たぬ時でも、分配業殊に小賣業資本として投資すれば、他人の商賣を可なり自分の營業に引付けることの出来る場合もある。無論小賣商でも商賣の新らしい内から成功することは困難であるが、それでも製造業より樂である。こんな具合で、同一の營業量は更に多人數の人々の間に分配されることになつて来るだらう。然も賣品が小口賣に移つて行くに従つて利益限度（餘利）が段々大きくなつて行きさへすれば、凡ての人が生計を營んで行けるだらう、之れは卸し値下落の時に於て、小賣値段の下落が夫れより遙かに徐々であつて其程度も軽いといふことになるからである。疑もなく以上は分配事業に現はれたる實際的の現象である。政治家、甚だしきは經濟學者などまで屢々假定して云ふ、卸値下落が或限度に達せる時、その利益を受くるものは消費者である、故に斯かる卸し値下落は餘りに意とすべき問題でないと。併し之れは正確の説であると保證が出来兼ねる。ゼー・エス・ミル氏の述べた慎重な意見は、過去二十年の經驗によつて充分に證明されて居る。『小賣値段、即ち消費者から事實支拂ふ代價が、競争の影響を感じることは誠に遅々として居て又不完全である。だから本當に競争の行はれて居る場合でも、物價は下落しないで、値高かが却つて更に多くの分配者を潤すに過

ぎぬ様な結果になることが屢々ある。』

換言すれば、消費者の支拂ふ物價の増額だけは、代理店、仲買人、小賣商、是等の使用人の支持に消えて行く。斯んな風で國民の收入が分配業に支拂はるゝものゝ中、彼等の手に歸する處は益々多くなつて行く。必要缺くべからざる純粹の分配事業の眞價を諱るの要はない、只此處に指摘せむとするのは、分配業に於て如上の資本と勞働の病的膨脹を社會學の見地から云ふならば、矢張一種の力の空費であつて製造界の「需要杜絶」と全然類を同ふするものである、只其表はす實際上の様式に別があるのみだ。分配界に於ては、その浪費の現はす姿は「不用」の資本、「無給」の勞働ではなくして、分配機關の不必要なる重複である。「需要杜絶」問題を科學的に考察する場合如何なる時でも、此種の浪費も社會痼疾の重要な一面と考へなくてはならない。

(一)「經濟學原理」二卷四章三節參照。

十三 消費力は必ず凡て使用せらるゝとの説の誤謬

資本と勞働の形を取る一般生産力が超過して不用となれるか若くは使用せらるゝも浪費的なる場合の存在する事は、實業家には容易に承認の出来ることである。然るに多くの經濟學者は、漫然た

る三段論法に誤られて、實際家を取つては眼前に迫まれる明白の現象を尙も頑強に否定して居る。彼等の論では、資本と労働の一般的過剰なるものの存在は不可能である、其故は、資本と労働が生産唯一の必要條件であるが、生産せられたるものは一定の價格に於て悉く市場を見出すことが出来るのであるから、生産し得られる程のものは何に限らず生産せられ、生産されたものは消費されるであらうといふのである。然し斯んな論法は全く誤つて居る。勿論、凡ての營業は物品と物品の交換であるから、何に限らず生産し得らるゝ程のものを消費する力は何人かが之れを所有して居ることとは明白である。更に論を進めて、人間の慾求は無量大であつて、尙多くの痛切なる渴望が満足を與へられずして残れるが故に、生産し得られるものは何に限らず消費せむとする慾求の存在することも確實であると云ひ得る。併し「有効なる需要」有らしむが爲めには消費力と消費慾とが同一人に授けられねばならぬ。經濟學者の生産力過剰否定論には自づから此偶然の一致を假定して居る。然るに其假定は誤つて居る。近代の製造業によつて収益と、利息と、使用料を得る人々は是れによつて多量の綿布其他の織物、石炭、鐵器、陶器等を消費する「力」を得て居る。けれども彼等は是等の商品の比較的少量を消費する「慾求」しかない。議論をなすものは云ふだらう「併し彼等は他の商品を消費する慾求を有するだらう、そして是等を得る爲めには彼等に不用なる綿布、鐵器を是

等に對して消費慾を有する他の人々と交換するであらう」と。處が實際は左様でないのだ。綿布なり鐵器なり其他是等と交換せられる品に於て、一定の可なり高い平常の消費標準に達した後でも尙消費の大なる餘力があつて然も有効なる需要に化成するの慾求は伴はないのである。

十四 消費慾果して生産唯一の動機であるか否か

過去二十年間の一般經濟學者に取つて、生産過剰論を説破するに充分の途は左様なことは有り得べからざることだと断定し、又其不可能を證據立てる爲めに問を發し、抑も人に生産を促すものは何であるか、生産品又は之れと同格のものを消費する慾求を措いて他に何があるかと尋ねたらそれでないと假定して居た様に見える。『各自は自己の生産品に對して此上に求むる處はないかもしれない。併し各自は他人の生産品を尙一層得むことを求めて居る。そこで他人の欲する品を産出して彼等の産出するものを得様とするのである。生産し得る程の物は何に限らず常に消費せられ、遂に生産力を有する凡ての人の慾求が完全に満たされたる曉に於て、生産の増大は止むであらう』と、ゼー・エス・ミルは云つて居る。扨て、消費慾なるものが生産の背後に於ける原動力であるといふことは可いとしても、それは過多の生産なる浪費を防止する程密接な又一一般的な作用は爲さないのである。

産業の支配權を掌握して居る多くの人々は其企てたる生産の量を彼等の求むる消費量によつて調節しては居ない。のみならず又其消費慾が彼等の生産業の意識的動機の主なる部分ともなつて居ないのが事實である。

(一) セー・エス・ミル著「未定の問題」四九頁

十五 凡ての「貯蓄」は資本労働の需要を増加し得るか

ミルの説によれば、消費力の所有者は其能力の有らむ限りを消費せむと望み、又躊躇することを欲せずといふのである。

處が、消費力の大部分は消費を欲せぬ人々の手にありとするならば、彼等は何を爲さむと希望するであらうか。彼等は之れを貯蓄せむことを欲する。併し貯蓄といつても金を銀行に預入れる作用の裏面を考へて見ると之れを労働に支拂つて、工場、機械其他の有形な諸種の資本に變ずることになる。それなら資本と労働に需要を來たすことは、其消費力を消耗品産出に使用した場合と同様ではないかと問ふであらう。全くその通りだ。労働を使用して工場を建築し機械の据付けをなす「貯蓄」が労働の需要を齎らす量は、同額の金を消費した場合より多くないにしても、同一程度までに

行くことは、セー・エス・ミルの主張した通りである。一方金が「消費」せられる場合、後に、残るものの無いのに反して他方に於ては工場があり機械がある。論をなすものは更に一步を進めて、此工場は有利に運轉が出来、その與ふる仕事は取りも直さず労働と資本の正味の増加であると説くに至つて一足飛びに不當な結論に達するのである。此工場が有利に運轉し得られると想定せらるゝ場合は二つしかない。その一は競争に勝つて他の工場に行くべき注文を奪ひ、其處に使用せられて居る資本と労働の需要を驅逐するのである。この場合は明かに、勞資需要の一般的増加は無かつたのである。一人の「貯蓄」は利得を見た、併し他人の以前からの「貯蓄」を打消して始めて爲し得たのであるから、社會の生産力は増加しても、以前に増した實際の生産は行はれないのである。今一つは此會社の製出する種類の商品需要が將來に於て増加する故により多くの資本と労働が此職業に使用せられ得との假定である。此假定通りに行けば、其「貯蓄」は社會的に有益であり又必要でもある。併し此處で明かに承認しなければならぬことは、資本と労働の需要は消費標準の向上に順應するから社會を利する貯蓄には何時でも絶対の制限があると云ふことだ。

故に消費増加の一般的慾求必ずしも過度の貯蓄を來さぬ充分なる保證とはならない。よしんば貯蓄者の必竟の目的が常に、將來に於て増大量を消費する慾求であるにしても、斯うした個人的方策

は資本の充血になり得又實際なるのであつて、之れを綜合的見地から見れば一種の自殺である。甲乙丙丁戊己から或る一の社會に於て、何れの三人、例へば甲乙丙が其欲するだけ貯蓄すると假定するも、或は又各自が其収入の一定量を貯へると假定するも、其團員の取つた方針の何れかが綜合的に此社會に過度のものであれば夫れだけが浪費になる譯だ。併も斯うした貯蓄過剩状態に有る社會の團員が何れも、將來或時期に於て大に消費せずとの眞止なる慾求に刺戟せられて居ると云ふことは有得べきことである。

誰れでも他人をして其収入を消費せしめ、現在の財産又は將來の生産に留置權を獲得することが出来さへすれば、個人として其収入を幾何でも貯蓄することが出来る。併し一社會の收入中、之れを貯蓄し、工場機械、その他の資本に有益に投資することの出来る部分は、現在と將來の消費率に嚴重に制限されて居る。遠き將來に實を結ぶ諸種の資本に有利に投することの出来る貯蓄は只其一部に過ぎないので、現在の收入中有利に貯蓄し得べき分量を精密に決定するものは現在又は近き將來の消費率である。

十六 各種資本の過剩は事實存在するものだ

貯蓄の過剩の可能性を説けるに對して、人間慾求の無限大と、其慾求が活動となる生産上の新企業を指摘すれば充分なる答辯であると考へられることが屢々ある。貯蓄者は自己の利益上、新貯蓄資本を各種の新事業に投するを撰ぶのが自然である之れを一の職業に向けて資本超過を來さしめると假定する理由は何處にあるのかと論ずる。斯うした抗辯の理論には少しも反對はせぬ。此「貯蓄」が事實凡て固定資本となり消耗品量を増加し、現在又は將來社會にも個人にも快樂と利便を與ふる新式の生産品を供給するものならば、此種の「貯蓄」には全然賛成である。之れは決して資本勞働の需用減退の原因ではない。

夫れなら夫れで問題は解決したではないか。新式な改良せる、社會的必要品を供給する機會は充分にあるではないか。我國の都市は立派に建設されて居るのか、理想的に廣くて美しいのか、水道、電燈、運輸其他の設備は完全か、學校教育は物質方面智的方面共に資本勞働の好個の使用場を提供するものではないのか。宏大にして不斷に其數を増加する善良にして正當なる慾求は、只資本と勞働が之れを満足せしめぬ計りに、便利なる物資に現實化することなく取残されて居るのは云ふまでもないことではないか。斯うした場合如何にして貯蓄超過などと云ふものがあるものか。——斯う云ふ人も出て來るであらう。

之れに對する答は第一、新貯蓄の多くは事實上如上の社會に有益なる投資の途を求めない。第二に、其大部は既に満たされたる方向に更に流入する。第三、斯うした充血が鮮明になつて來ると、多くの新貯蓄は投資の新方面を求めずして銀行家其他の手中に蓄積して仕舞ふ。新貯蓄にして資本化せられ以て新慾求を満足せしむる如き部分は道德的にも經濟的にも正當である。又之れが資本化せられて現在せる資本に公益上無用の重復を來すが如き部分もそれが引續き資本労働の需要となつて現はれる中はその點支けは無害である。が、さて一旦産業の車輪に喰込み全機關を停止し、「新貯蓄」の投資を阻止すれば之れと同時に吾人の所謂「實業界不振」と稱する勞、資の需要減退と生産減退なる状態を促して來るものである。

十七 公益となる資本は理論上制限がある

新貯蓄は凡て共益的用途に使用すべきもの、又必ず使用せられるとの説は事實に反する。此説をなす人は新貯蓄が如何しても公益的用途に投資されずに居れない程の原因を示して呉れない。個人としての貯蓄者は社會一般の消費標準を向上せしめ様とは思はぬ、只自己の資本に對して有利なる投資の途を發見したいと思ふ。斯うした途は屢々見出される、又見出し得ると思ふことは更に多い、

それは現在の消費を満たすには充分に準備された職業に又新らしく資本を下ろすことによつてである。之れ彼がその貯蓄を新奇の企業に投じて、新らしき慾求を刺戟し満足せしめ様としても、公衆と呼ばれる雜種の消費者の團體が彼に對して普通以上の利息を支拂ふか否かは請合出來兼ねるからである。

永續的社會改良事業は、事實増加しつゝある巨額の貯蓄を吸収する。併しこれにしても最も進歩した團體が將來社會的、産業的其他の變化に相當の考量を拂ひつゝ安心して適用することの出来る資本は何時でも非常に範圍が限定せられて居る。遠い將來の消費に目安を置いて、大雑バに支出するものは屢々空費となり反社會的になることもあらう。

事實斯んな具合であるから、公共團體の斯うした資本消費は頗る限られたものである。のみならず、立派な經濟的勢力があつて、必要な支けの新貯蓄を理想的に正しき道に進入れる程のものもない。そこで普通の投資の途は屢々各方面共に充血を示し、引いて貸付資本の過剰となるのだ。我國現在一般の貯蓄せられ得る限りの額が、別な經濟状態の下に於てならば或は之れを資本化して尙有利なことも有得るだらうが、何分現在の状態では其一部は貯蓄過剰を表はし、産業の充血、停止状態を來し、「勞資需要杜絶」なる痼疾は其主なる一現象となる。

十八 資本過剰は如何にして生産を阻止するか

故に我國の貯蓄階級が、其金を使用して消耗品製出を求めず、却つて労働者に賃銀を拂つて更に多くの工場を設け以つて「労働資本の活用」を増大する——と、必ずしもさう極まつては居ない。その「貯蓄」が實際續行して居る間は、社會の正味の勞資の需用はその金が物資生産を求める爲めに支拂はれる場合と同量である。そこで工場建築の仕事が増加して、其運轉の仕事が減る。だが其新工場が出来上つて見ると、その生産力に對應する消費力の増加があつて始めて之れを運轉し得るのである。即ち充分の人数の人々が、「貯蓄」階級の人々を動かしたのとは別個の動機によつて、自己の貯蓄を有功ならしめる、即ち自己の収入の餘財を物資に消費するに同意する——これがあつて始めて運轉が出来るのである。斯くして豫想が少しでも實現せられぬ處には、新工場「經營」の企業も何等正味の勞資需要増加を來たすことはない。夫れは市場緩慢、物價下落、微力の工場閉鎖、職業不安定の因となり、一般事業界を紊亂に陥らしめるに過ぎぬ。斯うした現象が大概の事業に繰返されることは資本家階級が現在の消費量を支へるに要する額以上の資本を投入し運轉せむと企てて居ると想像すべき最も有力な證明である。個人は富み且つ吝貪なるを得るが、社會は然か様に成

らぬ。社會なるものは、將來に於て現在より更に多額を消費する特別の目的でもない限りは、年収入の或程度以上之れを貯蓄しても有効でない。是位のことには少し道理に明るい人なら誰にでも判ることである。

十九 貯蓄が消費減退を促さぬと云ふのは詭辯

處か經濟學者は屢々妙な詭辯に惑はされることがある。「貯蓄は現在の消費を減退さすことはい」といふ無鐵砲な思想これであるが、其起因は貯蓄の経路を誤解して居る處にあるのだ。次の御手輕な辯駁を加へれば此説を説破するに充分である。年收各十五億ポンドを有する二つの經濟社會を想定する。甲の國民は其全部を消費して貯蓄は少しもしない、詳しく云へば現在の生産設備の破損を支給した後の凡ての生産力は消耗品製出に専らにせられ、其の消耗品は消費されて仕舞ふ。乙の國民は年々貳億磅宛を「貯蓄」する、詳述すれば前同様の手當てを差引き十五分の二の生産力は消耗品製出に用ひられず、新工場、機械を設置し未製品を用意するを専らとする、そして是等は其形の上から乃至經濟的立場から消耗し得ざるもので又實際に消費されて居ないものである。斯うして見ると、乙國民の消費額は十三億磅(15—2=13)であることは、貯蓄に消費減退がないといふ一

版の考さへなかつたら今更説明の手續を要せぬ程である。此誤説の主なる責任者は恐らくアダム・スミスであらう。彼が年々貯蓄される處のものは年々消費せられるものと同様規則的に消費されて行く其時間も略同じである、只之れを消費するものが別個の團體だ」と云ふ丈けのことだと説いたのが源である。此詭辯の中心思想は既に幾度も著者が説破せる如く「消費」と「貯蓄」との別を誤認して居る處にある。前者は經濟の一原因として「消耗品」製品を促す、然るに後者は實際上の資本化して「非消耗品」の設立を促すものである。諸種の資本は貯蓄を代表し、若し貯蓄者が其金を貯蓄せずして、消耗品製出を促すに使用したと假定した場合に起るべき附加的消費に當るものである

(一) マカロチ版「國民の富」一四九六頁。ミル著「經濟學」第一卷五章六節參照。

二十 有限の社會貯蓄と無限の個人貯蓄

眞の貯蓄は當座の消費減退を意味すると云ふ此單純なる眞理が「勞資需要杜絶」問題を眞に了解すべき核心となる。若し勞働、資本が我國の産業界に不用となり、一方分配業に使用せられて浪費となれば、それは取りも直さず消費の過度なる減退、換言すれば現在又は將來の消費を支持して利益を見る程度以上に資本を「貯蓄」せむと企てて居ることを意味するに過ぎない。斯うした「貯蓄」

過剰の結果は無論一時に現はれて來はせぬ。此「過度の貯蓄」が新工場又は新機械に投入せられ其運轉によつて増加せる物資量を生産する中は、仕事の減退も一般物價の下落もない。當然來るべき物資の過剰が今後の投資を阻止し、「貯蓄過剰」が捌口を見出し得ざるに及んで始めて物價は下落する、生産は減退する、そして失業が自然と現はれて來る。

生産の數々ある階梯に於て、利用される資本の量は消耗品が産業機關から捌けて行く率によつて絶対に限定されるといふ明瞭な事實を充分に認めないといふのは、産業の考察に當つて社會を有機的に見ることを否むことから起つて來る。一個人又は個人の集團が生計費外に何等の制限なくして「貯蓄」し得る故に、同様の法則が全一的な社會にも通用すると誤つた想像するのである。産業なるものゝ考へ方は斯うした無闇な個人觀がある上に、社會の個人(二)が正當なる節約をなすのを道徳的にも物質的にも價値を承認することが手傳つて尙更可けなくなる。尤も斯かる努力の價値を社會的に必要且有益として認める場合もあるが夫れは總消費高の限定せる範圍を出でない時の事である。アダム・スミスの名高い格言に「自己(三)の利益を計るものは自づから、否、必然的に社會に尤も有利なる仕事を撰ぶ」といふのがあるが、それは現代人の考から概ね捨てられて「單に個人(四)の利害衝突の結果から秩序ある勞働社會は生れる筈がない」との考が取つて代つて居る。それで居て此新

教義の内容に至つては充分に咀嚼されて居ない。労働市場の競争と物資の賣捌きに於て、「個人の利害」なるものを拘束する必要を首唱する人で、個人的「貯蓄者」の利息に信頼すれば産業機關の各種の方面に於て資本の最も經濟的整理が出来るといふ意見を抱く人が中々多い。が、この意見は實際この事實に相違して居ることは既に論じ來つたのである。即ち現時の産業状態に於ては個人貯蓄者の活動は各種資本の無益なる蓄積となることを説いた。依つて更らに問はむとする處は、何故斯う成らなくては、不可ないのか、個人貯蓄者の勝手な利己的行動が、社會の見地から見て何故「貯蓄」と「消費」との正しき調節を攪亂せねばならぬのか。一億五千萬磅でまづ現在消費程度に備ふるに充分であらうと云ふ時に、吾等は更に五千萬磅増加して二億磅の新資本化に努力するといふ道理は何處に有る。

(一)「國民の富」第四卷、二章

(二) 百科全書經濟論項中

二十一 個人の利益が資本の社會的浪費を來たす経路

吾人の既に論述した通り、小賣業に於て商人個人の利益は延いて一地方に物資分配を有功ならし

むる爲めに要するより遙か多數の商店を設くるの結果となる。同様産業界に於ても屢々資本主の利益の爲めに新紡績場又は製鐵所を設け、よしや目下充分の工場數があつて有らゆる需要に應じ得ても競争者から其職業を充分に奪ひ去る見込が相當にあれば、自己の工場をどん／＼運轉させることがある。但し又考へ様では此新來者は、一層優良な或は安價な物品を製出して始めて職業を得ることが出来るから、消費團體なる社會は彼の活動によつて利益して居るではないかとも云へるが、併し之れも充分な答辯とは云へない。第一此陳述が眞實でないといふのは、現代の營利會社が顧客を得るのには、通例競争術の優越な爲めである。従つて製品の優秀と云ふ事にはならない。第二に此新資本が生産法に何か一寸した節約を行つて有利ならしめたとしてからが、消費社會は値下げの利益又は之れに相當する利益を受けると必ず定まつたものでもない。蓋し既に説いた通り製造業に於て價格を不斷切詰めるのは、仲買人、小賣商を増加せしめる主因となつて居て、是等の人々を支持する爲め小賣値段の下落が、卸値段の下落に追従することを妨けられるのだ。最後に、又直接消費社會に對する小賣値段の下落は、其社會の正味な産業的利得の正確且つ決定的な吟味、尺度と考へることは出来ない。然かも屢々見る如く若し労働、資本の多額が其使用の最初に於て目に見えない排除を蒙つて居ながら、その投資利息は、職業上の競争から、賠償も報償も得られぬとなれば其利得

なるものは餘りに高價に購はれるものと云はねばならぬ、左う云つたからとて何も産業保守主義の辯護をするのでもない、新式な改良機關、方法を排斥の云ひ草にするのでもない。只近世經濟界の破滅的方策による浪費に對して抗議せむ爲めである。蓋し之れによつて新競争者の投機的活動は舊來の職業を破滅に陥入れる。加之彼等の爲めに破滅せられたる資本價、攪亂せられたる勞、資の需要を償ふに足るべき眞に優越なる生産を持來たすことはないからである。

二十二 個人經濟と社會經濟の別

新商會が生産上の節約によつて値引きして注文を取るとは出来ても、社會の全一的經濟界の見地から見ても少しも節約にならぬ場合もあることは心得て置くべきである。新會社が新工場の建設により他會社より零・一パーセント丈け安價に製品が出来るとすれば、それ丈けその會社の利益になるのは明かである。然るに或舊會社が斯うした安價の新生産法を發見したと假定すると、其會社が此新設備をするには生産の節約が可なり大きく出来て、之れまでの舊設備を抹殺しても之れに償ひの出来る程度でなくてはならぬ。新會社では舊資本の抹殺を考量に入れないが、舊會社では新設備の利益と之れとを比較し「正味」徳用であるとなつて始めて新式を採用することになる。さて産

業界は其人も財産も悉く引括めて、議論上、一切を資本主と考へやう。して其資本の純粹なる利得の目安になるものは、新競争會社の利益ではなく、排除せられむとする舊式資本所有會社の利得である。すると結局競争社會に於ては、「貯蓄」を新式の資本に變ずるのが明かに個人の利益である、然るに其の新式資本は舊式資本の價値を破壊して顧みないのだから、社會全體の純粹な經濟上の利益には少しも貢献しては居ない。

貯蓄に於て個人の利益が此通り勝手に働くのだから其結果、産業發達の一步々々は舊「貯蓄」排除によつて非常な高價を以て購はれるのである。舊式資本と云つても一時に死滅するものでない、奈邊までも産業的生命を持續し、舊來の役割を演ぜむと藻掻く。そこで何時でも各種の設備が頗る多數の過剩を生じ、到底生産の事業には充分利用し切れない程になるのである。

二十三 國家は社會ではない

社會の「貯蓄」には必然的な制限があると云ふ場合心得置くべきは、現代の産業に於て「國家」は決して「社會」と同意義でないことである。各國を包含する全一體が共通の世界的市場に於て追年益々密接な關係を以て相結ばれ、然らずとも互に直接、間接の經濟關係に立ち、如何にし

でも單一の經濟團體として考へられねばならぬ様になつて來て居る。斯うした譯だから如何なる時でも、單獨なる國民の「貯蓄」に獨立の制限を置いて、世界産業の全投資界を度外視することは出來ぬ。従つて又如何なる英國人でも一個人として其收入中の合理的貯蓄の都分に理論上少しも制限がないと同様に、更に國家の收入中の貯蓄される部分にも、若し内地實業界に有利に使用し得た餘分を國外に投資することさへ出來れば、是又何等制限がない譯である。著者失業問題の研究は主として英國に限られて居るから、不用意にも更に廣き範圍に涉るのは適切でないとも見える。併し單に此問題のみならず凡て産業問題には事實世界的因子が頗る重要なことであるから、何の途充分の科學的研究を進める爲めには全世界的統計を基礎としなくてはならぬ。處が其統計が少しも精確に出來て居ない。出來ては居ないが、既に論じた如く、實業家や學者仲間では、著者の主とせる英米實業界の不振の如き現象は世界産業界を形成する他の諸國に於ても形を異にし程度を異にし一齊に認めることの出来るものであると云ふことに一般に一致して居る。金融市場は各種の世界的市場中最も完全なものであるから、其處で多額の貸付資本が一般に緩慢だといふ事が立派に證明せられたなら、取りも直さず又資本側の「需要杜絶」問題が一般的であると云ふ事の歸納的證明ともなるのである勞働の側では大陸諸國が廣大な軍備を維持する爲めに大多數は之れに吸収せられる、若し

左うでも無かつたら「失業者」階級は其數が膨張するか、現在の從業者が排除されて仕舞ふかだらう。進歩の鈍い他の國々では産業界の組織が色々であるから此種の浪費も隠されて居るけれ共、矢張有るには有ると信すべき理由は充分だ。

最後に、英國に於ける現象は悉く他國にも存在して居ると云ふことを證明し、以て「過度なる貯蓄」と超過せる資本が世界と云ふ全一的團體に存在することを示すのは私の領分ではない。假りに英國に資本と勞働の「需要杜絶」がないとしても、世界的團體に「需要杜絶」がない證據にはならぬ。寧ろ英國の資本と勞働とが用途を發見する技術に勝れて居ることを證據立てる様なものかも知れぬ。幾多の國家から成る産業界が大部分斯うした一般の「需要杜絶」又は生産力の過剰を見れば、それは其一大社會の「貯蓄過剰」の證據で、他の少數の國家にそれがあらないと云ふことは問題では無い。

二十四 消費減退の動機と消費の自然法則

然し私が是迄説明した事は只、失業問題の中心的事實を爲す過度なる資本化の機械的作用であつた。是から論ずる處は、抑も如何なる原動力が個人に作用し彼等を促して、社會といふ更に廣い立

場から云へば不経済と見なすべき行爲をなさしめるか、又何故に個人の利益を恣にする時、全社會の利益とならないかと云ふ様なことである。

此重大なる疑問に對する答辯は去つて分配界に求めなければならぬ。個人が社會の要求程度を超過したる資本化を企てる理由は、彼等に或收入の固有の領分が有つて、其收入は努力によつて贏ち得たのでないから、現在の合理的慾求を満足さすに必要なものでないと云ふ事である。「生産」階級と「消費」階級とを人爲的にきつぱり分離しやうと如何程試みても、生産と消費、努力と満足の自然的關係は社會經濟に於て矢張鋭い影響を持つのである。個人でも階級でも、汗を知らない——大なる努力的貢獻を爲ない多額の收入者で同時に大なる消費者、贅澤なる消費者となることは出来る併し要するに努力と満足とを聯關する法則は一種の自然法則である。其の最も手取早い現はれば、あの生理的事實——人は運動によつて肉體的エネルギーを幾干か支出して始めて美味を食し、消化することが出来るといふ事實である。此法則は目には見えぬが消費界の全領土を貫くもので、満足は何か、之れに對應すべき直接の努力を以て代償を拂はなければ授與を拒まれるのである。此「自然」法則の經濟的現はれば、大消費者となり同時に小生産者とならむとする試みが結局失敗に歸すると云ふ事實である。そして此場合其法則は社會狀態の力を藉りて生産を刺戟することが出来なければ消費を制限するのである。

之れを手取早く云へば、大なる收入を得ながら之れに對する勞作を拂はねば、其得たる收入を消費する能力もなく又事實消費もしない。斯う云ふと或人は妙な事を云ふ、高等遊民階級の多數は此斷定を裏切つて浪費的な贅澤をして居るではないかと考へるか知らないが、私の云ふ處は偽らざる事實である。現代我國社會の各方面に於て苦痛を忍びつゝ行はるゝ節用、節儉は主として勞働階級、比較的貧窮なる職業階級、専門階級に見る處で、「貯蓄」は主として富裕階級によつて行はれる。我國の手工職人の貯蓄として、貯蓄銀行、勞働組合、各種の共益組合、造營組合等の全資本の該算二億萬磅の全部を振當てゝ見ると、我國の富の全蓄積の二パーセントを出ない。資本價の所屬を我國社會の各種な階級に正確に割當てる手段はないにしても、矢張其大部分は富裕階級のもので、彼等の有益な時としては贅澤な慾求すら満足せしめた上の收入の餘分を蓄積したものである。米國に於て二、三の成功せる實業家がある爲めに資本が猛烈に増大したのは個人の資本蓄積力の極端な一例を示すものである。大西洋を跨つた英と米の何れにも、如何程贅澤な消費をしても尙且巨額な収益が蓄積されて行くといふ少數の家族がある。ゼー・ゼー・アスター氏は「私の收入は始末する途がないから、土地を買足し、家を建増し批當を取つて貸付けをする。要するに私は生活に必要なものは

何でも得て、それ以上私の所有の金から得ることは出来ない」と云つて居る。金儲けに成功するには興味之集中と活動の特殊化が必要である。そこで低級な物質的快樂方面にさへ金錢を消費するの能力が發達せず仕舞になるか或は之れを奪はれて仕舞ふかが普通である。そこで「一般に實業界に金儲けをした人に現在の大消費者はない、又之れを費ふにしても、將來利潤を齎らす様な新事業を起す外又餘念がないといふのが多い。」

斯うした大富豪は捨て置いて單なる富裕階級を見ても大部分は収入以下で立派な暮しをした上に多額の金を投資に向ける。そこで私の考では、貸付料や利息として這入る収入の大部分は現在の消費に使用せられずして復利法によつて増大するに任かせて置くものだと斷定するのが安全であらう。此種の収入の要素は現在の努力によつて得たものでないから、通則として、之れによつて現在の慾求を満足さすことを求めないのである。

私は以上私の態度を開述し來つたのであるが、私が社會の小有産階級の「貯蓄」に向つて「現在の努力」をなすを正當とする節用が何も有益でないとか「生産力」でないなどと申すのではないことを是非承知して貰ひ度い。私の論旨は單に「新資本」の大部分は、苦痛を忍んで節用し、現在の使用に細心の注意を拂ひ以て將來に延ばし得たる「貯蓄」を云ふので無く、實は収入を以て一切

の真正且有益なる慾求を満たせる上の餘裕が自動的に蓄積したものだと言はむとするのである。收益が流入して、直接の努力の支出と全く不權衡な消費力を與へる時には自然の傾向として「貯蓄」が現はれる。之れは合理的な收益から作られる「貯蓄」とは明瞭の區別の立つものである。此自動的「貯蓄」こそ消費と生産力の權衡を破るものであつて、社會的見地からは「貯蓄過剩」として類別すべきものである。自己の苦心によつて得たる收益から「貯蓄」する程度の人々には過度の貯蓄は出來兼ねる、蓋し斯うした「資本」の單位は夫れ夫れ一の真正な慾求を表はす、即ち夫れ夫れ一つの合理的な消費が延期せられたものであるから。之れに反して「貯蓄」が地代、投機の收利、獨專から來る資本の高利息——是等から取入れる大収入の餘分を表はす場合に於ては、貯蓄高に何等自然的制限は無いのである。

(一) ホーナー博士著「哲學と經濟」二二二頁。

二十五 資本過剩は「自然」収入の結果である。

以上の議論が誤でないとする、現在有るあの過多な資本化せるものは、個人の自然収入の要素と同一なものである(こゝで「自然的」と云ふものは、收入を受取る人が之れに對して何等努力の

支出をして居ないといふ意味のものである。斯うした議論は大體に於て演繹的たるを免かれない、併しその中の假説によらねば事實の説明は出来ない。此假説を形式に準據するならば、次の如き名辭によつて概説が出来らう。現代の機關と生産法は其の生産力に廣大且つ不斷の増加を齎らした。一方消費力も同様増加はしたが、其速度に於て前者に劣つて居る。發達の速度に斯うした遅速のあることは生産力永久の過剰の存在として現はれて来る——即ち、たとひ凡ての生産力は皆之れに對應する一の消費力の存在を意味するけれ共、其消費力は充分に利用せられて居ないことになる。消費力が充分に利用出来ないのは、その消費力の多くが自己現在の強き慾求を既に満たし盡くしたから、之れを差當り利用すべき充分な動機が備はつて無い爲めに、只その蓄積に任かして居ると云つた様な人々の掌中にあると云ふ事實に因るのである。

二十六 個人節約の有用なるを是認す

本章所論の經路を精密に研究した人は皆、それが個人的「節約」の長所と用途に對して何等毀貶を試みるものでないといふことが明かである筈だ。併し一般人には經濟社會の個人觀が根強くこびり着いて居るから、如何しても一社會の「貯蓄」に對する制限を移して個人の場合に當嵌めたる

である。「經濟學」の傳習的立場を擁護するため、其攻撃者を捉へて勞働階級の個人の品性、道德的の習慣に無暗と攻撃を加へるものと云ひたがるのは多くの評論家のせず居られないことであつた。斯うした理由だから此章を結ぶに當つて明瞭に述べて置くのも宜からうと云ふのは、一社會に於てその「貯蓄」が一定時に社會を益する量は限りがあると云ふ説を容れたと云つても、個人が現在の收益中を割いて貯蓄となし、將來疾病、失業、老衰等に豫め備へるその務めを聊かも毀損するのではない、又個人と社會とを問はず如何な「貯蓄」方法であつても、消費の延期といふことであれば、それに向つて毀貶を加へむとするものではないといふ事である。

消費力を數期に涉つて分賦するといふことは正しいことで、之れは道理ある人々からなる社會の採るべき道である。兎も角も健全なる投資の一定時に於ける全資本額はその社會の現在の消化量によつて制限を受ける丈けである。之れ未來の消費は極少量を除けば、之れに對して豫想も備へも出来ないからである。

附 錄 乙

消費減退が勞資需要に及ぼす影響

第五章 失業の根本原因

經濟學貯蓄論中一の重要な點がある、之れを此處に取出して論ずるのは最も適はしいと思ふ。貯蓄過剰乃至社會に不必要の資本化も其進行中は消費同様の勞資需要を與へるものであること、又過多なる工場等を運轉せむとする企も一時一杯の勞資需要を與へるものであることは既に本章本文中に肯定した處であるがそれはふとすると誤解を招き易いのである。一寸考へると、必竟貯蓄と消費間の平均が充分に取れて居れば勞資需要正味の増加は出て來まいから、此痼疾は單に勞資需要分配に影響する計りで全總量には響かない。即ち過多の貯蓄唯一の影響は需要減退期と需要過剰期とを互に平均さすものであると思はれる。

私は此結論の論據が薄弱である様に思ふ。次に説く例によつて明かになると思ふが、長期に涉る勞資正味の浪費は消費減退によつて起るもので單に勞資の分配宜しきを得ぬ爲めではない。

此問題を吟味する爲め、或一社會を取つて考へて見やう。其社會の人々は固定して居て、そこには資本と消費率が經濟的に正しい關係を保つて居るとする。處が或種の物資、たとへば、綿糸の消費を排して貯蓄の増加を企てたとする、そこで若し此吝嗇な方針が繼續した場合早くから異常な消費の時期が來て之れを相殺しなかつたら、その増加せる貯蓄には合法的經濟的捌口がない。如何なが職業も資本増加を求めるものが無い爲めに此新貯蓄は他の途よりは一層新紡績工場に投資するの

良いとなる。そこで假に第一年目の貯蓄過剰は此様式に資本化されたとする。此一年間に起つたことは、紡績工場建設の爲めに資本と勞働の需要が増加して紡績品製出に於ける勞資需要の減退を相殺したことである。資本と勞働を絶對に流動的なものと假定すれば、斯かる變化も此社會に於ての勞資需要の正味には響かぬ。人は紡績工場建設費を支拂つて貰つて、紡績品産出費を受取らなかつたと云ふ迄である。此年の終になると紡績場に過剰が出來、紡績品の消費量が固定して動かぬとすれば如何しても必要以上の數に達して仕舞ふ。それに今は紡績品の需要減退を來たして居るから之れを満たして残こる處は二重の過剰である。若し此「貯蓄」過剰を、需要が必然的に減退する唯一の職業に適用するのが不公平だと思ふ人があるなら、私はその人に向つてそれは議論を單純にし然も其妥當性に於て變りがないと答へる丈けである。若し此「貯蓄」が凡ての職業に當分に分配せられるものならば、其年度の終りには程度こそ小さいが、凡ての職業は紡績業で私の例證したと同様の状態を呈するだらう。假りに貯蓄者が無鐵砲に此方針を持續し、無用な紡績場の所有權増大を迎へ、物資消費の慾求を満足せしむるを以つて足れりとしなかつたらば、此方針は無限に繼續せられて併も勞資需要の總量に於ては減少しも少すること若くは影響する處がない様にも出來るだらう。要は只若干の人が新紡績工場の隆起し又た凋落するのを見て満足するといふことになるだらう。

然し貯蓄過剰第二年目に於て貯蓄者は費用を拂つて更に多くの工場を建設することはせぬが、其代り人を使用して過大な紡績工場を運轉さすだらう。そして自己の金を貸付けて原料品の購入や賃金の支拂をさすだらう。然るに綿製品は、(假説)、市場を見出すことが出来ないからそこで堆積されて仕舞ふ。若し貯蓄者が之れで満足して居ればどこまでも資本と労働の總量に影響なしでやつて行ける。若し此拙策を一年間持續するとすれば、第一年目に無用の工場を貯蓄し得たに對し、第二年目には彼等は無用の綿製品を貯蓄するとも云へる。そして第一年、第二年目共に斯かる貯蓄方針の爲め勞資需用正味の増減は少しもない。處が實際に於ては個人の行動が正氣である限り、事情は全く別様の發展をして行くだらう。餘分の工場を運轉せむとの企は有るとしても實地、貨物の過度な生産は餘り繼續しないだらう。貯蓄者が全然銀行の媒介を利用し、銀行は其預金に對して投資の途を構するものと假定しやう。銀行は此新貯蓄の性質を理解しなかつた爲めに、第一年目の預金を無用な紡績工場に投じたと考へる。此紡績工場でも其他のものでも第二年目には銀行から前貸しを受けなければ事業の維持が出来ない、つまり有利な賣捌きが出来ないからである。第二年目に廻る早々銀行は過度な生産に對する此上の貸出しを拒絶する、市場は充血する、物價は下落する、銀行融通の需要は増加する。併し銀行では立換へを承知しないだらう。そうなるに徴力の工場は事業を中

止し、一般の時間短縮が続いて来る、其結果は労働と諸種の資本の需要杜絶である。之れが過度な貯蓄の企てが勞資の需要に及ぼす影響の始めである。勞資需要減退(生産低下)の結果は、實際の収入の減退となるであらう。此傾向は進んで遂に貯蓄報酬(眞の利子)の縮減が次第に貯蓄と消費の正當なる割合を復活せしむるに至つて始めて熄む。之れ眞に運々として不經濟極まる療法と云はねばならぬ。

そこで考へられるのは、「貯蓄」が新規な資本に變ぜられつゝある間は、それが公益になるならぬに係らず、勞資の需要の正味な減退は少しも惹起さず、收入中貯蓄された部分が労働を使用することとは消費せられた部分のなすより多くは無いとしてもその程度の所までは行く。併し生産機關が非常な超過を來し、爲めに貯蓄の企ては捌口を見出し得ないのでそれが貸付資本の蓄積となつて現はれて來た時には、其社會正味の利益と、労働正味の需要は、貯蓄を社會の必要に應ずる最少限度に止めて置いたとした場合よりは少ないのである。そこで「勞資需要」の立場から云ふと、過度の貯蓄が及ぼす損害は、工場又は製品の生産過剰でなくして、却つて此過剰を財政的に認識してから續いて起る生産減退の状態であることが判つて來る。

資本金、労働力の眞正な浪費は、資本と労働が活用せられぬ生産減退状態の期間並に強度によつ

て決定されるのである。

簡単に云へば、其因果律の順序は斯うである、即ち——過度の消費又は過度の貯蓄は過度の資本化を惹起すもので第一に資本が固着し、次いで物資の過剰となる。物資の過剰は貸付資本の放資を阻止し、放資の阻止は生産を制肘する、そこで生産減退に伴ふ物價下落の時代が来る。

そうして見ると、生産減退と勞資需要杜絶の直接原因は、自分免許な貯蓄者、投資者がその貯蓄を資本化すべき如何なる途も見出し得ないと云ふことに歸する様だ。収入が或は消耗品製出、或は工場を設置或は生産品製出——その何れを促すに消費せられても、社會に於ける勞資需要の總量には直接の差異がない。即ち貨幣を所持する貯蓄者がそれを實際産業方面に投資し得るならば、到處に於て生産と仕事の需要を等しく刺戟する、然し一旦方針を誤り其投資を中絶するの止むなきに至れば生産は減退し失業は次いで起る。

斯うした預金放資の拒絶と自信の缺乏とを同一視する爲めに、バゼホット一派の經濟學者が事業界不景氣を自信の缺乏一點張で説明せむとする様なことになるのだ。この自信の缺乏なるものは單に投資捌口の缺乏の主觀的方面で、客觀的事實は過度の貯蓄に因るのだといふことは第七章を見れば明かである。

- (一) 過度の資本化は眞の貯蓄報酬を縮減するけれども「利率」を低下させぬことに注意せよ。無用な工場設置の影響は、各工場の資本價を引下げることになる。斯く引下げられた價格に對する利率 矢張以前と同一だ(ハドリー著書二八七頁参照)

112-119

第六章 經濟的救濟策

一 消費力分配の改善

消費力分配が根本の理由となつて、勞働、資本、土地の需要が同時に失はれる。之れやがて「失業」問題となるのである。消費減退が失業の經濟的原因であるから、之れが唯一の根治法は消費の標準を高め、有り丈の生産力を一杯に利用する程度に至らしめねばならぬ。而して現在の「貯蓄」に對しては、只將來の消費増加に應ずる爲め經濟上止むを得ざる丈けを斟酌して置けば宜い。前章、失業原因の説明が正しければ、此救濟法をして有功ならしめる途は、増大せる消費力の獨占を妨ぐ政策あるのみ。

此結論は不幸にして、是迄大方の經濟學者の容るゝ處とならなかつた、然も彼等が此疾病に對する診斷を見ると今私の述べた事とびたり符合して居る。只彼等はマルサスの立派な解説だけは少しも攻撃して居ない。當時の經濟學者が之れを不問に附した所以は、彼が之れを利用して各種階級の奢侈を辯護する武器としたからである。マルサスは富豪の過大な貯蓄を以て職業を阻止する直接の經濟的威力と見做し、之れに對する救濟策として奢侈な消費を増加せしめねばならぬとして、之れが果して可能のことであれば誠に喜ばしいが、實は全然出來ぬ相談である。富者が消費力を現在に使用し得ないのは、夫れが自然であり、又必然的であると云ふことは既に吾人の説いた處である。經濟的意義を背景とせぬ、一片机上の忠言は全然効果のないものである。収入の「自然的」財源を所有する人は、既に述べた通り、厭でも資本を蓄積する。其資本は之れを社會的見地から見ると過剰となるのであるだから消費力をもつと自然的に分配する、即ち消費力と消費慾とが相提携して——現在の如く互に分離せぬ——之れが唯一の可能的救濟政策である。

二 社會政策の採るべき道と「自然」収入に對する課税

社會進歩の干與者は徐々に此政策に則る傾向を示して居る。只不幸にして彼等は進むに當つて明な確智的諒解を缺いて居る。故に彼等は徒らに逡巡し、躊躇し、躊躇として徘徊し、時に迂遠の途を行くことも數次である。然も其行路は明瞭で、一直線で、頗る平坦だ。消費増進政策には其取るべき直接の方針が二つある。本章に於て之れを簡單に指摘したい。富者の手にある消費力の過剰は彼等

に取つてこそ「自然」収入であるかも知れないが、本來矢張それは「自然」収入ではない。其一部例へば都市に於ける所有地の騰貴値段の如きは公衆の努力から來た所得である。だからそれは公衆の爲めに消費せられ、以て公衆の健全なる生活を支持せしめむとの目的を有する一財産である。

三 課税を受くべき「公衆財産」の種類

「借地代又は地價が騰貴するは地主の努力と犠牲に因るのでない公衆の努力、犠牲に因るのだと云ふのは確かに眞理である。借地代は經濟上富と人口の増加に伴れて騰貴する傾があるから、勤勞の生産物は益々多く地主の手に渡る。併も之れは地主が社會に盡す處更に大なるが爲めではなく、社會が彼等の管理するものを更に多く必要とするが爲めである——之れも確かに眞理である。ここに於て公衆の「勤勞」所得たる大財産なるものが有ることが明かになつて來る。之れは無論其社會が有益に消費して差支のないものである。」之れはフランシス・ウォカア教授がその「經濟學階梯」中に述べて居る處である。併し是等の地價は、公衆の努力又は公衆の需要に驅られて年々直接に生じて來るあの財産全部に相當するものでは決してない、又夫れ計りで大部分が出來て居るとも考へられぬ。獨占事業や、保護を受くる事業、其他保護と云つては受けなくても土地の事情に恵まれて

居る、例へば位置が好いとか市場を近くに控へて居ると云つた様な多くの事業。——凡て是等の受ける利得の幾分は、地價直接の騰貴を促す原因と同様な社會的原因から來ることは明かである。地方の種々な商賣、例へば運送業と小賣業の如き多くの分業から上がつて來る利得は、今述べた様な外部からの援助を受けて増加することが屢々ある。或場合には斯うした利得の増加は更に進んで借地料の騰貴となる。地の利を占めた商店の利得などは概ね之れである。或場合には、直接間接の競争が盛んで、夫れあるが爲めに消費側の公衆は物資低廉の利澤を獲得することが出来る。併し如何に有利な産業でも、詳かに研究すれば、夫れ等の多くが有利なる所以は、天然の若くは法定上の獨占のお蔭であることが誰にも判かる。醸造業などが職業として強固な立場に居るのは、天然と法定上の獨占の結合であるからだ。斯うした職業では凡て利得の要素は、資本から必然的に上がる利息でもない、生産上の技術からでも、經營上の企圖から來たのでもない、單に一の獨占力、換言すれば一般の需要逼迫から來たのに過ぎぬ。よしや自然的乃至法律的獨占といふ直接の援助がない場合でも、資本の有力な合同を企て、烈しい競争を粉碎し抑壓する程になれば、或は「買占聯合」、或は「シンヂケート」或は「トラスト」、其他の商業組織にあつて市場を左右することが出来る。すると矢張公衆に自己の利益を負擔す様な權力を行使するのである。斯うした地代や利得は一切公衆の努

力と需要から生れた一つの財産である。故にそれが何地にあつても取つて公衆の所有として差支ない譯だ。

是等經濟的地代、獨占の利得に對し、其生産を助成する個人的努力と企圖を支持する必要上騰貴せる價值——之れを引離して考へることは多くの場合困難であり、又時として殆んど不可能である併し經濟上の説明からすると「自然」收入なる一大資源は確かに存在して居ることが判る。之れを個人の所有とするは當然の「權利」から云つても、便宜上から云つても穩當でない、公衆が經濟上之れを奪つて公共事業に使用したいと思へば、することも出来様と云ふのである。是等「自然」收入の要素は、現在の所有主が自己一身の努力の資として行使する必要はなくなつたもので、併も社會生活の改善進歩には要求せられて居るものだ。

現代の都市生活、大きく云へば一般社會の生活状態は餘裕がない、貧窮で不充分で品位がない。公衆の努力が生み出す富を賢明に經濟的に社會事業に投ぜられたらば斯うしたことも有るまいと思ふ。財産價值の騰貴は公衆の努力と需要の生む所である。故に社會共通の不自由を充たし、共同生活を豊富ならしめむ爲めには之れに課税するのである。即ち國家は相當の課税を以て其財産を繼承するのである。斯くすれば恐らく一般消費標準を向上せしむる大なる援助となるであらう。蓄積せ

る富に遺産相續税を通じて累進的課税法を適用する所以は、公衆の權利を前述の如く主張するのが當然でもあり又便宜でもあると自然に承認して居るからである。累進的所得税も同様である。此税法は富者の收入中、資本の過剰を扶けて更に増大せしむる如き恐れある部分を割きて公共事業に使用さす様に鹽梅してある。

地代と地價にも、其調査の届く限り、直接累進的課税をすれば即ち吾人の説く政策と一致することにならう。經濟學者は凡て個人的投資者にして其「貯蓄」を資本化するものには、其貯蓄の市價を保證してやる必要があると主張する。(市價を保證するとは、生産の諸方面に充分の資本を流入さすに要する利益の最小限を保證する意である)。併も彼は其必要限度を越ゆる配當税を是認せむとして居る。斯うした純然たる經濟原則は之れを適用せむとするも實際政策の斟酌から無論棄却せられらう。目下「自然」收入の多くの要素が殖えて來るのは、評價の道の立たない個人營業の方面であるが、共同の會社などでも新株増加、賞與配當、その他利得隱蔽手段によつて重課税を忌避する可能性のある事は、爲政者にして經濟政策を念頭に置くものの考量すべきことであらう。經濟學者をして云はしむれば、是等收入の要素は追及し得られる限り追及して課税の對照とするも差支ない。それ等は公衆努力、公衆需要の生み出したものだからと云ふであらう。併し如何なる程度に追

及するが一番良いか、又如何なる方法で追及するが一番良いかとなると、これは政治問題であつて、經濟學とは全然別れて仕舞ふのである。

斯うした實行上の制限はあるとしても尙經濟學説が累進政策の扱べき途を明かにした功績は没すべきではない。

若し一般の人にかの經濟原則が充分に徹底して、課税の方法は如何あつても結局それは經濟的借地料獨占による巨利、其他個人収入の「自然」的要素の上に落着く傾向を以て居ると云ふことが一旦呑込めでは仕舞へば、累進的課税法によつて公衆財産の引受けをするのにも是迄よりずつと迅速に秩序立つたことが遣れるだらう。

(一)此傾向は勿論多くの場合種々と妨げを受ける。借地契約だの何んだのと約定の功果についての事もあらう又種々の喰違ひも出て来るだらう、その爲めには自然課税が上述の如き嚴重な「經濟的」な設定も出来ないかも知れぬ、そして一時は殆んど負擔に堪へぬものが新税を負はされる様な結果にもなるだらう。それにしても實際的政策家は、借地料に對する租税設定に要する時間を餘りに長く見積り過ぎる傾向がありはせぬか。

四 労働階級の増給運動

救済策として採るべき今一つの手段は、各種労働階級が協力し、其團體の力によつて國家收入一部の増加を強要するのである。其得たるものは之れを使用して彼等の消費標準を高めるだらう。有力なる労働組合組織によつて彼等は賃金の値上げが出来る。消費組合によつて其賃金を一層經濟的に使用することが出来る。團體の特權を利用して教育經濟の均等なる機會を得、現在労働界後衛の進歩を阻害して居る無智と困窮に陥るの危険を減少することが出来る。多くの職業に於て、其利益取得の少ない事が、労働組合の巧妙にして秩序ある値上げ運動を阻止する充分の力とはならない。労働賃銀の値上げによつて能率が高まるなどと云ふ問題は凡て抜きとして、此有力なる増給運動は、課税同様、「自然」収入の要素の上に降りかゝつて来る傾向がある。利得が最小限度に有る職業に於ての増給は地代を低下さす。地代が不足の時は物價の値上げをやつて、爲めに收入に影響を受けな

い様な消費者の頭へ割付ける。

五 消費の増加は貯蓄増加を有効にする

公衆と勞働階級に消費増加を持來さむとする政策は理論上、實際上貯蓄を否定しない事を明かに知らねばならぬ。却つて消費の昂進する毎に勞働に對する需要が増す計りでなく、資本に於ても同様需要が増すのである。消費の標準が一般に高まるに従つて貯蓄の需要は増して來る。消費が高まつて始めて貯蓄増加の經濟的効力が生じて來る。増加せる貯蓄は之れを以て増加せる要求を満足せしめる手段とする。私の論の主眼點は、有効なる貯蓄の増加は皆消費の増進による事を明かにせむとするのである。

新慾求が満足を求むる叫びの絶えず聞かれ、人の金使ひも荒い國、米國の様な處では、有効な資本の増加も亦一番大きいのである。

六 時間短縮が消費に及ぼす影響と、生産高に變化なき場合

直接・間接に同一目的——一般的消費率の向上を助成する爲め、時間短縮運動も同様に行はれなくてはならぬ。之れが凡ての職業、凡ての場合に適用出來ぬのは事實である。八時間勞働の要求が其論據とする、失業者吸収の如きは一般に適用が出來ぬ。ライ氏などの説ける如く、職業の多くは時間短縮によつて仕事が壓搾される計りだ。今迄九時間乃至十時間でやつた生産高が八時間で出來

ると云ふまでだ。斯うした仕事の緊張又は機械と方法の改良等によつて時間短縮はしても前同様の生産をするに云つた場合は凡て、失業者の吸収にならぬから、仕事の總量には直接の影響がない。多分斯うした結果にならうと云ふのは、若干の炭礦・製鐵工場、又機械其他の製造場中機械が完備せぬか又は手一杯の運轉を差控へた様な處、又大部分の分配業——等に於て勞働時間の短縮をやつた時である。上記の場合には時間短縮も恐らく以前同様の生産高を示すであらう。

七 時間短縮によつて生産高を減ずる場合

併し他の多くの職業に於ては時間短縮によつて生産力の消失となるものもある。生産力の消失に附いて起つて來る場合が三つある。第一、日給を減じ、従業者の數を増加し以て以前の生産高を維持する。此場合には勞働階級の總消費高は増加せぬ。仕事の總量も増加せぬ。只單に以前の仕事の總量を更に多人數に分配した計りだ。工場仕事の様な職業で、勞働組合が延長時間反對の決議を實行する能力と意志があれば、前述べた様な場合が確かに起つて來ると考へられる。處が失業者の全部又は一部でも吸収すればそれだけ勞働機關を強固にし、傭主との折衝に於て職工の立場が有利になつて來るから、時間短縮の爲め生産高は減退を見るべき性質の職業でも、短縮と共に日給賃銀の

値下げは爲し得まいと思ふ。減少せる生産高に對して前同様の賃金を支拂ふとしたら結果に二つの場合が出て来る。

八 時間短縮の損失を利得から支出する場合

まづ利得が、資本運轉の維持に要する最小限以上の餘裕ある場合には以前の生産額は維持せらるるだらう。割増賃銀は其利得を減じて支拂はれる。斯くすれば、課税を受くべしと説いた獨占利得その他「自然」収入は割増賃銀となつて労働者の手に渡つて来る。職工は普通「八時間労働」にしても又外のことにしても、生産上の損失は皆利得から支拂ひ得るものだと思つて居るが、之れは左様思はれる丈け一般に適用は出来ない。けれ共尋常の場合、此「損失」に堪へる能力があり又實地堪へても行くだらうと思はれる職業も無論少くはない。斯うした場合、時間短縮と職工増加の爲め、利得と地代たらむとするものを賃銀に移すとせば、社會消費力向上の直接手段となるだらう。蓋し吾人の説に誤なくば、賃銀の場合は利得と地代の場合より遙かに多額が消耗品に消費せられるであらうから。

九 時間短縮の「損失」と物價の値下げによつて支出する場合

次には別の場合で、競争激烈の結果、利得が少ない爲め損失の増加に堪へぬ、そこで値段を上げて損失を消費者に負はしめ様といふのである。斯うした現象は海外に對する競争のない場合で且又た生活の必需品、でなくば主要の慰藉物の場合に於けると等しく、物價の必然的騰貴が、さして消費に影響を及ぼさぬ様な場合に見られるだらう。時として此説に反對の聲を聞くことがある。斯うした物價騰貴は若干職工の利益とはなつても職工全部に渡つて利益とはならぬ、即ち彼等は消費者といふ立場に立ちて苦しむからと。併し之れは徹底して居ない。

物價騰貴は賃銀に賦課する新税同様な作用をする。其負擔の割合は社會の最も薄給な労働階級を例に取つたら判かるだらう。思ふに此階級の「眞の賃銀」は其賃銀に課税する（物價騰貴の形式としても好い）爲めに減ずることは無いことは容易に考へられる。若し最下級労働者が消費する物價が騰貴すれば賃金は之れに應ずる丈け必ず上がつて来る。同様に生活慰安に充分固定せる標準を持つ他の労働階級に課税の企てをしても拒絶せられるだらう。換言すれば物價騰貴は結局下層の労働者の生活慰安の標準を損ふことなく、課税同様、騰貴値段を支拂得る自然収入に懸つて来る様にな

る。技能職工で其給金高きか、生活標準が餘り固定されてないものは幾分か物價騰貴の爲め苦しむかも知れぬ。併し此損失の増加は大部分結局過度の收入の上に掛つて來るだらう。

十 海外との競争が利得と物價を下落せしめる場合

第三には各國間の競争が激烈で、時間短縮が毎時生産能率の増加によつて賠償の付かぬ職業に於て見る場合である。此場合は、各國間の競争とに特殊の理由なき限り、時間短縮の尋常の結果は微力の競争者をして事業繼續を不可能ならしめ、其職業の生産總高と、仕事の總量に減退を來たさしめる如きである。此場合に於ては、時間短縮を強行すれば（對外政策の續行でない限り）消費量、生産量の兩つ共減少し其職業は損害を蒙る。

時間短縮の普遍的政策に加擔する俱眼の士は、斯かる種類の職業に就いて相當の斟酌をせねばならぬ。此主なる例外と條件を除けば、時間短縮は労働者の經濟状態を鞏固にし、彼等の手に歸する消費力の割合を増加する効果がある。それは直接「失業」の若干率を吸収するだらう。職業の性質乃至状態に事實固有のものではなく、不用の労働大過剰があつて之れを攪亂する處から來たる如き仕事の不安定は幾分除去せられるだらう。夫れは労働市場の充血を幾分か緩和することによつて、

労働組織を一層有力ならしめ且つ労働階級一般の消費率を増進する扶けとなるだらう。

十一 休養時間の増加は消費増進の一條件

時間短縮の間接なる影響も亦重要である。労働時間中有害となる程の激勵を以て之れを償ふ事なければ、休養時間増加は等閑に附した能力を開發し、新らしき趣味を満足さす機會を増加するから生活状態の向上を益々多く刺戟する。新らしく、強き慾求を満足せしめむとの願が絶えず燃えて來るので、そこに倫理的意義が生ずる倫理的意義は、智力の進歩且又た現代産業と生活状態の生める一層有効の共力手段と相待ちて、労働階級が社會の全消費力に更に多く參與すべき主張の實行を有力に頑強に助成するであらう。

十二 「消費増進」政策の摘要

如斯、「失業」を實に廣義なる經濟問題中の労働現象と見る、——現在の消費慾を超過せる生産力の過剰と見る時始めて、各方面に稱へらるゝ各種救濟法の眞價を吟味すべき確實にして實際的の尺度を得たのである。

それは現代の社會改善政策家が自然に取つた進路を經濟的に是認する。經濟的地代、獨占所得を個人の所有より公衆に移すことは、所得稅賦課によるも又公衆が直接獨占事業の機能を擔當するとも、結局社會總消費量の増大を助成することが明かになつた。同様の結果は、勞働階級の賢明なる努力によつて得られる。或は直接賃銀の増加によつて、或は休息時間の増加によつて、社會の富の總量を増加せむとする努力を云ふのである。斯くして其富は賃銀として彼等に來り、之れを消費すれば勞働階級一般の消費率増進となる。

十三 此政策は社會に取つて危險無し

だが、大なる「自然」収入の要素の存在を許容するを欲せぬ人、又は此累進的課稅が過度の蠶食とならむことを恐れる人は何れも餘りに氣が弱いと云はねばならぬ。假りに大なる自然収入の要素は無いとしても、不用の生産力、即ち勞働資本と土地が有れば、地主と資本主に課稅しても其所有から得る總収入は減せぬものと見るのが當然であらう。其故は、此課稅直接の結果として一般消費を増加するのであるから、左うした増加は本來の性質上、生産上の有らゆる所要物の使用を増加するであらう。そこで考へられるのは、地代、利息、利得の支拂はるべき資本と土地の分量は以前よ

多くなつて居るだらう、——よしや土地と資本使用の一々の報償は、課稅やら勞働組合の壓迫やらで、自然控目な程度に留まつて居るにしてもだ。全然自然収入の要素がなければ課稅によつて取ることは出來まいから、社會に必要な利息を課せむとする企ては無効に歸する。現代産業組織は非常に複雑だから著者は此處に新稅、又は増給の強要が如何に働くか、その精細なる作用を敘述する事は避けた。だが一旦原理が充分に擱めて、物資の需要が土地、勞働、資本の唯一窮極の需要であると判かれれば、「不用」なる生産力の存在は、社會の如何なる階級も現在の収入を減ぜずして消費増加が爲され得る證據である。消費「増進」政策の合理的なのは「經濟的獨占」の理に據るのでない、全く別個の理由を持つのである。

第七章 復本位制と不景氣

一 營業の二方面——産業的と經濟的

商業界の恐慌、次いで來る不景氣に對して、財政的若くは經濟的説明の數々ある上に、今更斯うした研究の要が無いと云ふのは當らぬ、又彼は重複するものでもない。商業上の富の生産、分配、交換の事實には一々その簿記上の乃ち經濟的の一面がある。商品の經濟的性質即ち所有に變化の起る毎に、貨幣又は信用の所有にも何等かの變動がある。即ち此二種の運動には多少符合する處がある、けれ共餘りに精確な符合ではない。貨幣と信用の總量に變化が起り、其所有配當に變化が起つても、産業上には其量と性質に於て之れに對應する變化が起らぬかも知れぬ。金融市場の作用には之れに似た例が澤山ある。一の會社が成立する。銀行其他の人は信用を製造して若干の人に之れを嫁し、其信用は若干の期間、或種の目的に對して貨幣の作用をする、其際之れに對應する實用的價值あるものを事實生産して居なくても構はずやることがある。實業界に於て之れは非常に重寶なことであ

るが、それにしても斯うしたのは例外と見なければならぬ。凡て堅實な業務に於ては、多くの場合其貨幣若くは信用に應じた價格あるものを生産して置く、そこで此場合兩者の所有配當は相並行して居ると云つて宜い。

斯うした言をなす目的は、次ぎの考へをはつきり立て、置きたい爲めであつた——第一、營業には二方面、即ち産業的と經濟的とがある。第二、營業は（銀行業、金錢業を除き）その事實の一々に現在考察の二方面が有ることだ。或職業、紡績工場若くは鑛鐵所の如きを研究する時、賣買の期限、契約、値段を其帳簿から見に行く場合もあらう、或は又労働と機械が種々の時期に於て原料に作用する模様や、物貨の性質地位の變化を見て行く場合もあらう。何れの途を行つても其職業の組織と作業との明瞭完全な智識が得られる、但し異なつた立場からである。其工場の従業員と會計係員とは大多數その二方面の各一を知つて他を知ること求めない。

二 物價が下落したら如何なるか

此營業の兩面を充分に心得て、双方の關係に就き心を勞するものは支配人丈けである。經濟的方面からは、其職業を現在行はれて居る一個の營業と見る丈けで、單に購入、作業、販賣の事實を調

査し、數字と名稱の記帳をなし、以て産業的方面を設定するに過ぎぬ様に思はれる。此兩者の關係の焦點が支配人の意向を決定するのである。不景氣に勞資の使用減少を直接決定するものは支配人である。支配人達の力が落合つて「失業」が起つて来る。處で支配人が此決心をする動機は何であらう。其眞の致動力は經濟の方から来るのか。支配人を動かす此方策に出でしめる直接の威力は「物價の下落」である。「一般物價」が或標準以下に降ると彼等は「生産を繼續する價值がない」とする。そこで生産は熄み、其結果「失業」が起る。

それなら吾人は此「物價下落」の現象に立歸つて考へて見ねばならぬ。物價は一職業の産業、經濟兩面を結合する鎖である。斯う云ふと直ちに經濟方面の優越を承認する様にも見える、これ物價には兎角通貨を聯想することが強くつて、交換の目的物たる物品と結び付けられる事が薄いから。だが愈々如何して物價の變動が起るかといふ決定的な疑問に到達すると、矢張直接の作用力は産業にあつて經濟ではないと云ふことを悟るであらう。夫れは要するに或時期に於て起る生産高と賣上高の關係の變動から来る。若し生産が増加して賣上高に増加がなければ、貨物は滯滞し物價を引下げる。其作用の鋭敏さは秤と同一であると云つて宜い。反之生産が現状維持乃至減少を示し、一方或期間に行かれ、賣上高が以前より大であれば物價は騰貴する。如何な商人、如何な職業でも、結

局品が從來の價格で總て賣れる限り値段の割引をすることはない。だから物價下落の唯一な直接原因があるとすればそれは、需要に比して供給が増加することである。實地供給過剰は必ず物價下落を誘致すること、之れを措いて他に誘因のないことを承認するのは眞に大切なことである。

斯うした需要、供給の關係の變動が一種の供給過剰となつて現はれる程度が大きい爲めに大なる若くは永續的な浪費にならぬことはあらうが、夫れが如何してもあるには相違ない、少くともあると信ぜずには居られない。

故に政治上、産業上、經濟上の某事件——戦争、保護税法、正貨流入等の風聞が「物價下落」を齎らしたと云ふならば、我等は是等の力が直接の作用に與からず、只供給増加若くは需要減少なるものによつて物價下落に影響することが出来るのみだと解すべきである。そこで財界の權威者によつて、一八七三年以來卸値段が暴落して居るのは金銀貨供給を妨ぐる問題の爲めであると聞かされた時、其所謂貨幣量の拂底が物資の需要、供給相互の量關係に如何様に影響して、供給が需要に對する割合を減するに至つたかを精確に示せと主張するのが正當である。

三 貨幣論は無法なる一足飛びに「不景氣」を説明せむとする

商業界の恐慌と不景氣を論ずる場合、貨幣と物價とを一足飛びに結付ける無法な手段を取るものが普通である。其議論とする處は、兎も角も「貨幣」の量が増加すれば信用増進の基礎となり、信用増進すれば商業上の信託が復活する。信託は企業と一般の活動を確實な地位に置く、そこで勞資需要の増加となり、物價騰貴が次いで起ると云ふのだ。

信託と企業と呼ぶ心的乃至主觀的現象と、賣上高増加なる客觀的商業上の事實との正確なる結合點は常に隠されて居る。復本位主義者は常に貨幣量の増加は之れに對應する物價騰貴を齎らすに相違ないと説く、併し此貨幣量の増加が必ず物資購買をして其購買量を増加せしむる様にするには如何した手段によるのかと云ふに至つては少しも説明の勞を取らない。著者は此處で斯かる結果になる事を否定せむとするのではない、夫れを證明するのは明かに彼等の任務である。

金錢の所有者が之れを個人的に積んで貨幣の増加を來たした場合物價には明かに何等の影響を與へることが出來ぬ。銀行で貯蓄したとしても、割引歩合(日歩)を減ずることによつて始めて活用が出来る、其場合借金によつて購買せむとする人の購求を奨励するから。

貨幣量の増加は、直接若くは信用の擴大によつて、必ず其量に應照した購買高の増加を來すものだといふ説は正確でない。

四 復本位制は消費増進によつて始めて物價を騰貴せしめる事が出来る

併し通貨問題の全部を吐露し若くは貨幣量が物價に及ぼす影響の範圍説を開陳するのは全く無用の事である。要するに、貨幣の増加が物價に影響を及ぼす場合は必ず賣捌品の供給に比し購買量を増進せしめて來る——と云ふ原則を承認すれば宜いのである。若し復本位主義でも、其他財政上の何「主義」でも其作用によつて生産を刺戟し消費と對當にすれば、一般の物價騰貴には恐らく何等の影響を及ぼすことは出來まい。蓋し、若し貨幣の自由流通の結果供給増加と之れに漸やく對應する丈けの需要量(有効需要)を齎らしたとすれば、物價は必ず以前同様に居据つて居るだらう。假りに説をなすものが有つて、商業界に於ては買手は只買つて又夫れを賣る丈けのことである、ところが貨幣が更に自由に、低廉に供給せられて使用することが出来るものならば、生産者が之れを用して生産率を増加し、供給の總量を増加するのみではあるまいかと。之れに對する答辯は、斯うした貨幣の増大せる供給も恐らく物價騰貴に何等影響することは出來ないと云ふのである。只其増大せる貨幣の中、物價消費者が消費増加の爲めに使用せる部分丈けは、供給總量、需要總量相互の量的關係に作用して變化を來さしめ、以て物價の騰貴を齎らすのであらう。故に復本位制は物價を

騰貴せしめると云ふ主張を確證せむが爲めには其制度の左騰者は其制度が有れば消費者をしてその収入中の更に大なる部分を物資購入の爲めに消費さすのであると云ふ事を明示しなければならぬ。だが云ふまでもなく彼等に取つては出来ない仕事である。假りに之れが出来たとしても夫れは生産力の過剰量、即ち消費減退の一條件が前以て存在して居たことを肯定するに等しいだらう。換言すれば通貨状態を以て不景氣、物價下落の原因並びに救済法と爲すの意見は、不景氣を消費減退に歸するの説の正確なるを肯定するに非ずむば其地歩を確守することが出来ない。若し復本位主義者が彼等の通貨制度を以て、消費を刺戟し生産力と消費間の經濟的調節を徹底的に維持するものだと眞に主張するものとすれば、彼等の救済法なるもの、性質を更に精細に考量することが必要になつて來るだらう。併し彼等は斯かる主張をするものでないから其必要も起らぬ譯である。

五 物價下落の原因は供給増加か需要制限か

物價下落の繼續は從來の價格に於ける需要量に對する實際の供給過剰に外ならぬ。故に之れを説明するには或力の作用によつて供給は増加せしめたが、之れに對應する程度まで需要を刺戟することが出来ない場合となすか、或は又夫れが前から需要制限の作用をする場合となすかである。復本

位主義者は一八七三年以後の物價下落を生産費の輕減によつて供給が擴大したのに因ると云ふ説明を否定するから、如何しても他の一方を肯定して、貨幣の不充分なる供給が物資の需要を制限するものとせねばならぬ。此説を是認するに當つて多くの議論を聞くことは稀である。何となれば通貨論者には、物價の變動は第一に供給と從來の價格に於ける需要量との量關係の變動であると云ふ原則を兎角見脱がすからだ。併し復本位主義者の立場は明かに、貨幣の拂底は購買者をして其欲する丈の購買を不可能ならしめると云ふ假説の上に置かれて居る。物價下落の此二個の説明、供給擴大と需要制限、之れは決して反對法則を成すものでないと云ふのは事實である。此双方の力が程度を異にして共に作用することも出来る。だが事業不振に對する此財政的説明の眞偽を吟味する爲め之れを二者撰一のものとして取扱ひたい。著者の立場は、物價を抑壓する力は事實物資の量を増大し一層低廉なる勞費によつて供給する作用を務めて居る、故に賣捌をするには此物資の持主は絶えず値段引下げを餘儀なくされて居るのだと云ふのである。

六 ゴーエルベック氏指數の吟味

此説明の精確なるを頗る容易に吟味するにはゴーエルベック氏の指數表が宜い。假りに生産費の

減少が物價下落の原因だとすれば、商品の種類の異なる毎に物價下落の割合が違つて來ると見て宜からう。それは生産費の減少は一々の場合によつて差異があるから。

反之若し貨幣量が物價下落の主因であれば、凡ての物價下落には一致點があると見て良いだらう。處で實際は如何だ？

ゾーエルベツク氏物價指數表

年 度	野菜		肉類		砂糖		食料品		礦物		織物		雜品		材料品		總平均
	野菜	肉類	砂糖	食料品	礦物	織物	雜品	材料品									
一八七三年	一〇六	一〇九	一〇六	一〇七	一四一	一〇三	一〇六	一一四	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
一八七四年	一〇五	一〇三	一〇五	一〇四	一一六	九二	九六	一〇〇	一〇二	一〇二	一〇二	一〇二	一〇二	一〇二	一〇二	一〇二	一〇二
一八七五年	九三	一〇八	一〇〇	一〇〇	一一〇	八八	九二	九三	九六	九六	九六	九六	九六	九六	九六	九六	九六
一八七六年	九二	一〇八	九八	九九	九〇	八五	九五	九一	九五	九五	九五	九五	九五	九五	九五	九五	九五
一八七七年	一〇〇	一〇一	一〇三	一〇一	八四	八五	九四	八九	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四
一八七八年	九五	一〇一	九〇	九六	七四	七八	八八	八一	八八	八八	八八	八八	八八	八八	八八	八八	八八
一八七九年	八七	九四	八七	九〇	七三	七四	八五	七八	八五	八五	八五	八五	八五	八五	八五	八五	八五
一八八〇年	八九	一〇一	八八	九四	七九	八一	八九	八四	八九	八九	八九	八九	八九	八九	八九	八九	八九

一八八一年	八四	一〇一	八四	九一	七七	七七	八六	八〇	八五
一八八二年	八四	一〇四	七六	八九	七九	七三	八五	八〇	八四
一八八三年	八二	一〇三	七七	八九	七六	七〇	八四	七七	八二
一八八四年	七一	九七	六三	七九	六八	六八	八一	七三	七六
一八八五年	六八	八八	六三	七四	六六	六五	七六	七〇	七二
一八八六年	六五	八七	六〇	七二	六七	六三	六九	六七	六九
一八八七年	六四	七九	六七	七〇	六九	六五	六七	六七	六八
一八八八年	六七	八二	六五	七二	七八	六四	六七	六九	七〇
一八八九年	六五	八六	七五	七五	七五	七〇	六八	七〇	七二
一八九〇年	六五	八二	七〇	七三	八〇	六六	六九	七一	七二
一八九一年	七五	八一	七一	七六	七六	五九	六九	六八	七二
一八九二年	六五	八四	六九	七一	七一	五七	六七	六五	六八
一八九三年	五九	八五	七五	六八	六八	五九	六八	六五	六八
一八九四年	五五	八〇	六五	六四	六四	五八	六四	六〇	六三
一八九五年	五四	七八	六二	六四	六二	五二	六五	六〇	六二

第七章 復本位制と不景氣

一八九六年	五三	七三	五九	六二	六三	五四	六三	六〇	六一
一八九七年	六〇	七九	五二	六五	六六	五一	六二	五九	六二
一八九八年	六七	七七	五一	六八	七〇	五一	六三	六一	六四
一八九九年	六〇	七九	五三	六五	九二	五八	六五	七〇	六八
一九〇〇年	六二	八五	五四	六九	一〇八	六六	七一	八〇	七一
一九〇一年	六二	八五	四六	六七	八九	六〇	七一	七二	七〇
一九〇二年	六三	八七	四一	六七	八二	六一	七一	七一	六九
一九〇三年	六二	八四	四四	六六	八二	六六	六九	七二	六九

一八七三年から一八九四年までの下落の割合を見ると各項が互に大きな又各種各様の差異を示して居る。それ計りでない、此期間を通じて是等の變動を見ると、只一個の原動力通貨量によつて全部が支配せられると假定する場合、如何しても無くてはならぬと思はれる様な一般的の規則正しさが無いのである。更に其數項を分析して見ると其組成の品毎に價格の變化は一般の下落の傾向には追従しながらも千差萬別である。其各項の組成分子を詳細に分析すればするに従つて物價變動の様式は益々雜多になる計りだ。之れは通貨量によつて物價が下落するとの説明とは兩立しない。之

れを物價の變動が供給増加に因るものとして、其供給増加は製造機械の改良、運輸其他各種物價の製産費節減に刺戟せられた結果だと云へば、びたり一致して来る。一致する計りでない、物價の變動が供給増加によるからこそ斯うした現象が如何しても出て来るのだとも云へる。

七 「信託」の缺乏は根本原因でない、一徴候のみ

復本位制其他の貨幣學者が是等の吟味を是認せぬ理由は、物價變動を説明するに貨幣を捨て物資の需要供給量に關する事實を以てするの要を理解せざる處から來て居る。

假説の上に立脚して生産の一般的過剰を否定するから、彼等は不景氣と明白なる資本過剰を説明するに、公衆の信託に影響する貨幣量の拂底を來たす如き原因に頼るを餘儀されて居る。斯うした心理的態度は、如何考へても貨幣學者にはなれなかつた一人の人に尤も良く現はれて居る。ゼー・エス・ミルが「一般物資が捌けなくなつて」一時「一般の過剰状態」を現じた時代の説明を結んだ言葉は此不條理を尤も簡潔に發表したものである。「本論の骨子は、生産又は蓄積に恒久的過剰は有り能はぬと云ふ事を是認するのにある、但し物品を個々に考ふる時にも物貨を一體として見る時にも一時的過剰は有り得るが只それは生産過剰の結果に非ずして商業との信用缺乏の爲めだと云ふ事は同

時に承認すべきである。

之れを讀むと、純然たる客觀的現象、即ち捌口なき商品の過剰は當然最も明かな主觀的現象とも云ふべき信用の缺乏に因るのでと明晰に説いてある。信用の缺乏は捌口なき貨物蓄積の原因にはなり得ない、寒暖計昂騰が日光の原因になれないと同一だ。商業上の信託缺乏の起るのは、物價低落の爲め一般營業利得が減少して、中には有利な値段で賣捌が出来なくなつて挫折する職業も出て來る様な有様で、一般に安全有利な投資界がなくなつたからである。斯うした一般の安値は需要量に對する供給過剰があることを證據立てる。して見ると信託の缺乏と云ふのは資本即ち生産力の一般過剰なる既に存在せる事實に對して主觀的説明を下したものに過ぎないのだ。投資の出来る金を持ちながら之れが提供を拒む人々の心理的態度を説明するには持つて來いの言葉では有るが、一般供給過剰の事實に含まれた産業の充血状態の説明とは少しもならない。

(一)「經濟學上の未決問題」七四頁

八 生産費軽減必ずしも物價下落を來さずとの説は誤れり

此處に今一つ根底深き誤説があつて物價低落に對する通弊的説明の基礎をなして居る。物貨の製

産費軽減必ずしも物價下落の眞原因ではないとの假説是れである。ミルは明瞭に此説を吐露して居る。其説く處は、凡ての職業は物資と物資の交換であるから、供給増加は之れに應照する需要増加の意味が含まれて居る。故によしや其供給増加は供給一單位の生産費減少の爲めだとしても、其増加せる供給の一單位は各々以前同様の値段で交換さるべき筈だと云ふのである。併し此議論は、需要を受くべき可能性あるものは何によらず實地の需要を受ける、即ち凡ての生産力は必ず需要に於て利用せらるるとの假説の上に立つものである。

此説は最近スマート博士によつて再び肯定せられて居るが、博士の言葉は其説の有する誤解を益々明瞭に曝け出して居る様に思ふ。曰く、生産費一般の低下も、單にそれだけでは物價一般下落を誘はぬであらう、何となれば「假りに或職業が機械で節約した丈けを利用して工場擴張を行ひ生産を延長したとすれば、一單位の生産費は減じても生産費總量には減少は見られまい。然し斯うした場合此職業が物貨一單位の取引値段を維持することの出来るのは只供給の増加に伴つて需要の増加する場合に限るのである。併も需要は、恐らく同一歩調で、増加するだらう、若し他の凡ての物資の生産が同じ割合で増加したならばだ」さあこの需要は増加するだらうの假定が不都合である。博士が需要は増加することもあると云へば始めて正しい。凡ての供給増加は其生ずるに従つて需要を

受け消費せられることもあるから。そんなことが實地にあつたとすれば産業各種の時期に於て供給と需要（需要量）の量的關係に變化はない筈だ。又物價下落といふことも無い筈だ。スマート博士は貨幣の拂底に因つて物價は下落すると考へ、他の者は生産費低下によると考へるものがある。だが供給が増加する毎に需要増加があつて之れを消化すると假定すれば貨幣の拂底（そんなものは無いと思ふけれ共）でも物價を下落させることは出来まい。これは如何なる方面の物價でも宜いから更に良く注意して見ると證明が出来ることだ。假りに凡ての小賣商店に一般供給増加があつた、又この必然的な對照としてそれだけ需要が増加したとする、此場合小賣商人は物價を下げ様とはせぬ、其増給商品を従來の値段で賣捌くだらう。貨幣の拂底なるものが物價下落に作用するとせば、需要を妨げて供給増加と同一歩調を取らしめない、即ち供給全部を消化する需要——先刻必然的の法則と假定せられたものゝ作用を打破することによつて始めて出来るのである。

供給の増加する毎に「購買力」即ち可能性需要の増加することは素より事實である。若し此力が働かなければ貨幣の供給に如何様な事があつても物價の底硬さを破ることは出来ない。貨幣の拂底が物價に作用するとしても其可能性需要の幾分を實現することから妨げる丈けのものである。若し物價が果して下落したとすれば、それは其増加供給全部の購買力を持つ人々が夫れを使用せず保留

して居ると云ふことだ。

（一）「經濟學研究」二七五頁

九 物價下落の一原因として貨幣の立場如何

貨幣の拂底は如何なる程度まで需要力の所有者をして其力を抑留せしむるかを研究するのも大切な事である。思ふに此點が貨幣の力の働く處であらう。假りに凡ての交換が直接物對物の交換でありとすれば明かに供給過剩なるものはない、又供給力が夫れ相當の實際的需要を誘致すると云ふ主張も本物になつて来る。需要保留といふ事が有るのは貨幣と云ふものを使用するからのことである。之れを所持すればこそ需要力を不定の儘將來の爲めに留保することも出来るると云ふものだ換言すれば、供給増加に對し需要の對抗不可能となる時物價の下落を見る、貨幣は斯かる需要不足を齎らすに必要な一條件である。併し、事實果して貨幣の「拂底」と正しく稱すべきものが有るとも、若くは斯かる「拂底」が如何にして需要力の所有者に其力を保留せしむる傾向を増加するとも一向に證據立てられて居ない。

貨幣は成程社會的方便である。之れによつて貯蓄過剩も出来れば消費減退も出来る。貨幣と云ふ

ものが有る爲め長期に涉り過度に消費拒絶も出来る。併し此過度な消費拒絶が社會に於ける貨幣量と一致することは證明したものが無い。

貯蓄過剰を社會的見地から考察すれば、之れは若干の個人が物資購求力を將來に保留する努力から來るもので、彼等の蓄積量は社會として資本維持に必要な限度を超過するに至つたからだと既に説いた。斯かる過度なる節約は貨幣の供給十二分なる場合に於て立派に兩立するのであつて又夫れは如何なる場合でも必ず物價下落を伴ふのである。貯蓄過剰乃至消費減退が一般の物價下落に對する唯一の直接原因たることは精密なる研究によつて明かである。貨幣拂底が直接にも間接にも其根本原因たることは證明し得られない。

第八章 失業綻縫策

一 綻縫策の吟味——綻縫策によつて消費増加が出来るか

消費不足が主として個人収入の自然的要素を過度に資本化せむとの企に起因し、然して若し之れが大方失業の直接原因であるならば、之れが救済策は一般消費率の向上を扶くるものを措いて外にない。其根本永遠の救済策に至つては前々章に略述せる増進運動であらう。併し吾人は解説をこゝに止めず、更に進んでは之れを標準とし失業救済、失業緩和の多數特色ある献策を吟味しなければならぬ。

勿論此著に於て是等献策の大部分を吟味することは出来ない、列挙する丈けでも六づケ敷い。併し之れを數項に分ち若干の簡單なる摘要でも記したれば役に立つかも知れない、斯うすれば夫れ等のものが如何なる程度に根本に觸れて居るかと云ふ事が判るから。

二 職業交換所としての労働紹介所

第一に擧ぐべきものは、公共事業の一部としての労働紹介所組織の設立案である。そこでは職業を求めたる労働者・人を求める傭主の姓名と希望を記録して、双方の談合に便宜を與へやうと云ふのだ。此種の機關が有効に働けば、仕事と仕事の間の漏泄から來る「空費」の分子を最小限まで減ずることも出來やう（斯うした空費は組合組織の不完全な職業に特に多きを見る）又傭主の方では適當の人を求めたる爲めに現在負はされる様な骨折と時間の損失をしないで新計畫を遂行することが出来る。そこで如何しても産業に活氣が出來て來る。労働者側では、現在仕事のない然し需要増加の傾向を持つ或種の労働に能力のあるといった者が今よりは迅速有利に其能力を利用することが出来る。こんな具合で労働紹介所は労働に對して更に大なる流動性を與へることが出来る。そして組合組織不充分的職業に對しては、訓練あり秩序ある職業に於ける労働組合の如き重要任務を盡すことにも成らう。若し幾多の労働紹介所を各地方に設立し、同一なる一般法則に基いて處理し、相互に絶えず密接の連絡を保てば、一種の労働紹介所の組織が設立される譯であつて、其爲めには漏泄若くは小失業から起る空費を最小限にまで減ずることが出來やう。斯うした事業は産業界の秩序

を助成するだらう。又労働需要界の變動の範圍と性質などを明かにするか知れないけれども夫れと同時に労働紹介所組織は決して失業者問題を根本的に解決する扶けとはならぬだらう。仕事の間隙を幾分か更に容易に充たす力必ずしも従業總量を夥しく増加する力ではない。よしや労働紹介所が其依頼者の多數に一時仕事を見付けてやつたにしても、社會の仕事の總量が増加したとは云へない夫れは労働紹介所で推擧した求職者を採用した爲めに他方に拒絶され又は撰擇されず矢張失業の儘の者が出來るとも云へるから。通常労働過剰が極まつて有るやうな職業では、労働者傭入の便法が設けられたからと云つて従業人員が増加すると極めることは六ヶ敷い。只撰擇の手續が一層細密になる位のものだらう。

假りに傭主と被傭人とを近ける組織が無い爲めに若干量の生産事業が目下未だ着手を見ぬとしても、それは労働紹介所が出來た爲めに生産能力を少しは増加するかも知れないと云ふ丈けのものである。蓋し事業界不景氣の時期は素より、尋常の場合に於ても多數の職業には生産力の過剰があるから、労働紹介所の盡力によつて生産増加が有つても之れに對應する消費増進を伴はねば經濟上夫れは不得策なのである。或町で目下建築中の家屋が借主の数を超過して居れば、仕事の正味な増加を繼續することは労働紹介所の力では出來ない、之れ労働紹介所は建築者に必要な丈けの労働を従

來より一層容易に供給するので家屋の建築は夫れ丈け早く出来上るからだ。假りに同一状態が到處の都市で起つたとすれば、單に労働交換所組織丈けでは如何に經營が巧くても長きに涉つて仕事の總量を増加することは無い。「漏洩」と労働排除から來る空費の防止手段も生産力一般の過剰のない社會に於て始めて本當の効力があるのみだ。

三 小浪費の驅除

労働紹介所が交換所として立派な働きをするにはそれが懸値なしの労働者と傭主と双方の相談相手であると云ふことが肝要なのは勿論である。此組織は多くの場合其の起りが救濟事業に關係して居るから、其立場が何時までも半博愛的若くは慈善的である。そこで尤も有用な労働者を探がす場合傭主が進んで依頼して來ぬ様になる、若くは依頼しても其期待に背くことになる又技術も能力も優秀な職工が十分利益ある仕事を見出す爲め平常此處を眼指してやつて來ることも無くなる。労働紹介所で其依頼者の職業上の人物なり技術なりを確かめて其中の健全分子丈けを受附けるか但しは總花主義に依頼者全部を受附けるかは問題になる處である。人物調査上の困難が有つたり、又人物調査の爲め自然當人を疑つたりする様な事を考へると全然開放主義が宜い様にも見える。尤も一協

定に對する當事者双方が、其結ぶ契約の内容を理解するに必要な丈けの消息は、之れを蒐集し傳達する爲めに出来る丈け便宜を計らふのは悪くないかも知れぬ。労働紹介所が健全なる事務方針によつて經營せらるゝ重要な公設機關であると云ふ事が到處人口の中心に於て能く承認せらるゝならば、各方面の傭主と労働者にして互に相求めつゝ、而も從來の個人的接近法に飽足らず感じて居る輩は必ず之れに信頼して來るだらう。

労働紹介所は斯うした事業の外に色々重要な機能を持つに至極便宜の地位に在る事は申すまでもない、特に各地の産業状態一般に關し正確な統計調査を發表するなどが夫れである。併し労働紹介所が労働交換事業を徹底的にやる積りならば、兎角それに起り勝ちな慈善的若くは半慈善的救濟事業は擧げて別の公設乃至私設機關に委ねなければならぬ。

「失業者」問題から見ると労働紹介所は或種の空費を驅除して、社會の生産能率を増加する多くの手段の一つである。消費の發達顯著で、生産力の増加を悉く消化し得る状態に在つては、斯うした労働節約法が最大限に利用せられる。労働市場に一般過剰を見る様な産業状態に在つては、斯うした節約法若くは類似のものゝ効能は正味の處最低限度に縮小する。

四 仕事増加策の種々

仕事の量を増加するを目的とした案に色々あるから、其分類法も色々に出来る。或は需要に應ぜむとする仕事の種類によつて、例へば熟練を要する若くは熟練を要せざる、製造業の若くは農業のなど。或は輕減せむとする失業の種類によつて、例へば偶發的の、一時の、若くは恒久的のなど。或は自發的方法を採用するものと、強制的方法によらむとするものによつて、即ち國家的事業か個人的事業かなど。或は仕事の様式を現在の儘に擴大せむとするものと、新様式を創成せむとするものと。その動機を一般の教育とするものと純然たる産業とするものと。

吾人を取つて尤も便宜な分類法は是等の救済案を次の二項によつて分類するのである。

- (イ) 都市に存在する又は都市に流入する不熟練労働者の慢性的過剰の驅除を目的とするもの
- (ロ) 季節的又は職業的變動より起る一時的失業排除を目的とするもの。

五 労働殖民地——刑罰的條件

第一類に當然屬すべきものに農業殖民地其他の労働殖民地建設案がある。様式を異にした幾多の

殖民地が有つて、其處では労働者が主として土地の開墾に従事すると云つた風のものには既に英國にもあれば大陸にもある。そして此多様な組織を更に廣く適用することが屢次唱導せられる。今是等の殖民地を數箇に分類して見やう。

白耳義と和蘭には、乞丐浮浪犯人を收容する流罪地が若干ある。そこでは數千の人が一種軍隊的規律の下に耕作事業に従事して居る。此制度は其組織から云ふとまづ曖昧な授産所と監獄との中間に介在して居る。兩者との區別の主なる點は教育と矯正に一層重きを置いて居ることだ。破壊せられた品性に健全な道德的産業的基礎を與へる試みが爲されて居る。労働調査委員會少數意見の報告中には、此種の労働殖民地が英國にも建設せらるべきことを切言して居る。

労働上の癡者、即ち規律正しき労働に堪へなくなつた不幸な者共な爲めに吾人は實驗的労働殖民地の建設を歓迎せねばならぬ。これには最も嚴重な管理を施す。そして此處へは何人でも來るを拒まない、そして或期間再び労働者として立つに極めて適當と信ずる精神教育、實業教育の課税を修めることを許す様にする。所謂「頑丈な乞丐」と浮浪者の處分には斯うした手段が、現在行はるゝ方法即ち折々の禁固などで其數を減少せむとする如きものに比し確かに一步を進めたものである。此方面の細心な試みは眞剣に考量すべきである。浮浪階級、強壯な細民階級が不熟練労働市場から來る

癩瘡の爲め何時まで経つても数が減つて行かぬとすると、彼等の處分案は「失業者」問題と關聯して來る。併し斯んな人々を勞働階級の中へは數へられ兼ねるから、其救濟案は失業なる痼疾其物の直接な根治法と云ふよりはむしろ其疾病の一徵候に對する姑息的療法だと考へなければならぬ。社會が寄生的乞丐群の汚染から出來る丈け救はれることは明かに望まじきことではあるが、其浮浪人其強壯な無頼漢の發生を助長する如き、不熟練勞働者失業救濟上の缺點を除去する方法が講ぜらるゝに非ずむば、彼等に刑罰的に與へらるゝ公共的職業も之れを失業問題解決の直接若くは重要な貢獻と見做すことは出來ない。

六 細民救助の農業殖民地

前述の如き都市は我國感化院制度の一施設の積りで内務省が實施した仕事であつて、是れは一層人間的な一層合理的な刑法の顯はれと見て宜いと考へられて居る。又一方では貧民救助會事業の一分化として前者と其經營も法式も餘り差異のない殖民地が發達して來さうにも思へる。貧民救助委員會は菜園なり小農場で多少の農業を行らせて（非常に有利と云ふ程ではないが）授産所の野菜其他の食物を得て居るのである。だから更にきつぱり一世帯別構へになつて、其處へは撰良の細民勞働者を送れるし、又そこでは有りふれた養育院式の癩痺的感化も無い代りに、彼等を一層生産的に利用し且訓練し、次第に能力を高め獨立を得せしめる様にも出來やう——と斯うなれば、それこそ一層進歩せる貧民救助法の正當な顯はれである此處に記憶すべきは、斯うした手段を行ふ爲めに何等法律の根本改正を必要とせぬことである。貧民救助委員會はチオーチ三世とウ井リアム四世の成文律によつて、職業供給の目的として彼等の組合の一管區毎に五十エーカーを享受し且つ專用する權能を得て居る。地方自治總務者が規則を發布して是等委員會の歸向を定める丈けで彼等は直ちに活動を開始することが出来る、既に若干の委員會は此試設案に就いて考量中である。

のみならず委員會が其試設費を自身で支辨するを欲せない處は、慈善事業家が此仕事を引受け様と待つて居る。委員會は總務省から既に許可を受けて居るから、強壯な勞働者を私設農業殖民地に送り、そこで彼等に勞働の訓練を受けさせることが出来る、又其送つた一人毎に其生活費の中一週五志を支給する權能もある。ハドリイ農業殖民地でも、ハズス氏個人としても右の條件で細民を引受けて既に各自の農場で訓練的勞働をやらせて居る。

七 チャールス・ブース氏案「乙階級」救濟の勞働殖民地

前節の計畫は人道主義の立場に於ては相當注意に價するものであるが、「失業者」問題に取つては其一端に觸れるに過ぎない。是等は寧ろ我國刑法・貧民救助法制度の人道化なる重大問題に屬する成程自由の産業社會から、その厄介もので常にその汚恥たる若干の寄生虫を引放し、進んでは彼等の爲めに其生活を整頓し多少慰安、教育、自尊に注意を拂ふ様にしてやつたらば、現代文明の一大汚點を抹殺し得ることにもなるだらう。然し是等産業界の無能力者の多數を變じて社會の獨立者とすることは恐らく出来まい。而已ならず彼等が如何に立派な能力を備へて再び不熟練労働市場に引戻して來ても、必ず過剰を誘起する。そこで仕事を獲るには他人を排除した後のことだと云ふ事實を記憶せねばならぬ。

最下階級（ブース氏の所謂甲及び乙階級）の最無能力者を採つて之れを丙若くは丁階級に變ずるとも失業問題の解決は出来ない、其壓迫を充分に減退せしむることも出来ない。無能力なる乃至稍能力ある不熟練労働永遠の過剰は矢張避けることが出来ぬから之れが失業問題となつて「義侠的」救済法に挑戦する。チャールス・ブース氏は是等階級の夥しき過剰を承認し、労働殖民地制度を從來且つて見ざる程度にまで擴張せむとするの案を提唱し其可能なることを説いて居る。氏の細心な試設案なるものは社會的一大排水計畫であつて、氏の所謂「乙」階級が網羅する不規則な無能力な薄

給な労働者の全部若くは大部分、夫れを頼りにする家族を一切無くして仕舞ふと云ふのである。

「つまり私の考を簡短に申述べるなら、是等の人は産業團體をなし家族制度を採り、土地と建築材料の安價なる所には何處にても其設立を許されなければならぬ。衣食住に不足なからしめる。且教へ且訓練し且働かせしめて朝より夕に到る。其仕事は或は戶外或は室内或は彼等自身の爲めに或は政府の爲めに。——彼等の住宅建築、土地開墾、衣服若くは家具の製造に従事する。其仕事に對して政府は材料其他必要品一切を供給しなければならぬ。斯うした立場からすると國家に取つては恐らく此仕事は非常な高價なものになり、又夫れ丈け損失になつて行くだらう。其損失が如何なる程度のものかは此制度を試験的に經營して見て始めて判かる話だ。外部との競争は全然有るまい。只政府は其手許に是等の人を持つて居るから彼等の勞作から必要な丈けの價値を引出すと云ふ丈けのことであらう。彼等は國家の從僕になる譯だ。併し計算を明かにして置かなければならぬ、それが爲めにはする仕事は市價に應じて見積を立てなくてはならぬ。尙進んでは、公平な比例を以て各自に勞銀を賦課し、之れを貸方に立て、置くも宜からう。斯うすれば團體相互の働振りの比較も出来る、又同一團體中の個人間若くは家族間の儲ける比較も出来る譯だ。すると不足額補助配當計算も各自比例的に出来る。否、國家が世話料若くは利息を求めなければ配當の剩餘が出来て來るかも知

れない。これがつまり彼等をして世間に浮び出る路を開くことにもなるのである。又國家の負擔する其時々不足額には一定の限度を設けて置く必要がある。或家族の會計が此制限點に達すれば、彼等を養育院に移す。其處での生活には彼等は最早一家族として見られないことにする。』

(一)「人々の生活と労働」二卷、一六七頁。

八 「社會的排水」工事實施の困難

此案が流刑殖民地、細民殖民地と全然異なる二點は、第一に殖民地の團體員は參加が自發的な事を前提として居るから、強制的に殖民地へ送らるゝ場合の如く苛酷な懲戒的方法はなくて済む。第二に、之れは家族を社會の一單位とするから、此試みが事情の許す限り、自由團體たるの主旨を失はざらむことを力める。

斯うした計畫を廣く且有効に適用せむとする際起る困難は非常に大きい、英國の如き國家に於ては恐らく打破することが出来ないかも知れぬ。其困難の主なるものを列記して見やう。

(一)都會の「極貧者」の家族は、其古巢なる貧民窟の環境を捨て、幾分でも規則的労働を要する更に秩序的な生活に入ることを喜ばぬ。

(二)斯かる團體の團員は、如何に親切な優しい規律でも、「殖民地」の者と外界との交際を隔てる様なものには服従が出来ない。そう云ふことになれば自發性殖民地の人口は減る一方になる。

(三)國家の支出から云ふと、全家族をも扶持して行く場合が獨身者のみの殖民地に比して遙かに多額を要するのは勿論である。其上に人口が「減少」する傾向があり、其結果出来上つた仕事に無駄があるから、國家の支出はいやが上にも増して来る。

斯うした殖民地の原則は自發的と云ふ事だ。之れは實際に致命的障礙である。此階級を現在維持して行く爲め社會が負ふ處の直接間接の巨額な費用を相當考量の中に入れて見るとその自發的の原則は公衆の支出より更に致命的と云ふのである。併し是等の實行難を論外に置けば此案は經濟上立派なものである。即ち斯うした團體が上記の原則に基いて維持が出来ると假定すれば同時に二つの大きな利益がある。此階級自身の力に及ばない人道上の保護と物質的慰安が其一つである。無能なる未熟労働者の過剩軽減之れ第二である、斯くすれば其除かれた階級の今一つ上に立つ労働階級は其の産業上社會上の地歩が非常に強固になるだらうから。

九 獨逸、和蘭の自由労働殖民地

ブリス氏の原則に對して充分な實驗が行はれたことは私は知らない。申込者を悉く收容する労働殖民地は獨身者に限られるのが大部分で、一時凌ぎの稽古場になるのが多く労働市場過剩救済の永遠的設備ではない。斯うした性質のものに廿六ヶ所の獨逸労働殖民地がある。是等は誰れに向つても開放せられて居るが、純粹な労働者の大部分は事實之れを避け、之れを利用する主なるものは前科者で是等殖民地人口の七六パーセントを下らない。此殖民者の約半数は一時的救済を求むるもので其餘は殖民地から殖民地へ漂浪するものである。是等殖民の一般に及ぼす經濟的效果は殆んど皆無である。夫れが労働市場には何等の影響を持たぬ理由は、無瑕な労働者需用不足の問題と交渉がないからである。

和蘭のフレデリキスード、ウ井ルヘルムスード、ウ井ルヘルミナスードの自由労働殖民地はブリス氏の提唱に一層近いものであつて、家族を承認し、其住民に永久住宅を提供し、其子弟を教育する。農業が主たる職業であるが、更に幾多の補助事業が附加されて居る。敷物製造、鍛冶職、裁縫、大工、煉瓦製造、バスケット製造、家具製造等である。併し和蘭の此殖民地は、労働殖民唱導者に大なる希望を抱かしめる程の成功は見えて居ない。人口は一八七三年よりやゝ減少して居る只子供の數丈は増加の傾向があつて、彼等は外界に送られても再び此殖民地へ歸來するが、之れは永久細

民階級を養成するの危険がある。此危険こそ斯うした方法を一層廣く適用せむとする場合に最も慎重な考量を要する點である。一家族が和蘭慈善界より受くる扶助額は年平均約二十三磅で、之れは土地工場等に投じた資本の利息をも含んで居る。

十 スタンスワイトの試験的殖民

無撰擇に凡ての人を受付ける殖民地に、労働者の能力増進なり、職工的品性と位置の充分な改善を望むことは殆んど出来ない相談である。兎も角も英國で一番有望な實驗は農業勞作から排除せられた若くは既に都市に沈澱して居る不熟煉労働者から充分に撰擇をなすが如き試験であらう。目下既に其事業に着手したものと、ウエストモアランド州スタンスワイトに於ける内國殖民協會の試設は其經濟的組織及目的の點に於て最も興味あるものである。婦人を許容し、家族生活を承諾すると同時に移民者に就いて若干の撰擇をする。そして其主眼とする處は放任すれば過剩市場に仕事を争はなければならぬ労働者を糾合して團體を組織し、外部から多少資本の援助を與へ以て其労働を使用して自營的社會を造らしめ様といふのである。

然し此糾民地は目下試験的狀態にある。夫れは經營の困難が多かつた爲め其當初の發展が非常に阻害されたからである。そこで人員が今日迄の處餘りに僅少であるから、自營の目的が如何な程度

まで實行せられるものか吟味出来兼ねる。

此殖民の主眼たる撰抜労働階級の家族が集つて自營共同の一社會を組織し恒久的殖民地たらしめむとする目的は、一時救済を目的とする自由殖民地に起る多くの阻害からスタンズワイト殖民地を救ふものである。故に若し永住と共同精神が更に大規模の人口に於ても成立するものとせば、それは實に有益なる教訓を與ふるものであらう。

十一 ハドレイ其他の教育殖民地

労働殖民地の尤も大規模な例、もつと八ヶ間敷云へば聯合労働殖民地であるが、其直接の目的として失業者を救済せむとするものに救世軍の試みて居るものがある。事業は昇降機工場と農業殖民地で二つ共ハドレイ市にある。家族を全然基礎とせぬ個人を根本としたもので、獨身申込者に限られて居る。工場従業者の申込に對しては全然撰抜はしない、労働紹介所に申込んだが他に口が得られなかつたといふ程のものは全部引受けるのである。但し一旦採用せられたものは若干の労働試験を受けなければならぬ。之れが引續き足を留める條件になる。或不景氣の時期の架橋的事业になるのは別として此工場の主なる用途は、その農業殖民地へ徐々に進むに適した人間の撰抜をするのにあ

る。又同時に更に健全な更に充實した産業、殊に農業方面の訓練を受させ様と云ふのである。そこで、工場は主として救済機關として活動し、或時期に留まつて居たものゝ大部分は再び臨時労働階級の中に吸収せられて行く。ハドレイ農場に志願する者などの中から若干名を撰抜して、農場の係員が更に最後の撰抜をするのである。又若干数は昇降機工場を通過せずに這入るものもある。此試験の成績を測定するのは甚だ困難である。其最初の年頃（一八九一年から一八九三年まで）は收容者の大部分が非農業作業に従事して居た、例へば煉瓦製造所や、防波堤、堤防工事若くは製造業であつた一八九三年以後は農業方面に更に意を注いだ爲め其殖民地の純經費は夥しく減少した。

有益な教育並びに回復事業は確かに行はれた。併し此殖民地の極度な活動は労働の捌口として計畫された海外殖民が愈々實施せられた曉でなければ確知することは出来ない。目下の處は只其收容者の少數丈けが長期に涉つて足を留めるから、此殖民地を以て社會排水組織の重要な部分と考へることは出来ぬ。

ハズル氏が自助移民協會の仕事として建設した農物の規模は之れより小さいが、一層細心な秩序を立てた教育的のものである。其實際から見ると未熟労働者は如何に注意深く撰抜された場合でも、非常な經費を投じなければ農業教育は出来ぬと云ふことを立派に結論して居る。（尤も移民の相

當な人數が新世界で立派に遣り出した様に思はれるけれども。

大陸の二殖民地で、撰拔せる強壯な労働者を訓練し利用するを目的としたものに、白耳義ヴァーテルの殖民地、巴里に近きラ、シャルメユの殖民地がある。その報告は双方同一の歸結を示して居る様だ。即ち斯うした殖民地は多額の経費を拂つて始めて維持の出来るものであると。

十二 メーサー氏の教育並びに農業殖民地計畫

現在各方面の證明らかして、事業の目的は教育的でも生産的でも、殖民地は自ら撰擇の何れを問はず自營又は半自營は出来ないと言ふ事が明かになつた。一旦左うなつて見ると、社會は此種の「失業者」救済法の効能を判断し得る立場にあるだらう。不幸にしてメーサー氏の如き立派な社會改良家が（メーサー氏は今日迄に見る事の出来た最も經世家らしい立派な計畫を立て、居る）。矢張り次の様なことを考へて居る。「強壯なる人の労働は何れも、充分の指導と事情の下に置けば少くとも其生活費に等しき價值に變ずることを得る」と云ふのである。メーサー氏設計の農業教育殖民地はざつと次の様なものである——協會は國家の貸附金を以て各協に教育殖民地を獲得する。そして其土地を以て生計せしめ得る丈の獨身者乃至既結者を收容し得る建築物を作るのだ。主要な事業

業であつて一部は開墾の曉に耕地となるべき土地を開墾する。又一部は既に農作地となつたものを利用して農業兼搾乳の如き手先き労働、それと主として手先でやる刈入れ仕事をやる。資本の餘り掛からぬ又暇仕事で出来る補助仕事も加味する。之れは農作地方で働らけぬ様な労働時間を利用する便法となるのだ。斯うした殖民地へは、貧民救助會當局の方から、「失業者」階級の人で仕事によつて救助を求め、且つ未だ貧民救助會の救済を受けたことのない様なものを送つて來さす。此殖民地の經營は協會が引受け、若し經費に不足が出来たら貧民救助會で之れを負擔する様にする。

失業労働者階級中品行善良な者を救済して行くと云ふ此組織の長所が三つ有ると云へる。第一に所得の來る所は主として其處に働く人々が一層生産的にした土地からである爲めに、富の内容は増加しても之れが爲め國民の一員も生産的労働を殺がれることがない。第二に、團員と其家族は殆んど全部其人の腕で働いて扶持して行ける。第三に被救恤者たる汚恥が加はることがない、従つて公民權剝奪と云ふことが起つて來ない。

斯うした計畫を大規模にやることには大に辨護説も出て來るだらう。即ち協會が之れを施行する事の困難、又協會と地方自治總務者と貧民救助會當局と聯絡上の困難、是等は整理法さへ満足に行けば解決が出来るると云ふ見込は充分に有ると云ふのである。併しメーサー氏が當然期待することの

出来るると主張する如き財政的結論は一刻も之れを承認することが出来ぬ。氏の提議によると、國家の貸附金は、普通の利息を拂ふ投資たらしめよと云ふのである。併も經營良ろしきことを得ば協會が貧民救助會より不足額支拂の援助を求めずしてやつて行けると考へて居る。斯う云ふ事は期待したとして出来るものでない。教育殖民地の名稱そのものが獨立經營の不可能を充分に指摘して居る。教育事業に自營の出来るものは一つもない。國家は直接金利を戻して來ない金を支給しなければならぬ。貧民救助會當局は年々此殖民地に送る人毎に若干の金額を支拂はねばならぬ——と計畫を立てる。此公金投資の利子として求むるものは金利ではない、或は無形な公益である——若干職工の職工的品性の改善、社會の保護によつて品位を下さず見苦しからぬ生活を營ましめる事、或程度まで未熟練勞働市場の直接救濟——こんなものでなくてはならぬ事を承認して始めて此提議は尤もらしいものとなるのである。

斯んな風の教育殖民計畫（出来る事なら我國貧民救助法組織との直接關係から切り放した）に行つては、勞働を欲するものには凡て仕事を保證し、教育を欲するものには凡て實業教育を施すを以て公益なりとの承認を示す計畫が恐らく「失業者」救濟總策中極めて廣きに涉つて有効なるものであらう。

（一）「失業職工階級に對する仕事供給案」五頁

十三 勞働殖民地に要する經濟的豫防策

斯かる計畫が事實自營的基礎に立つて實行の出来るものならば何等經濟上の困難は起らないだらう。併し是れ計りでなく他の一切の勞働殖民地は公私の財源より補助費を受けることを承認する時は一つの重大な危険が明かに起つて來る。

凡て殖民地の生産品は之れを自由市場に賣捌く場合に外部の英國勞働者の生産品と競争の地位たしむべきでない。殖民地の品は補助を受けて居る爲め自由市場に於ては普通の商業状態に於て生産せられたる貨物より價格を引下げて之れを排斥することが出来る。此安賣の結果として、外部の薄弱なる職業は存續の境界線以下に追ひやられ、從來其職業に従事せる職工は職を失ふこととなる。斯くして折角國庫支辨若くは慈善事業によつて殖民地に得たる「仕事」は一方に於て其救濟量丈けの目に見えぬ失業量を生み出すのである。斯うした状態は理論上普通に承認せられるけれども、實行に於ては多く無視せられる。勞働殖民地に於て其消費する處のもの一切を生産すると云ふ意味に於ては彼等が全然自給的である事は出来ないのである。従つて彼等が生産し得ざるものを自由市場

に求める必要が起つて来る。此費用を得むが爲めに、彼等は其資本と労働を最も有利に製出し得べき物資の生産に専用し、其製品は附近の市場に賣捌かむとする傾向がある。其結果必ず外部市場は溢滞し、物價は下落し、薄弱なる外部製造業者は壓倒せられる。監獄労働、授産所労働、農場殖民地労働は必ず此結果を起す。若し救世軍の燐寸と家具、スタンスワイトの野菜と果物が附近の市場に賣捌かれたらば必ず薄弱なる外部競争者の「失業」を誘致する影響を起すだらう。

殖民地は直接に又故らに物價を下落さすことはないと云ふ議論に依て私の説を破ることは出来ぬ。何となれば其殖民地は供給の増加を援助する譯だが、供給の増加は之れに應照する需要増加の件はざる限り必ず物價を下落さすからである。又是等の職業に於ける物價並びに仕事に及ぼす影響は殖民地が購求する他の外部製品の消費の爲めに起る需要増加によつて十二分に償はれるではないかとの議論が有つて、之れは相當に有力である。即ち是等の二傾向を對照して見ると其成績は消費の正味な増加である。之れは移住者の消費率増進の現はれで、やがて全社會仕事總量の増加となつて反映するであらうと。此議論は正しい、併し之れが爲め或營業の閉止を來し、英國の若干特殊産業に不當な競争の害毒を流すが如きに至つては辨護の餘地がない。そこで此危険を豫防する爲め殖民地其他公設授産計畫の唱導者は、殖民地の労働使用の範圍を制限し只之れを殖民地に於て消費せ

らるゝ物資生産のみとするか、然らずして外界市場に賣捌くとすれば輸入品のみに對抗すべき物資生産たらしめ様とする。

十四 過剰生産品處分上の困難

一個の殖民地がその土地、労働、位置を有効に使用せむとすれば、自然其生産力を專問化し、某農産物某製造品を團員の消費量以上に達せしむるに相違ない。此過剰生産品を、外部生産者に損害を及ぼさずして處理せむとする場合、其困難を最小限に減少するの途は、農村職業に従事するものと、都市の共同事業に力を注ぐものとを分てる労働殖民地系統の設立である。單に二ケの秩序ある殖民地間に於ても、一は都市に他は地方にありとせば、生産品が凡て殖民團員によつて消費せられ得との前提が有れば過剰生産品の交換は出来るだらう。二ケ若くは二ケ以上の斯かる「失業者」殖民地が相結んで完全なる自給聯合を形成することは頗る疑問ではあるが、彼等の製品賣捌きの爲めの外部市場を不必要とする丈けの事は充分出来ると思へられる。彼等自身使用の某々品を外部の市場に求むる必要があつても、之れは何等の妨げとなるもので無い事は勿論である。労働殖民地に於て小規模の試験があつても、有効な傾向可能なることが未だ充分に證明されて居ない。蓋し彼等の

運轉に於て生ずる巨額の不足額は外部市場に求むる消耗品と職業用具等の爲めに生ずるとは云へ、一旦産業生活の互救を特殊の目的とする労働殖民地聯合が成立すればその協力によつて此支出は大分除去し得られるものであるから。

我國は國內消費の農産品大都の供給を海外に仰いで居る。故に其輸入を排除することによつて我國の農産品を處分することは幾らでも出来る譯だ。我國に於て消費する農産品輸入額は一九〇二年に於て一六九、〇〇〇、〇〇〇磅中、穀類、麵粉は七一、〇〇〇、〇〇〇磅を超過する。又搾乳場間接、直接の生産品、牛酪、乾酪、鹽豚、ハム、豚脂、牛乳四八、〇〇〇、〇〇〇磅、鶏卵六、二八四、〇〇〇磅、肉野菜類二九、〇〇〇、〇〇〇磅餘。以上の物資生産を専らにする事の出来る労働農場殖民地は、其補助金による農産物を内國市場に賣出しても、製造品を都市市場に賣出す程直接な悪影響はないだらうと思はれる。然し此場合外國農産品の「斥をやるには矢張値下げによらなくてはならぬ。すると同種類物資の内地生産者は矢張損害を蒙ることにならうと云ふ事は記憶しなければならぬ。若し事業補助金を受くる労働殖民地が丁抹牛酪を排斥せむとすれば勢英國農民中目下國民消費の牛酪の多量を生産する者に損害を及ぼさぬ譯には行かないだらう。農産品でも何品でも殖民地が之れを生産し得るもので、現在全く外國人の手中にあるものは其種類が至つて僅かである。

十五 殖林事業計畫

純然たる營利方針に基く農業改良計畫（國家の補助は有つても無くても）を指して是等經濟上の危険と困難が有ると云ふのでない事は勿論だ。營利方針に基く計畫と云へば其最も簡單で一番恰好の事業は殖林である。シリツヒ博士其他の専門家の見積りに誤りなければ英國は八、〇〇〇、〇〇〇英町の殖林の當地がある。又其六、〇〇〇、〇〇〇英町を以て現在輸入額に著しき材木を産出することが出来る。又、其事業は普通の營利的方針を以て經營が出来、然も多くの不熟練労働者に殆んど年中仕事を供給することが出来様と云ふ。すると之れこそ有らゆる經濟的吟味を満足せしめる事業計畫だと云はねばならぬ。シリツヒ博士の斷言通り經營當時から利益を見るに至るまでの長き年月の間、其經營費に對する復利を見積るも尙二・四分三パーセントの利得ある事業だとすれば、經濟上國家が貸付金によつて其成立に盡力せぬのは虚偽である。更に一步を進めて國家が無利息の資本を下したとしても、成長する材木によつて今日迄全然輸入のみによつて商業が排除せられるとなれば立派に理由が立つてはいないか。「失業者」救濟事業として補助金を交附し労働殖民地を設立するの必要果してあるものとすれば、此山間事業に不熟練労働者の多數を使用するなどがその殖民地の事

業として尤も適當なものであるまいか。

十六 農作勞働増加の一手段として、聯合小作地の設立

又中には英國農業の復活手段として、小借地者の團體を設立しやうと云ふ案もある。一區域に於て若干の土地と資本を貸與し搾乳場の生産品、果實、野菜、豚肉、鹽豚、家禽、雞卵等を市場に賣捌かじめ、相當の收容を舉げさせる様にすると云ふのである。此計畫は、成功の見込があるとしても、當初から既に失業せる者に勞働供與をなすを専らとしてはならぬ。何となれば、失業勞働者と不用の土地があつても、此土地に此失业者を移して果して失業救済の目的を立派に果せるとは云へないからである。熟練せる強壯な農民の團體が自身又は國家貸附の充分な資本を以て立派な土地に移る、其土地を獲得するに餘りの支出をしなかつた。若くは貸地條件は寛大で其占有者の最善な努力を喚起することが出來、之れに技倆の協力を得て生産、運輸、販賣費の若干を減ずることを得るとすれば、此土地に仕事の大増加をしても慥かに利益であると思はれる。併し都會の仕事から排除せられた、若くは都會育ちの勞働者、恩給兵其他一切の失业者に此經營法で土地と資本を任かした處で成功は覺束なからう。併し小農、撰良農業勞働者、田舎職工等となれば、寛大な條件で

借地權の保證を得充分の資本と、智慧と、或目的に協力するの意志ある場合は成功するかも知れぬ。

十七 聯合小作地計畫の説明

次に揚ぐる共同借地組織に基く小農場殖民地の設計はメーサー氏の起草せるものにして、以上増進政策の一説明圖とも考へられる。

「協會は凡て土地によつて恒久的生活を得む事を求むるものゝ申込を受付ける。地主は協會の命により此目的に適用せらるべき農場あれば其詳細を報告する。或農場が一般に適當地と認められると同時に協會は依頼者を召集する。此會合に於て其農場が其全反別を借入れる丈けの人数を得た時協會は臨時評議員若くは理事を任命して依頼者全部の代理たらしめる。評議員は地主と條件の協定をする、又其依頼者に土地の割當て、相當な建物などの問題を決定する。次ぎに評議員は地主との約定條件の委細借地人各自割當て反別、所要建築物の價格等を協會に提出する。協會が此出願條件に承認を與へた場合には、建築費耕地整理費として評議員會に對する國庫金貸附の申請をする。

「國庫金貸附の認可と同時に、評議員は土地を受取り、建築物を造り、借地を各自申込者に割當て

る。申込者は占有権を得るに先立ち、各自登記後六ヶ月以内に於て、圍柵共地主として外屋に関する手入を完成しなければならぬ。之れは借人とし、當然爲すべき必要のあることでもあるから。愈所有権の譲渡を受くる場合に相異なる三機式何れかの条件によるのである。(甲)評議員との間に取結ばれた条件其儘に従つて普通の借地契約に調印するか又は(乙)自己借地上の建物の建築費の少くも十分の一を支拂ひ、其残高を證書面に書入し尙、年四歩利を以て計算せる利息額の記入をもなした後で調印するか(丙)又は全建築費に對し廿五年間毎年六歩の利息を支拂ひ其期限の終りに於て其建築物に對する責任解除を契約するかである」。

十八 共同借地其他の協力的要素

以上の如き計畫は皆其根本の目的として英國農産物の一層増大量を有利に市場に賣捌かむとする營利的野心があるのだけ共、多少失業痼疾に對する治療的影響をも及ぼすであらう。土地に使用する仕事を増加すれば、農村勞働が都市に不斷流入することを阻止し、都市失業の直接救済策として施行せられる他の療法にも増して、却て有効であらう。併し是等農業經營計畫が成功するとしても、只農業發展なる單一の目的のみを以つて計畫を立てることが肝要である。「土地によつて仕事を

造る」ことを直接の目的としてはならぬ。此第二の結果は第一の結果を得て自から流れ来るに委ねなくてはならぬ。最良の勞働を最良の土地に投じ、之れに伴ふて開墾の自由と資本の充實を以てせねばならぬ。共同借地の如き計畫には其根本として相互の助力信頼の意義が含まれて居るから、機械・搾乳場器具・倉庫の使用上に相協力すると云ふことが基礎となるのである。之れが自然運輸賣却上若干の經費節減となり、生産者は現今集金人、仲仕、賣子其他各種の仲介者の懐に這入つゝある利得の大部分を自己の掌中に握ることが出来るだらう。最後に之れも亦大切な事であるが、此小借團體は農業用銀行の發達と共に、資本の支配と事業經營費の融通を獲る事が出来るだらうが之れは産業界の現狀に有つて競争に勝利を得むとするに極めて重要な事である。

十九 經濟的批判——國家對世界政策

失業問題解決策として以上の提案に概括的評價を下さむとするに當り吾人の記憶すべき二個の經濟的見地がある。

第一に、かの農業復活策が海外の農産品其他の排除によつて英國産業増加の目的を達せむとする限り、それ等は純然たる國家的救済策である。若し酪農法の改良によつて、英國製牛酪が丁抹及び

ブリタニア製牛酪を市場より驅逐し得たとしても、夫れは單に丁抹・ブリタニアの仕事の減少によつて英國の仕事増加を見たのである。故に丁抹及ブリタニアの製造家が自製牛酪の價格を減じて、内地にても海外にても新販路を開拓しない限り、失業問題は只場所を變更したに止まる。時として、次ぎの如き抗議を聞くことがある——或種の輸入品の排斥は其代價となるべき英國輸出品の生産業に投入せる資本と勞力を失墜せしめると云ふのだが、之れは正しくない。若し英國農民が其生産を増加して従來の輸入量に達せしめれば、彼等は其代りに従來の輸出品若くは其相當品を得て之れを消費することが出来るだらうから。併し凡ての産業問題には世界的現象が非常の勢を以て益々重大の意義を齎らしつゝある事に思を及ぼす時、英國の農産改良を以て「失業」の最後の満足なる解決と見做すことは出来ない。それは單に英國をして海外の競争者を驅逐せしめ、農作仕事の同一總量中より自ら一層大なる配當に與る事を得せしめるに過ぎないから。私の議論が此問題の伴争であるとする人があるなら、私は例の失業の一般的解説を提供して以上の事實の承認を求めらるであらう。一般的解説とは即ち生産増加必ずしも之れに應照する消費増加を刺戟すべき力を有せずと云ふのである。だから英國農業の改良が英國の土地に仕事の増加を來たし、丁抹若くは他の處に仕事の減少を來たす事が起らぬとも限られない。英國も丁抹も包含する更に大なる世界的産業界に仕事總量の

増加が有る場合は、英國の農業改良の結果此大産業界消費總量の増加を齎らしたことが明かな場合でなくてはならぬ。併も之れを明かにするには英國に於ける消費の増加が示されるのみではなく、更に丁抹に於て消費減退の無いことをも示さなければならぬ。

斯うした考から何も英國農事改良策を中止する必要は更に無いが、只吾人の承認しなければならぬことは、我等の改良も刻密接の度を加へ來る世界的關係の爲め遂には其充分の効果を擱むことが出来なく成りはせぬかといふのである。——凡ての競争區域に涉つて消費率の増進が結局美事に證據立てられぬ限りさう成りはせぬかと云ふのである。

二十 農業復活の利益は主として勞働者の所得たらしめよ

第二の點は斯うである。農業復活計畫が仕事の總量に影響を及ぼす場合、復活の利益は主として勞働賃銀とならしめなければならぬ。それを地主や大資産家階級の所得と地代たらしめぬことが必要だ。是迄に述べた如く、勞銀の増額は多く農村勞働者の生活を高むるに消費せられるが、地代や利得の増加は多くは「貯蓄」され投資されるか銀行預金となつて資本化し、生産力の過剰を生じ、産業界一般の脆弱を來し、更に之れを悪化するからだ。生産増加の計畫は、勞働と資本の使用を増

加する様に思はれるけれども、油断をすると其目的が大部分失敗に歸することがあるから、夫等の生む増加消費力は之れを物資の購求に投ずるが如き人々の手に更に多く渡る様にせねばならない。

二十一 第二義職業即ち復業の提唱

「季節的」又は「職業的變動」に起因する熟練未熟練・労働者の一時的失業救済策の各提唱を記述するは本書の目的とする處でない。是等の一層一般的な綻縫策に向つては一の經濟的吟味を施せば充分であらうと信ずる。

屢次唱導せられる處を聞くに、季節労働者、例へば、ペンキ屋その他の建築物職工が復業を持ち、冬期中之れに従事すると假定すれば、彼等の經濟的地位は非常に強固であらうと思はれると云ふのである。成程單獨に其職業のみを注目する人が此意見を抱くのは無理もない話である。多くの人は一步を進めて論ずる、實業教育組織の機能の主なる一つは、季節的乃至他の變動的職業に従事する職工に復業を授くる事だと。併しよしや其職工個人としては自己藝能の増加によつて大に利益しても、仕事總量が直接此方法で増加するとは見られない。假りにペンキ屋に第二の職業があつて冬期中の仕事を決めるとした場合、彼に如何なる職業があつて何處で仕事を見付けるにしても、其

職業に従事する他の職工を排除せずして行ふことは出来ない。勞働力供給不充分的爲め製品に對する需要増加を十分に満足させ得ない職業があれば兎も角、然らざる限り此新しく供給された勞働は仕事を見出すことは出来ない。新規な生産計畫は其新生産品を有利な値段で消化するに充分な需要増加の無い限り無効である。人々は「季節」職工に對して復業を提唱するが、彼等には勞働供給不十分で季節職工が之れに集まることの出来る様な職業を指示する用意がない。

二十二 公共事業、個人事業に於て仕事の分配を健全にする方策

失業原因の解拆をした際に、多くの職業には仕事の不規律から来る無用の損失のあることを指摘した。多くの場合、法令により若くは其職業の個人的契約によつて、勞働時間と競争者の凡てによつて行はるゝ時間超過に制限を加へるとすれば、勞働需要は更に長期に涉つて分配せられ、仕事は更に規則的になるだらう。が只傭主が單獨に自己の智力と好意から仕事を年中に涉つて更に平均的に分配せむと努力して、例へば修理等の餘業は一般勞働緩慢の時季に差廻すが如き手段を講じたとしても、此方法で多くの實績を挙げ得られない事は明かである。公共團體にしても、其經營が普通の實利的原則に基く限りは、失業者の多數な時期へ繰廻す仕事を充分に増加するなどは出来ない。

公共的事業でも個人事業でも傭主側では、時期に關係を持たぬ仕事をさせる場合、如何しても其仕事に資格のある人間の多く得られる時を撰ぶのが當然である。そこで下水の掃除修繕とか、道路工事、室内修理とかをする場合に、夫れに適當な労働の多く得られる時にやるのが當然でもあり實際的でもある。だから或公共團體が鋭意公共の利益の爲めに活動するとすれば矢張斯うした時期を撰び相にも思はれる。處が公共團體必ずしも實際的でない、そこで地方自治總務省の方からは彼等に警告を發して、眞の經濟的原則に立歸つて其事業を遂行すべしと教へる、誠に當然のことである。然るに此中央政府からの警告に對して都市當局が餘り注意を拂はぬのは、歸する處彼等は既に職業界緩慢の時節に仕事供給の爲め當然盡すべきは盡して居るとの自覺に基くのもあらうか。

二十三 公共救濟事業の解説

普通の公共事業に見る上記の如き實利的性質と救濟事業に屬する凡ての性質とは充分區別して置く必要がある。公共團體はよろしく仕事を「供給」せよ、若くは最も好都合の時以外に必要なだけの仕事を提供せよ、若くは資格によつて撰拔せられざる職工に仕事を與へよと主張せられる場合は、明かに其事業を救濟事業と考ふべきで、普通の公共事業と同一列に見てはならない。多數の労働者

が彼等の豫想を許さぬ職業界不景氣に充分備へを立てることが出來ず、又多くの薄給なる職業に於ては季節的仕事に備へを立てる餘裕の無事は今日廣く承認せられる處である。そこで多くの人は主張する公益と云ふ考からすると如何しても公設の救濟機關を組織して、長期の失業に免れ難い困窮と職工的品性の悪化を消滅さす様にせねばならぬと。

二十四 救濟事業の守るべき經濟的條件

此救濟事業組織に當つて必要に應じ守るべき明かなる三ヶの經濟法則が有る。

- (一) 公共救濟事業に使用する労働の生産品は外界労働の生産品と競争の位置に立たせてはならぬ
- (二) 勞銀は外部市場に於て同一職業に支拂ふものより幾分標準を下げねばならぬ。
- (三) 仕事は出来る限り個人の事情と能力に適するものを與へる、例へば速記者若くは寶石細工師に工夫の仕事を與へぬ様にするが如き。

救濟事業によつて不正不經濟な一種の國家社會主義發達に備へむとする人は或は始めの二法則に不賛成であらう。素より凡ての救濟事業は社會主義的である——之れを得ざれば公衆の安全と面目と一致を保つ生活状態に居れない若干の人に、國家が與へむとする一定の社會的扶助の一端だと云